

山口県図書館協会

創立 **100年** 記念誌

山口県内各図書館関係者記念撮影



MEMBERS OF THE YAMAGUCHI PREFECTURAL LIBRARY ASSOCIATION

明治42年、全国初の県図書館協会誕生

山口県図書館協会 創立 1 0 0 年記念誌

2009 年 10 月 3 日

山口県図書館協会



創立 100 年を迎えて

山口県図書館協会長 藤 村 聡

図書館の地方組織としてわが国初の山口県図書館協会が創設されたのは、100 年前の 1909（明治 42）年 10 月 1 日から 3 日間、県立山口図書館の初代館長・佐野友三郎らの呼びかけで、公私立図書館から 38 名が出席して開かれた「山口県内図書館関係者大会」でした。当時県内 46 館の連携協力や職員研修により図書館の事業発展と設置普及を図ろうと、地方協会を結成した先見性と行動力には敬服のほかありません。

その後 1917（大正 6）年に日本図書館協会山口支部と改組されて活動が継続され、さらに、太平洋戦争勃発後の 1942（昭和 17）年山口県図書館協会に再編されたものの、戦中・戦後における混乱の中で活動不能となりました。

山口県図書館協会が再興されたのは、戦後の図書館復興に尽力した県立山口図書館長・鈴木賢祐のもとで 1953 年 4 月 27 日に開かれた創立総会です。日本図書館協会に範をとり、会員は個人会員を主体に、機関会員も公共・学校・大学図書館等の館種を越えた組織となり、地方協会として山口県図書館協会の特徴になるとともに活力となっていました。

県立山口図書館（館長・升井卓弥）が 1982 年に開始した巡回協力車の運行は、県内図書館の相互協力を大きく前進させましたが、山口県図書館協会は 1989 年以降の諸規定見直しによる整備を経ながら、図書館振興をめざす運動組織として発展期を迎えます。

この間、指導力を発揮したのは 1999 年県立図書館長以外から会長に就任した元周東町立図書館長・山本哲生です。現在の「図書館振興県民のつどい」に連なるイベント開催や、『やまぐち 2010 年の図書館像』に繋がる図書館政策づくりに向けた出版活動など、組織活性化に貢献するとともに図書館振興の指針を提示しました。

近年、情報通信技術の急速な進化はまことに目覚ましく、特にインターネットの普及は、県内はもちろん全国的な図書館ネットワークを飛躍的に促進させ、この一世紀間の図書館の歩みを振り返るとき、まさに隔世の感を禁じ得ません。

山口県図書館協会は多くの先人のたゆまぬ努力によって、全国的にも誇るべき歴史と伝統を築きながら活動を持続してきました。関係各位はもちろん会員の皆様、事務局の県立図書館はじめ県内各図書館のご協力の賜物であり、心から感謝申し上げます。

いま、国・地方自治体ともに困難な財政事情のもとで、図書館を巡る環境は非正規職員の増加や資料費の削減などまことに厳しく、課題山積の状況です。しかし県内公共図書館の県民一人当たり貸出数は 47 都道府県中第 3 位の実績をあげ、新館の建設も今後 6 市 1 町で進む力強い動きもあり、図書館に対する県民の支持と期待は大きくなっています。

学校図書館では全国的に次第に広がってきた学校司書の配置が県内では遅れていますが、変則的ながらモデル校への配置が 2 市で始まっており、大学図書館では「山口県大学共同リポジトリ」の構築など学術情報基盤の整備が進められています。さらに山口県教育委員会は「子ども読書活動推進計画（第 2 次）」を策定され、全国的にも 2010 年を「国民読書年」と位置付けて、文字・活字文化の振興を図っていく活動が展開されています。

山口県図書館協会は、図書館の現状に伴い運営も難しくなっていますが、県民の応援や各自治体の尽力を追風に、記念すべき創立 100 年を契機として、子供たちの夢を育み地域の未来を拓く図書館の一層の発展をめざし、二世紀目の新たな歩みを始めてまいります。

『山口県図書館協会創立 100 年記念誌』の刊行にご協力いただいた方々に厚くお礼申し上げますとともに、広く多くの皆様に本書をご活用いただければと願っています。



祝 辞

山口県教育委員会教育長 藤 井 俊 彦

山口県図書館協会が、創立100年という記念すべき年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴協会は、地方では初めての図書館協会として明治42年に設立され、これまで100年の長きにわたり本県の図書館の発展や読書普及活動の推進に多大な御貢献をされてきました。ここに衷心より感謝の意を表します。

また、貴協会が、今日の御隆盛を築かれたことは、歴代役員の方々や会員の皆様のたゆまない御尽力の賜であり、その御労苦に対しまして、深甚なる敬意を表する次第であります。

さて、図書館は、教育振興基本計画（平成20年7月1日閣議決定）において、「いつでもどこでも学べる環境をつくる」ために重要な役割を果たす社会教育施設として位置付けられており、だれもが利用しやすい「地域の知の拠点」としての機能を果たすことが求められています。

県立山口図書館におきましても、多様な県民ニーズに対応した魅力ある図書館サービスを実現するため、図書の整備はもちろんのこと、平成20年に設置しました「ふるさと山口文学ギャラリー」での県内文学作品の紹介をはじめとした各種展示や、県民の方々の様々な活動を支援する各種講座なども実施しております。

また、次代を担う子どもたちの読書活動を推進するため、平成16年に「子ども読書支援センター」を設置し、今春には「山口県子ども読書活動推進計画」の第2次計画を策定したところであり、県立山口図書館の高い専門性を活かして、公立図書館のみならず、家庭、学校、民間読書ボランティア団体等に対する支援を充実し、全県的な推進を図っているところであります。

さて、来年は、「国民読書年」です。県民一人ひとりの自主的な読書活動をより一層普及するためには、貴協会の皆様の御支援、御協力が不可欠です。貴協会におかれましては、この輝かしい創立100年の節目を一つの契機とされ、本県の文字・活字文化の一層の発展のため、御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、山口県図書館協会の益々の御発展と会員の皆様方の御健勝、御活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

目 次

巻頭言・祝辞

目次・写真目次

本文編

第1章 山口県図書館協会100年の歩み	1
第1項 山口県図書館協会結成	1
第2項 日本図書館協会山口支部時代	3
第3項 戦時下の山口県図書館協会	6
第4項 山口県図書館協会の再興	8
第5項 山口県図書館協会の発展期	11
第2章 山口県内図書館のいま	17
第1項 公共図書館の概況	17
第2項 学校図書館の概況	21
第3項 大学図書館の概況	24
第4項 『やまぐち2010年の図書館像』による検証	28

年表編

山口県図書館協会史関連年表	31
---------------	----

資料編

規則1 山口県図書館協会規則（明治42年10月3日）	72
2 日本図書館協会山口支部規則（大正6年11月5日）	72
3 山口県図書館協会々則（昭和17年4月14日）	72
4 山口県図書館協会会則（昭和28年4月27日）	73
5 山口県図書館協会会則（平成4年4月1日）	74
資料1 明治42（1909）年山口県図書館協会関係資料	77
2 大正6（1917）年日本図書館協会山口支部関係資料	80
3 昭和17（1942）年山口県図書館協会関係資料	84
4 昭和28（1953）年山口県図書館協会関係資料	85
刊行物一覧	89
グラフでみる山口県内公共図書館の推移（1966年～2007年）	90

写真目次

1	1909（明治42）年10月1日、山口県内図書館関係者大会記念撮影	-----	表紙
2	1901年1月30日開館、阿武郡立萩図書館（萩市立図書館）	-----	裏表紙 上
3	1903年1月23日開庫、私立児玉文庫	-----	〃 中上
4	図書館振興県民のつどい	-----	〃 中下
5	2008（平成20）年11月3日開館、山口市立小郡図書館	-----	〃 下

本文編

6	大正初期の県立山口図書館新聞雑誌及び児童の閲覧風景	-----	2
7	1962（昭和37）年下松市立図書館、創立10周年を記念して BM「あおぞら号」を運行開始（下松市立図書館）	-----	10
8	「本を読むよい子のまつり」1979年、宇部市	-----	11
9	全国図書館大会、1983年、山口市民会館	-----	12
10	1994年山口県図書館振興大会で選定された図書館振興シンボルマーク	---	13
11	2006年新築移転した防府市立防府図書館	-----	16
12	小学校の学校司書（周南市立富田西小学校）	-----	22
13	中学校の図書館風景（防府市立華陽中学校）	-----	22
14	学校図書館での合同読書会（県立厚狭高等学校）	-----	23

年表編

15	1904年開始された県立山口図書館巡回書庫	-----	32
16	山口県図書館協会を創立した県立山口図書館初代館長佐野友三郎	-----	34
17	1910年創立当時の岩国図書館（岩国市岩国図書館）	-----	34
18	1928年新築の明木図書館	-----	40
19	空襲にあった徳山市街地	-----	45
20	小野田市立小野田図書館BM「むつみ号」	-----	47
21	協会再興時の県立山口図書館長鈴木賢祐	-----	47
22	地区別読書活動推進協議会	-----	55
23	1997年山口県図書館振興大会	-----	65
24	『山口県の未来をひらく やまぐち2010年の図書館像』表紙	-----	68

第1章 山口県図書館協会100年の歩み

第1項 山口県図書館協会結成

【1901～1909】

山口県の公共図書館は、1901（明治34）年開館の阿武郡立萩図書館から始まった。図書館数は、1906年に12館、1907年16館、1908年31館と増加し、次々に開館しているが、これらは、日露戦争の戦勝を記念した図書館開設の動きに後押しされたものでもある。

図書館協会結成直前の1909年10月1日時点で開館していた公私立図書館40館の実態は、蔵書数1,000冊未満の館が17館、上半期の開館日数が100日未満の館が11館あり、一方、上半期の貸出冊数が1万冊を超える図書館は県立山口、阿武郡立萩、村立福川図書館の3館、5,000～1万冊は、村立上関、私立児玉文庫、私立新庄同窓会附属図書館、私立豊浦郡教育会付設豊浦図書館の4館である。この時期の図書館の内容やサービスにはかなりの開きがあり、県内図書館事業の発展のためには、相互協力や意見交換、研修などを行う環境を整える必要があった。

そこで、私立児玉文庫監督杉山富槌、阿武郡立萩図書館長村上俊江、県立山口図書館長佐野友三郎（以下「佐野館長」という）の3名が発起人となって、県内の図書館関係者大会実施を呼びかけた。10月1日から3日間、県内図書館関係者大会を開催、38名が参加した。出席者名簿を地域別に見ると、当時大島郡、大津郡、下関市には図書館の設置が無く、県内参加図書館は32館と報告されている。1日目は、私立児玉文庫杉山監督による講演「通俗図書館の実用的方面」、阿武郡立萩図書館村上館長、村立華南図書館香川政一館長、私立西岐波文庫三井誠之進主管、私立由宇村青年興風会附属図書館田中浦吉会長4名の図書館経営についての発表後、毛利公爵別邸（野田）を見学し、午後5時より日本赤十字社山口支部で記念撮影後、県知事らの出席により懇親会を開催した。

2日目には佐野館長の「米国図書館事情」の講演後、協議に入った。「巡回書庫ノ運用ニ関スル件」、「青年読物ノ調査ニ関スル件」、「通俗図書館ニ備付クヘキ標準書目ノ件」を協議後、今後、毎年会合を開いて研究討議を重ねるため、県内図書館関係者の団体を組織することが検討され出席者の承認を得た。

3日目には、図書整理に関する実習を行い、前日に承認された図書館関係者の組織については、委任された大会発起人により「山口県図書館協会規則」が制定された。第1条で、図書館に関する事項の研究を目的とすることが明記され、目的達成のための事業として第5条で、年1回の総会と講話、研究、討議を行うこと、展覧会、講習会等の開催、図書館及び図書に関する事項の調査、報告類の発行、図書館に関する参考図書及び用具の共同購入をあげている。また、会務を処理する主事一名を置くことになり、その主事に発起人の佐野館長が推された。こうして、先例のない一地方の図書館関係者の団体、山口県図書館協会が誕生した。

また、この大会にあわせて、全国各地や米国の図書館規則、目録カードや図書原簿の用紙などの図書館用品、図書館の写真などが集められ、展示された。

【1910～1916】

1911年3月1日に第2回総会を開催、順次、1916（大正5）年11月18日までに、7回の総会を開催し、講演会や図書館事務の実習会等を以下のとおり実施した。

回	年月日	出席者	講演（講師）等
2	1911. 3. 1 ～3. 2	35 名	『山口県町村図書館ニ備付クヘキ書籍標準目録案』の報告、巡回書庫回付方法改正に関する件の協議、講演「民育と図書館」（小田切磐太郎 山口県事務官）、「古書の印刷及製本」（横地石太郎 山口高等商業学校教授）、「欧米に於ける図書館の状況」（山本美越乃 山口高等商業学校教授）、有志懇親会で渡邊又次郎 日比谷図書館主事講演「図書館雑感」、3月2日 有志協議会 参加10名余。渡邊又次郎 日比谷図書館主事、長岡精二 秋田県立秋田図書館長同席、実務に関する意見交換。
3	1912. 6. 1	40 名	巡回書庫選択目録に関する件等を協議、講演は「英米にて見たる図書館」（三澤糾 広島高等師範学校教授）、「地方改良と図書館」（小田切磐太郎 山口県内務部長）、「図書館の第一問題」（村上俊江 阿武郡立萩図書館長）
4	1913. 7. 1	45 名	午前中県立図書館開館10周年記念式挙行、午後協会総会開催。 講演は、「読書の選択」（眞中直道 山口県内務部長）、「図書館間の協同作業」（佐野館長）「近世的図書館の特徴」（今井貫一 大阪府立図書館長） 同日より3日間山口付近史蹟展覧会開催。 この時、山口県知事告辞中に「各府県中其経費の大なるにおいては東京府を第一とし其館数の多きに至りては実に我山口県の93を最とし」とある。
5	1914. 7. 25	42 名	講演は「全国より見たる山口県の図書館」（藤岡兵一 山口県視学官）、「図書館雑項」（佐野館長）。 また、7月26日より3日間、山口中学校講堂において瀬川文学博士による毛利元就卿事蹟講演会、「元就卿事蹟 防長人著述展覧会」を開催、日々300名の聴講者を集める
6	1915. 10. 17	45 名	講演は「図書館経営上の注意」（野口淳吉 山口県内務部長）、「米国図書館事業の実際」（佐野館長）、その他図書館事業の効果増進協約等の協議、希望者のために図書の整理、出納に関する実習（担当 県立山口図書館司書百村轍弥、書記田村盛一）を行う。
7	1916. 11. 18	54 名	文部大臣祝辞佐野館長代読後、講演「小図書館管理要項に就いて」（佐野館長）、翌19日図書館事務の実習。

この第7回総会では、協会の組織変更、日本図書館協会山口支部設置に関する協議が行われ、決議を次年度の総会まで保留した。



大正初期の県立山口図書館新聞雑誌及び児童の閲覧風景

第2項 日本図書館協会山口支部時代

1917（大正6）年11月5日山口県図書館協会第8回総会を開催し、日本図書館協会山口支部設置にあたり、協会本部との交渉の報告を経て、山口支部設置を可決、支部規則の協定、役員の選挙を行って支部の組織を立ち上げた。翌11月6日、総裁徳川頼倫侯爵らの出席を得て、日本図書館協会山口支部発会式を行った。この時期、県内図書館数は144館に達していた。新しく支部長となった佐野館長は、他の地方部とも提携して図書館事業の進歩、発達を計りたい、独力では限界のあることを成していきたいと挨拶した。

かつて1909（明治42）年、山口県図書館協会を組織した時に、日本図書館協会市島謙吉会長との約束では、会の基礎が固まり次第、山口支部として加入することとし、日本図書館協会から図書館雑誌の無償配布を受けて、県内図書館の希望を募り回覧していた。

山口支部設置を協議した1916年は、佐野館長が、米国図書館を視察した翌年である。1915年、佐野館長はパークレーで開催されたアメリカ図書館協会大会に出席して帰国後の10月に山口県図書館協会の総会で「米国図書館事業の実際」を講演し、11月28日、日本図書館協会九州支部発会式に来賓として出席、「米国の図書館事業視察談」を講演している。日本図書館協会の支部組織は、1915年の九州支部を皮切りに、1917年山口支部、翌1918年新潟県支部が発足した。これらは三大支部と云われ、1918年10月現在で、協会会員数834名中、九州125、山口97、新潟134名となり支部組織は大きな勢力となった。

しかし、これらに続く支部の発足はなく、1940（昭和15）年になって日本図書館協会が地方館界の充実を図るために、支部の充実や復興を働きかけた結果、1941年に、滋賀支部、香川支部が発足したという流れがある。

山口支部が発足した年の12月21日、山口県は「図書館事業の発達を促す」訓令を公布した。この訓令は、未設置町村に対して図書館の設置を、既存図書館に対して図書充実、運営改善を促すものであった。

【1918～1942】

山口支部では、1942年までの25年間に23回の総会を開催、講演や協議会、実習、展示など継続した活動が見られる。

支部の活動を開始して3年目の1920年、佐野館長が急逝し、その支部活動に特筆すべき記録は残っていない。しかし、この年には、佐野館長の米国視察の報告書であるとともに彼の公共図書館論の集大成とも見られる『米国図書館事情』（5月）、また佐野館長に師事した室積師範学校の市毛金太郎教諭の『師範学校教程図書館学要綱』（10月）がともに発行された。いずれも県内外の図書館に与えた影響は大きい。

1922年に開催された支部総会からは、総会の前日に県立山口図書館の司書による実務研修会の実施が見られる。また、1925年第9回支部総会からは、図書館経営に関する研究発表が行われるようになった。明木図書館、山口高等商業学校の発表が何度もあり、その活躍がうかがえる。23回の総会記事で特記されるものは、以下のとおりである。

1926年第9回総会では、岩国図書館が公私立図書館職員の講習会開催を県への要望として議案提出し、可決された。また、1929年第11回総会で、地方図書館振興のために師範

学校生徒に図書館経営に関する知識と実務の指導を講ずる措置、知事訓示に基づいて図書館振興のために相互提携共励することを協会で決議したが、これに対する助成を要望する議案を提出した。

1933年7月1日、改正図書館令が公布され、9月15日、県立山口図書館は中央図書館に指定された。この年、第15回総会時は、県立山口図書館創立30周年記念の行事を同時開催した。

1936年第18回総会では萩明倫図書館が提出した「図書館実務研究協議会開催の件」について審議された。

1940年は紀元2600年を記念して山口県図書館大会を開催、総会を同日実施した。図書館大会では、図書館功労者として岩国の吉川元光子爵、明木の滝口吉継、厚狭の山下美代治の3名に感謝状贈呈、児玉文庫主事浅見栄熊、萩明倫図書館嘱託堀田断蔵の2名を表彰、県立図書館巡回書庫閲覧成績優良施設の表彰等が行われた。

総会の会場は、主として県立山口図書館で開催されたが、支部総会としては最後になった1942年第23回目の総会は防府商業学校で開催された。

講演は県内外の講師により実施、講演の内容に沿ったテーマ展示を行うなどしている。講演の内容からは、啓蒙的なものから郷土史に関するもの、時局を反映するものなど図書館を取り巻く環境の変遷がうかがえる。

回	年月日	出席者	講演（講師）
2	1918.10.17	54名	中川知事の図書館経営に関する訓辞演説、「図書館趣味の養成」（今村正美理事官）、「現代図書館の趨勢と本県の図書館」（佐野館長）
3	1919.10.18	約50名	「図書館教育の特徴」（今澤慈海東京市立日比谷図書館頭）、「思想上より観たる我国の現在及将来」（菰田萬一郎山口高等商業学校教授）
4	1921.11.6	52名	「明治に生まれたる図書館の追憶」（片山信太郎大阪市立阿波座図書館長） 「蓄財について」（作田莊一山口高等商業学校教授）
5	1922.11.5	36名	「漢籍を読むに就いて」（湯浅廉孫広島高等師範学校教授） 「阿弥陀の首で子を愛し」（満井信太郎山口高等学校教授）
6	1923.11.18	44名	「図書館と郷土志料」（三井誠之進西岐波文庫長） 「伯林の図書館」（原弘毅山口高等学校教授）
7	1924.11.3	32名	「生活の第一線に立つ文学」（今泉浦治郎山口高等商業学校教授） 「滞英所感」（小島武雄山口高等学校教授）
8	1925.11.2	46名	「欧米図書館の現況」（植松安東京帝国大学司書官） 「我が上代の民族」（匹田直山口高等学校教授）
9	1926.11.21	48名	「民族性と哲学」（水野敏雄山口高等学校教授） 「翻訳文学に就いて」（奈倉次郎山口高等商業学校教授）
10	1927.11.24	56名	「県下の図書館事業」（奥田啓市鹿児島県立図書館長） 「普選に就いて」（大谷三郎鴻城中学校長）
11	1929.11.28	55名	「図書館の経営に就いて」（村島靖雄新潟図書館長） 「郷土史の一断面」（郷土史家 御蘭生翁甫）

12	1930. 11. 10	48 名	「図書館と郷土学」(小川五郎山口高等学校講師) 「図書館の経営に就きて」(大里漱福岡市男子高等小学校図書館司書)
13	1931. 11. 8	52 名	平井知事の図書館振興についての訓示、「外遊所感」(匹田直山口高等学校教授)、「狩野芳崖の絵について」(松田稔)
14	1932. 11. 10	46 名	「郷土史の研究に就いて」(防長史研究家 御菌生翁甫)
15	1933. 11. 23	56 名	菊山知事訓示、関屋文部省社会教育局長の図書館と公民教育との関係についての講演訓示、講演「町村図書館の使命」(社会教育局松尾友雄)
16	1934. 11. 2	41 名	「小図書館の再認識と其の活動」(田村盛一山口高等商業学校附属図書館主任)
17	1935. 12. 2	47 名	「独歩と松陰」(小川五郎山口高等学校教授) 「松陰先生をめぐる」(香川政一県立萩図書館司書)
18	1936. 12. 8	44 名	「東西文化の一端と復古七十年」(岩田博蔵 前山口高等学校長) 「社会教育としての図書館の重要性」(知事代理平本学務部長)
19	1937. 11. 7	37 名	「明治以前に於ける本邦図書館史概説」(田村盛一山口高等商業学校図書館課主任)
20	1938. 11. 7	39 名	「読書と修養」(岡本一郎山口高等商業学校長)
21	1939. 11. 5	35 名	「鈴木重胤と防長」(小川五郎山口高等学校教授)
22	1940. 12. 14	150 余名	紀元二千六百年を記念し、山口県図書館大会と支部総会開催 講演「図書館の能動性」(太田光次福岡県中央図書館長)
23	1942. 4. 14	150 名	「時局下における図書館の経営」(鳥井喜楽福岡県黒土村立図書館長)

支部として最後となった第 23 回の総会は、図書館長会議に併せて開催された。山口県主催で実施したこの会議では、県提出事項として、戦時下図書館経営に関する件、図書購入助成費の利用に関する件、本年度図書館関係事業計画に関する件、中央図書館との連絡に関する件、山口県図書館協会創立に関する件の 5 項目について県社会教育課から説明があり、田中真治県立山口図書館長から実践に関して説明がされた。このうち、山口県図書館協会設立については時局柄適切なものとして満場一致で可決した。協議等の後、講演に続いて最後の支部総会の行事を実施した。

25 年にわたる支部活動は、総会時の記録を中心に残されているが、そこでは、会務は比較的順調に行われていたよううかがえる。

しかし、この間、日本図書館協会本部では山口支部の会費滞納が問題となっていた。十数年にわたっての会費滞納は支部会員の除名や支部解散問題を取り上げるまでになっていた。1941 年、松平頼寿総裁の財政援助の意向で一旦は解決の運びとなったこの問題は、その後、山口支部において改善のための努力がなされた。『図書館雑誌』1942 年 1 月号巻頭言には「山口支部の更正に期待す」が掲げられている。そこでは、山口支部が田中支部長(県立山口図書館長)ら幹部の未納会費完納の努力によって自力更生したことを報告、地方公共図書館界の本山とも言われた山口県における今後の支部活動を期待することばで締めくくられた。

第3項 戦時下の山口県図書館協会

1937(昭和12)年8月「国民精神総動員計画実施要綱」が閣議決定されると、挙国一致等のスローガンにより国民精神総動員運動が開始されたが、その後の図書館政策にも大きな影響を与えた。1939年、全国図書館大会において「東亜の新秩序建設の国策に鑑み図書館の採るべき具体的方策如何」が文部大臣により諮問された。図書館側からは国策を支持するための適切な方法を取り、政府において国策の根幹について基準となるべき図書を編纂、普及すること、国民精神総動員運動の一計画として図書館を中心とする国民皆読週間を設けるなどの国策に沿った図書館の姿勢を示している。

太平洋戦争が始まった1941年には、日本図書館協会が創立50周年を迎え、5月に記念式典が開催された。この時、松平総裁が定めた第一回の総裁賞を明木図書館の伊藤新一が村立図書館の経営並びに経営方法の普及に功績があったとして、今澤慈海、間宮不二雄、森清ら6名とともに受賞した。50周年記念事業としては、50年史の編纂や「物故先賢列伝」の編集などが企画されていた。この「物故先賢列伝」には23名があげられており、山口支部からは佐野友三郎と厨川肇両支部長が予定されていたが、これらの編集事業は完成しなかった。その理由として、日本図書館協会の『近代日本図書館の歩み』では、協会が時局の急変転により文部省の外郭団体一事業団体化したことや、用紙の割り当て難などをあげている。

山口県は、「図書館ノ新使命ニ関スル件」について、1941年6月の国民学校長会議に続き、7月には青年学校長会議で提示し、10月に「市町村立図書館振興助成ニ関スル件」について通牒した。

1942年4月14日、戦時下、時局の悪化に伴い、県内の図書館が提携協力して有機的に活動することを目的とし、山口県図書館協会が再編された。会則によると、事業遂行の便を図るため、県内に11の支部を置いた。また、会長には山口県学務部長、副会長には社会教育課長をおいて、支部長を評議員とするなど組織を改めた。

4月20日付け山口県中央図書館長田中真治から県内各図書館にあてた支部設置と委員の指名に関する連絡文書には、原則として山口県図書館協会には県下の全図書館が入会すること、従来の日本図書館協会山口支部会員は、館の年間予算が100円以上は両方に入会のこと、100円以下の場合は県協会へは必ず入会し、日本図書館協会の入退会は任意とするとある。従って、日本図書館協会会員の継続は各館の自由裁量としたが、山口県図書館協会は、県が中央図書館体制の下に県内図書館を統制するものとして拘束力を持って組織された。

この年、山口県では4月から6月にかけて、11の支部から結成の報告や各支部規則が提出され、戦時下の県内図書館組織が固められた。

戦時下の図書館では、国策に沿った読書運動が全国で展開された。1942年9月文部省は日本図書館協会と『読書会指導要綱』を共編、また中央図書館の国民読書運動助成と指定読書会奨励を行った。

こうした国の動きにあわせて、山口県では、12月11日、12日の両日、県立図書館で読書指導協議会及び図書館協会評議員会を開催し、読書指導や読書会に関する講話等を行った。翌年も、10月8日付けで鈴木直人山口県図書館協会会長から評議員、支部長宛の文書「評議員会並に支部長会開催に関する件」が発送された。戦時読書指導研究会の機会を利用して10

月 15 日に開催する旨の内容である。

1943 年 11 月、文部省は静岡県で「中央図書館司書研究協議会」を 7 日間にわたって開催、1944 年には、文部省と大政翼賛会は読書会指導者養成を目的として、静岡県で、読書会指導者思想錬成会を実施した。山口県からは県立山口図書館（中央図書館）の司書が参加した。

国民読書運動が進む中、一方では、戦時下の用紙不足による出版物、出版部数の減少は、こうした読書運動や図書館の運営にも大きな影響を及ぼした。

1942 年、日本図書館協会は全国の図書館へ新刊図書を配給する事業を開始し、9 月『図書館雑誌』上で「新刊図書優先配給要綱」を発表した。これを受けて、山口県で 1943 年度に、県立山口図書館長から各中等学校長宛の新刊優良図書の優先配給に関する案内状が発送され、これに対して、県内学校や各図書館からの県立山口図書館長宛申請文書や日本図書館協会「新刊図書優先配給加入申込書」の報告文書等が見られる。

しかし、配給事業は、出版状況の変化や図書選択などに問題があり、また配送に必要な物品も不足し、実施は次第に困難になった。

日本図書館協会の『図書館雑誌』は 1944 年 8 月 15 日発行の第 38 年第 5 号（294 号）で休刊となったため、終戦までの協会の動きは機関誌では確認できない。

山口県の状況も、1943 年度から 1944 年度の記録は会費納入に関する資料が大半で、その後協会の事業や活動をうかがうことはできない。

県立山口図書館の戦前最後の年報『山口県図書館第 40 年報』（1943 年 10 月発行）によると、山口県の図書館は県立 2 館、市立 40 館、町立 29 館、村立 160 館、私立 25 館合計 256 館となっている。1940 年以降、市部の図書館が相次いで開設した。1940 年の下関市立下関図書館、1941 年の防府市立三哲文庫、1943 年の宇部市立図書館の独立館開館などである。

最後の年報では、県域の蔵書総数は約 67 万冊、各館の統計数字によると、一日平均閲覧者数の多い図書館として下関図書館の 741.5 人、県立山口図書館の 360.7 人、三哲文庫の 220.1 人、児玉文庫の 115.5 人があげられる。

戦時下、県立山口図書館では、貸出文庫の経費が増額されて、読書会の指導による読書運動と共に貸出文庫による県内への図書供給活動に拍車がかかった。

しかし、戦況が厳しくなって、小野田市立や県立山口図書館に見られる蔵書の分散疎開、岩国図書館施設の軍部接收、空襲による児玉文庫や宇部市立図書館の焼失、県立山口図書館貸出文庫の貸出先での図書焼失などにより、図書館活動は停滞せざるを得なかった。山口県全体で戦災により失われた図書はおよそ 7 万冊ともいわれる。

第4項 山口県図書館協会の再興

【1945～1950年代】

山口県の図書館は戦争により大きな痛手を受けたが、1946（昭和21）年4月には早くも宇部市立図書館が上宇部小学校で再興着手されるなど復興運動が起き、各地で図書館整備が進められた。しかし、いち早く登場したのは公民館であり、1946年7月の文部次官通牒で、村の集会所などの多目的施設としてその設置運営が奨励された。県内では翌年5月創立の山口市平川公民館がその嚆矢で、1952年には108館に急増する。一方、戦前からの零細農村図書館は、この頃から1955年の町村合併実施にかけてしだいに淘汰された。

1946年8月、山口県図書館協会は、団体等規制令により結社届を山口市に提出しているが、戦後の混乱の中で協会としての具体的な活動は見えない。1946年11月、戦後初の郡市代表図書館長会議が開催され、1948年10月には山口県図書館長自治会10名の連署で図書館振興についての陳情書が提出されるなど図書館再興の動きは各市町村で見られた。この時期の県内図書館では、占領軍による図書廃棄、建物の接收などもあったが、各地で図書館活動の再開も進んでいる。1950年4月30日に図書館法が公布され、6月には、県立山口図書館長に戦後の図書館復興に尽力した鈴木賢祐（すずき まさち）が着任している。

山口県は、市町村図書館復興を補完するため、県立図書館分館を各地に設置するという政策をとった。1950年6月、秋吉村で山口県立山口図書館美祢分館が開館した。以後1951年8月には佐波郡を対象地域とする佐波分館が出雲村堀で、12月には豊浦郡東部を対象とする豊浦分館が菊川村で、1954年4月には大島郡の大島分館が久賀町で開館した。しかし1956年5月、山口県が財政再建団体に転落したため、これら4分館は数年ならずして廃止の運命を辿る。県は財政緊縮と予算の集中的運用を理由に1957年4月、分館を地元引き渡し、結果としてこの4分館廃止が地元6図書館の発足へとつながった。この時期における県の図書館行政の見逃せない動きといえる。

日本図書館協会では、1950年代に組織強化の問題に取り組み、地方組織との連携強化が俎上に上り、1951年の三重県図書館協会を皮切りに徐々に全国の地方組織が設置されていった。その流れの中、山口県では1951年5月、独立図書館長会議の中で協会の復興について論議が始まり、1952年6月に宇部市立図書館で開催された会議でも協議された。同年11月には長府図書館で開催された際に、山口県図書館協会の復興を協議、創立準備委員会、会則案起草委員会設置を決定した。そして、1953年4月27日、山口県図書館協会は再興の運びとなる。設立総会では、会則制定、役員選出が行われ、会長には鈴木賢祐県立図書館長が就任することが決定した。

1950年、日本図書館協会は第1回となる中国四国地区図書館ワークショップを岡山県で開催した。この動きと連動し、山口県では1951年11月「山口県公共図書館研究協議会」が発会し、1954年9月に下松図書館で開催された第11回からは「山口県図書館研究協議会」と改称して、学校図書館・公民館を含め、引受館と協会の共催（1962年頃まで毎年開催）で開催されることになった。この組織も山口県図書館協会の一部会として発展的に解消されていくことになる。

山口県図書館協会が1953年に再興された直後の活動実態を当時の会則などから抄記する

と、目的と事業については次のとおりである。

第三条 この会は県内の図書館事業の発展を図り、文化向上に寄与することを目的とする。

第四条 この会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 一 図書および図書館に関する研究調査
- 二 講習会、研修会、展示会、読書会、講演会等の開催および幹旋
- 三 図書および図書館用品の共同購入
- 四 その他図書館発展のため必要なもの

このように行事の支援や物資調達の補完事業も手がけていて、5月に発足した事業部は図書館用品の幹旋を行い、同年10月27日から11月9日には図書館用品展示会を開催するなど1960年まで続いた。戦後間もない時期の物資不足と関係者の苦労が偲ばれる。

会員は、当初から公共図書館だけでなく、ひろく公民館や学校なども対象とし、会員資格も個人会員と機関会員から成り立っていた。発足当初の役員構成（資料4参照）からは現在の山口県図書館協会の原型が見てとれる。

協会活動の裏付けとなる財源規模は、発足当初の決算報告書から見ると、協会の年間収入総計が36,215円、支出総計が31,568円という極めて貧しい状況であった。これがどれほど少ないかは、当時の全都市勤労者世帯の1か月平均収入が26,025円の時代であったことから明らかであるが、その活動からは協会再興に向けての高い理念と強い結束力がうかがえる。

山口県図書館協会の再興早々の大事業は、司書養成講習開催運動であった。このため県や県教育委員会との共催で11月9日に関係者180余名が集まり、山口県図書館大会及び山口県図書館協会臨時総会を開催し、司書・司書補講習の山口大学での開催要望を決議した。この運動が功を奏し、県は講習開催委託料446,000円を予算化し、1954年7月14日から9月3日にかけて山口大学で開講、148名が受講した。

また、1955年6月には山口県学校図書館協議会が結成された。当時、山口県の学校図書館は全盛期で、「西の山口、東の千葉」と呼ばれるほど活発であった。同年8月6日からは山口大学教育学部で司書教諭講習が始まった。

1955年3月から『山口県図書館協会報』（のち『YLA通信』と誌名変更）を刊行、山口県図書館協会としては初の独立した広報誌の発行となった。また、『山口県図書館要覧』を発刊するなど県内の図書館相互の情報交換や実務を支える活動が動きはじめた。1955年は、町村合併により自治体再編が大きく進んだ時期で、図書館名の改称が相次いでいる。

1959年には、図書館を取り巻く動きとして、日本初の山口県文書館の開館、第1回こどもの読書週間開催、読書推進運動協議会発足など、徐々に基本的態勢の整備が進みはじめた。

【1960年代】

1960年代は、全国的に読書運動が大きな盛り上がりを見せた。1960年7月、県立山口図書館の主催で山口県読書活動研究集談会が開かれた。1962年からはさらに徹底させて県内の10教育事務所ごとに読書活動推進地区別協議会を開催、1981年まで20年間続いた。同年鹿児島県の「親と子の二十分間読書運動」が宇部・小野田地区に導入され、翌年には県内全域に広がった。これより前の1956年10月、宇部市中部第24区子どもの会図書館が文部大臣賞に輝いている。1964年4月、宇部市立図書館の首唱で、長門地区公共図書館職員連絡協議会が発足した。1968年8月には、同館主催の第1回母と子の青空読書会が常盤公園で開催され、

1975年には3,450名が参加するまでに成長した。岩国では1969年10月、55グループ約千人が参加して岩国市親子読書連絡協議会が発足した。山口県図書館協会としても『図書館実務の手びき』、『読書活動の手びき』を刊行するなど、運動を応援するために側面的な支援を行った。

1968年10月、読書週間にちなみ県立山口図書館が山口県連合婦人会と共催して「本を読むおかあさん大会」を開催、棕鳩十氏（児童文学者）の講演「劣等感と読書」に約500名の参加があった。翌年から「本を読むおかあさんのつどい」として1970年まで開催する。1972年6月30日、山口県読書推進運動協議会が結成され、読書感想文コンクールを1997年まで継続し、1978年創刊の『読書運動通信』は現在も発行されている。

この時期の特徴の一つとして、情報や資料を円滑に入手する制度整備や有効活用するための研修充実が求められ、図書館間連携の模索が本格的に始まったことがあげられる。地方企業として情報収集の不利を補うため、山口県に主力工場をもつ東洋曹達と徳山曹達が発議し、1963年2月周南文献情報連絡会が組織された。当初は9社で発足したが、企業秘密も介在するため、公共の徳山市立図書館が加わった。主な事業としては、5年ごとに定期刊行誌所在目録を発行し、文献の相互利用と情報検索法の研修などを行った。1983年には東は岩国、西は宇部に至る17社に広がったが、1988年3月、情報技術の急速な進展と情報量の急激な拡大に、一地域企業群では対応する時代ではないとの判断から発展的に解散する。

1969年2月、周南文献情報連絡会に範をとり県立山口図書館が提唱して吉佐地区文献情報連絡会が発足した。山口市内の官公庁・試験研究機関で組織したもので、その後、会名の「吉佐地区」を「山口」と変えたが、この会も1993年3月をもって休止することになる。

1964年、山口県図書館協会では公共図書館研究部会を発足して県内公共図書館の逐次刊行物所蔵調査を実施し、『全国公共図書館逐次刊行物総合目録 中国・四国編』の編集に携わった。

1966年、中国地区では「中国地区公立図書館相互貸借規程」によって相互貸借が進められることになった。同年、山口県図書館協会では「図書館網の形成」をテーマに研究部会が発足し、その研究部会報告書『図書館網の形成について』として1971年発行した。しかし、送料負担の問題もさることながら、冊子体による目録交換だけでは、所蔵確認の作業に手間取るため相互貸借は遅々として伸び悩んだ。

1968年、県立山口図書館でレファレンス協議会が開催されて、レファレンス業務の研修会や研究会が実施され、レファレンス（参考調査）という図書館の基本的機能である重要なサービスを促進するための一歩を踏み出した。

1960年代で特筆すべき動きは、1963年の日本図書館協会『中小都市における公共図書館の運営』の刊行である。山口県内でも1961年に同協会中小図書館調査委員会が岩国市立図書館を調査したが、この全国的な調査研究をもとに編まれた通称『中小レポート』の理念を具体的に実践した日野市立図書館の活動は目覚ましく、中小図書館の大きな可能性を示した。1968・69年度には同協会「公共図書館振興プロジェクト」の5市の中に防府市立図書館も参加し、その論議を経て日野市立図書館の実績を背景にまとめられた1970年刊行の『市民の図書館』は、中小図書館が市民の図書館として発展していく指針となった。



1962年下松市立図書館、創立10周年を記念してBM「あおぞら号」を運行開始（下松市立図書館提供）

第5項 山口県図書館協会の発展期

【1970 年代】

1970年代は、県立山口図書館の新館構想（案）の提出から幕が上がった。1973（昭和48）年7月、県立山口図書館は鬼頭梓設計事務所の設計により建設され、新館オープンした。その直後の8月28日、県立山口図書館で世にいう図書隠匿事件（図書抜き取り放置）が発覚した。新館開館の前日、開架図書の中から自主規制によって数十冊の図書が書庫に移されたことが発端で大事件となり、この事件を契機として、日本図書館協会では図書館の自由に関する調査委員会を設置し、1979年5月には「図書館の自由に関する宣言」を改訂した。



「本を読むよい子のまつり」

（1979年、宇部市）

1976年1月、県内図書館の児童担当者が集まり、山口県図書館協会内に児童図書館研究会が発足、翌年6月協会定期総会においてこの研究会が児童読書研究部会として承認され、1977年に『児童読書研究部会報』を創刊した。また、1976年7月には、協会報を『としょかん』と改題して復刊される運びとなった。

1978年、衆参両議院の図書議員連盟が発足し『全国図書館網の整備について（案）』が出された。それを受けて、全国公共図書館協議会ではナショナル・プランの検討を始め、1979年から『図書館全国計画のための基礎資料集 Vol.1』を手始めに順次資料刊行が進んだ。1986年には『公共図書館の相互貸借に関する実態調査結果報告書』がまとめられ、全国的規模の相互貸借制度の基盤が一応整えられた。

【1980 年代】

連携協力の動きが活発化する中、1979年10月に山口県では「新聞・雑誌等の保存協定」に関する会議が県立山口図書館で開催され、1980年6月に山口県公共図書館協議会で逐次刊行物の分担保存の申し合わせが取り交わされた。

1981年1月、山口県図書館協会では公共図書館振興について県、県教育委員会、各市町村に陳情するなどの活動を行い、8月には協会個人会員を対象とした図書館業務に関するアンケートを実施した。出版では、山口県図書館協会が1963年から続けてきた適書目録の『私たちの本棚』を所期の目的を達成したことから中止し、代わって1982年3月、県内公共図書館の協力を得て『増加郷土資料目録』を作成することが決定された。

さらに1982年から翌年にかけて、山口県の図書館協力体制は大きく前進する。1982年徳山市立中央図書館に、徳山・下松・光・新南陽の4市と、田布施・熊毛・大和・鹿野の4町関係者が集まって相互協力を協議し、翌年「周南地区公共図書館・公民館図書室連絡協議会」が発足した。1982年10月から県立山口図書館の巡回協力車が、県内35公共図書館への巡回を開始した。1983年4月には岩国・柳井の2市を核に、岩柳地区の15町2村が集まり「山口県東部地区図書館協議会」が発足し、「広域貸借に関する基本協定」が結ばれた。

新南陽市図書館では、1977年11月に県内初のコンピュータ導入が実現していたが、1980年代に入って、全国的に図書館へのコンピュータ・システムの普及が本格化する。1982年4

月、山口大学附属図書館にコンピュータによる閲覧管理システムが稼働し、以降、雑誌管理、図書管理、目録検索システムが順次稼働することになった。また、1987年から学術情報センターと接続し、図書館システムは全国ネットへと展開するに至った。公共図書館では1989年に、下松市立図書館、徳山市立図書館、岩国市立図書館がコンピュータ化された。県立山口図書館でも「図書館ネットワーク整備事業」の計画が動きはじめた。

1983年10月には山口県で初めてとなる第69回全国図書館大会が「学ぶ芽が伸びる広がる図書館づくり」をメインテーマに開かれて、図書館振興の気運を盛りあげた。山口県図書館協会としてはこの機を捉え、県立山口図書館初代館長であり、協会創設にも尽力した佐野友三郎を顕彰するため、山口県教育財団の助成を得て『初代館長佐野友三郎氏の業績』を復刻した。また『山口県の図書館』『図書整理技術の手びき』新訂2版を記念として刊行した。



全国図書館大会、1983年、山口市民会館

1984年8月には、山口市で第24回全国学校図書館研究大会が開かれ、3千余名が参加して熱心な研究協議が行われた。同年9月、県教育委員会と共催で「中国地区公共図書館職員研究集会」を県立山口図書館で開催、テーマを「県域公共図書館のネットワークづくりを考える」とし、各地域との繋がりや全国的な連携が加速した。

この時期は、新たな組織連携が模索された時期でもある。1986年6月に図書館問題研究会山口支部が発会、翌年は大学図書館問題研究会山口支部が結成され、1988年7月、第35回図書館問題研究会全国大会が岩国市で開催された。また、山口県子ども文庫連絡会の発足や日本図書館協会県内会員の集いも県立山口図書館で開催された。国も文部省組織令改正があり、社会教育局が生涯学習局に改められ、組織の再編と強化が進んだ。

一方で、玖珂町立図書館が整理業務を委託するなど、図書館業務の委託問題が顕在化した時期でもある。課題に対処するため、1987年に山口県図書館協会では県内公共図書館を対象に資料整理についてのアンケート調査を実施した。これを契機に、職員の資質・技術等の向上のための研修をさらに充実しようと、1987年の協会定期総会後から全体会議、分科会やテーマ別、館種別による研究協議会などを実施する動きが起きた。

1989年10月5・6日、山口県図書館協会は全国公共図書館整理部門研究集会を共催し、11月には創立80年記念行事として「山口県図書館振興の集い」を開催した。記念講演「生涯学習と図書館」（澤田正春：当時、北海道置戸町教育長）やパネルディスカッション「生涯学習を目指すまちづくりと図書館の役割について」などを実施。また佐野友三郎の名著『米国図書館事情』復刻版を記念出版した。

【1990年代】

1990年6月、定期総会において組織等検討委員会と整理業務・参考業務（公共図書館レファレンス研究協議会改め）の2研究部会発足が承認され、図書館政策検討、研修機能の強化が図られた。この年は生涯学習社会に対応すべく、県立山口図書館が「図書館ボランティア養成講座」「図書館ボランティア活動受入研修会」を開催し、1993年まで毎年実施された。また、図書館法制定40周年記念・図書館振興のつどいを県立山口図書館で開催し、記念講演「図書館の任務と振興の課題」（塩見昇：当時、大阪教育大学教授）等を行った。1991年9

月には、日本図書館協会主催「公立図書館の任務と目標」研究集会を共催、1992年12月、同協会100周年を記念した「山口県図書館振興のつどい」を開催した。

連携の動きは加速して、1992年に山口県市町村立図書館長等協議会が発足し「山口県市町村図書館相互協力実施要綱」が採択された。県立山口図書館は市町村図書館支援の一環として、鹿野図書館新設のための職員派遣、山口市やその他の地域への委員派遣などの人的支援が広がった。山口県図書館協会の出版も『山口県図書館相互協力便覧—大学・短大・高専—1992年版』『山口県図書館相互協力便覧1994年版』など図書館相互協力を促進するための出版が相次いだ。

1992年、蔵書管理のみに運用していた県立山口図書館のパソコンによるシステムが、汎用機による山口県図書館ネットワーク・システムとして稼働を開始した。同時にパソコン通信による蔵書検索が可能となり、書誌情報等の流通利便性が大きく改善された。

1992年からは新たに山口県図書館協会内に整理業務研究部会と図書館政策委員会が設置され、『図書館はいま 白書・山口県の公共図書館1993』、『提言：山口県の公立図書館振興方策』『県立図書館への期待・要望アンケート報告書』などを次々と刊行した。1994年12月には、第1回「山口県図書館振興大会」を「中国地区公共図書館職員研究集会」と同時開催し、「公共図書館の振興・発展にむけて」をテーマに、講演「新しい図書館づくりと国の動き」（酒川玲子：当時、日本図書館協会事務局長）ほか事例発表、図書館振興シンボルマークやキャッチフレーズの募集・決定など多彩なイベントが展開された。



1994年、山口県図書館振興大会
で選定された図書館振興シンボルマーク

国の動きとしては、文部省が1993年に「学校図書館図書標準」を設定し、「新学校図書館図書整備5か年計画」を策定、1994年に『県立図書館の役割と実践—都道府県立図書館の実践事例集—』を刊行するなど学校図書館の基盤整備が進められ、県立図書館の役割が注目された。1995年6月、情報処理振興事業協会が実施するパイロット電子図書館総合目録プロジェクトに県立山口図書館も加盟し、パイロット電子図書館総合目録の運用が開始した。これにより、全国多数の県立図書館レベルの所蔵情報がリアルタイムで把握可能となり、全国的な相互貸借が大きく前進することになった。

山口県図書館協会では、この動きに呼応して1997年10月に図書館ネットワーク研究部会が発足した。翌年、県域図書館総合目録ネットワーク実験版の構築を開始し、実用化についての協議会をもった。また、1998年2月には須佐町立図書館が開館して自動貸出機による24時間サービスが開始され、コンピュータ活用の図書館による町おこしとして、マスコミ等も大いに宣伝したことは特筆に値する。

1996年、県立山口図書館では『21世紀に向けた新しい県立図書館の在り方について』の報告書を作成、「新山口県立図書館整備基本構想素案」を策定した。また、同館は図書館職員の資質向上を目的として「公立図書館等職員専門講習会」、1999年からは「図書館協力担当者会議」を開始し、以後は毎年継続実施している。さらに『山口県図書館協力ハンドブック』刊行、「郷土出版物収集アドバイザー制度」導入、「遠隔地利用者返却システム」試行など、一層の協力態勢確立を目指した活動を展開した。

1997年以降は、大学図書館間の連携を強めるものとして「山口県大学図書館協議会」が設立され、また、住民の図書館への関心の高まりから「学校図書館を考える会・山口ネットワーク [ゆるねっと]」「防府図書館フレンズの会」「東和図書館友の会」「新南陽市図書館友の会」などが次々に発足したことは見逃せない重要な動きである。

山口県図書館協会の出版でも、人権問題となった雑誌の取り扱い調査を県内公共図書館及び大学・短大・高専図書館に対して実施して報告したり、児童読書研究部会が『子どもにすすめたい本Ⅳ ぶちおもしろい本みつけた!』を発行するなど、各部会ともに活発な活動が見られた。

1996年、文部省が公立社会教育施設整備費補助金の廃止を決定した流れを受け、1998年6月、図書館法の改正の動きがある中で行われた山口県図書館協会の定期総会日には、講演「図書館法改正をめぐる諸問題」(酒川玲子)が行われた。1999年7月、図書館法が改正され、国庫補助要件としての館長の司書資格、最低基準の条項は削除された。

1999年11月、山口県図書館協会創立90周年を記念し、従来の図書館振興大会を改称して「山口県図書館振興県民のつどい」が開催された。「いいまちづくり 役立つ図書館」をテーマに、記念講演「地方自治と図書館」(上原恵美:当時、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール副館長)、基調講演「まちづくりと図書館」(糸賀雅児:慶応義塾大学教授)、シンポジウムが行われ、関連行事として「山口県ほんのきもち賞」表彰式、図書館友の会のつどいなどを実施した。併せて、実行委員会は『図書館振興この10年』を刊行している。この年、元周東町立周東図書館長・山本哲生が新会長に就任した。従来、協会長には県立山口図書館長を互選していたが、役員選出規定が改正されたことによるもので、協会史上画期的なことであった。

【2000年代】

2000年は図書館法公布50周年に当たり、山口県図書館協会会員研修会として記念講演「図書館法のめざすところ」(山口源治郎:当時、東京学芸大学助教授)を行い、翌年は、日本図書館協会中国ブロック会員の集いを岩国市立中央図書館で開催して、講演「図書館のめざすもの・先人と私たち」(竹内愼:当時、日本図書館協会理事長)を行った。2001年3月には山口県版望ましい基準を策定するため政策委員会が発足し、2003年には『山口県の未来をひらく やまぐち2010年の図書館像』を発刊した。この他の協会出版物として、『いいまちづくり役立つ図書館』『山口県内市町村図書館例規集』『基準・マニュアル等事例研究資料』『山口県郷土件名標目表』が相次いだ。

住民と図書館関係者の協力の動きは活発で、「こどもと本ジョイントネット21・山口」を皮切りに、「西日本図書館学会山口支部」発足ほか、各地で「図書館づくり」「子どもの読書」「図書館友の会」などに関する会が設置された。2002年には防府市立図書館と姉妹都市・韓国春川図書館との資料交換が始まり、国際的連携も始まった。2006年以降には大学・公共図書館の館種を越えた相互協力協定の締結が広がっている。

全国的な動きとしては、2001年の省庁再編による文部科学省発足に始まり、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」告示、「子どもの読書活動の推進に関する法律」制定、「新学校図書館図書整備5か年計画(第2次)」策定などの制度整備、「第1回子ども読書の日」実施などが相次いだ。また、2001年には近年の課題解決型図書館への趨勢の先駆けとなるビジネス支援図書館協議会が設立されており、見逃せない動きといえる。

コンピュータ関連では、2000年に県立山口図書館を中心に「山口県総合目録システム検討委員会」が発足し、2002年からは県立山口図書館ホームページ、県域横断検索システム運用開始、YIネットなどが軌道に乗り始めた。また、2003年から国立国会図書館レファレンス協同データベース実験事業が開始され、書誌情報の公開にとどまらず、レファレンス・サービスへの全国的協力も動きはじめた。

2003年、山口県図書館協会は会長に元岩国市立中央図書館長・稲生慧が就任、「山口県立山口図書館開設100周年記念・第5回図書館振興県民のつどい」と県教育委員会主催「子ども読書活動推進フォーラム」を同時開催し、「いま、子どもたちに何を、どう伝えますか？」をテーマに、「きょうは楽しいさんかん日」（宮西達也：絵本作家、村中李衣：児童文学作家、那須正幹：児童文学作家）による授業形式のイベントを実施した。また、山口県図書館協会が多年にわたって社会教育に貢献した功績により、2004年11月に県教育委員会から表彰を受けた。

全国的に急展開した平成の大合併は、県内では2003年4月合併第1号として周南市が誕生したのを皮切りに進み、関係市町村では、図書館名の改称をはじめ図書館システム統合が行われた。翌年、山口県図書館協会としては急激な自治体再編による図書館への大きな影響が予測されるだけでなく、施設会費が激減する関係もあることから、「市町村合併対応検討委員会」を発足させた。委員会は『図書館と市町村合併 一対応の指針とマニュアル』を刊行し、全国から予想外の注文が寄せられた。その後も、2004年の会員研修会では、講演「市町村合併と図書館」（大串夏身：昭和女子大学教授）や市町村合併後の図書館に対するアンケート調査を実施するなどのフォローアップにも努めた。

子ども読書関係の動きとして、2004年に文部科学省主催の「全国読書フェスティバル・山口大会」の後援、県立山口図書館が「ブックスタート実践講座」、宇部市立図書館での「子ども読書活動推進フォーラム」開催とともに、県立山口図書館内に「子ども読書支援センター」設置、県教育委員会は「子どもの読書活動推進計画」を策定、県学校図書館協議会創立50周年記念行事の実施と相次いだ。その後も、「文字・活字文化振興法」公布、文部科学省による「新学校図書館図書整備5か年計画（第3次）」始動などが矢継ぎばやに続いた。

2006年9月、山口県図書館協会は第8回図書館振興県民のつどいを開催して、午後の部を「日本図書館協会中国ブロック会員のつどい」と兼ねて共催し、「読書で暮らしに潤いを ～文字・活字文化振興法を身近なものにするために～」をテーマに、講演「本と言葉と私の話 ～読むこと・書くこと・語ること～」(山根基世：当時、NHKアナウンス室長)や情勢報告「文字・活字文化振興法を実効あるものにするために」(常世田良：日本図書館協会事務局次長)などを実施した。

国及び全国的な動きとして、2003年の地方自治法の改正に伴い、図書館にも指定管理者制度の導入が可能となり、2007年の山口県図書館協会の公共図書館部会研修会では、指定管理者制度に関する研修会が行われた。また、文部科学省が設置の「これからの図書館の在り方検討協力者会議」で審議が進められ、2006年に『これからの図書館像 ～地域を支える情報拠点をめざして～』が発表された。これを受け、山口県図書館協会会員研修会として、講演『「これからの図書館像」を生かすために」(糸賀雅児：慶應義塾大学教授)を開催し、翌年の協会共催の全国公共図書館総合・経営部門研究集会でも講演『「これからの図書館像」を実現するために」(葉袋秀樹：筑波大学大学院教授)ほかにより周知を図った。

2006 年 12 月の教育基本法の全面改正を契機に、翌年の会員研修会では、「教育基本法[改正]と図書館 ～どうなる、公共図書館・学校図書館～」(塩見昇：日本図書館協合理事長)を開催した。同日の定期総会では元新南陽市図書館長・藤村聡の会長就任が承認されている。また、2008 年 6 月における「図書館法」改正を受けて、直後の会員研修会では、講演「改正図書館法の問題点を巡って」(松岡要：日本図書館協会事務局長)を開催した。

2008 年 11 月、第 10 回図書館振興県民のつどいを山口県図書館協会創立 100 年記念のプレイベントと位置付け、山口市の「まちと文化推進事業」とタイアップして商店街ホールと県立山口図書館との両会場で同時開催した。「人と地域の自立を支える図書館」をテーマに、講演「図書館の使命とその可能性」(片山善博：慶應義塾大学教授・前鳥取県知事)、その他の関連イベントを実施した。

山口県図書館協会では、2009 年 10 月に創立 100 年を迎えるに当たり、2007 年に組織強化のため「運営活性化委員会」、創立百年事業準備のため「創立百年記念事業委員会」ならびに、その作業委員会である「記念誌編集委員会」「行事運営委員会」を設置した。これからも、山口県図書館協会が県内の図書館振興を通じて教育文化の向上に寄与できるよう、衆知を結集した活動を継続することに大きな期待が寄せられている。



2006 年、新築移転した防府市立
防府図書館

第2章 山口県内図書館のいま

第1項 公共図書館の概況

山口県図書館協会は、2003（平成 15）年 2 月に『山口県の未来をひらく やまぐち 2010 年の図書館像』を刊行した。これは、久しく待望されていた国の「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」告示に呼応し、山口県版の望ましい基準策定を意図したもので、県内公立図書館がめざす方向と目標を数値基準とともに示し解説している。時あたかも市町村合併が始まったばかりの頃でもあり、新しいまちづくりの核ともなる公立図書館の整備、運営の指針としての活用が期待された。

ここでは、その後の県内公共図書館の概況を、『図書館年鑑』（日本図書館協会）掲載の県別図書館概況で辿ることにより、『山口県の未来をひらく やまぐち 2010 年の図書館像』の目標年次直前のこの時期までの県内公共図書館の動きをまとめることとする。

新館・建設計画の動き

現在の山口市は 2005（平成 17）年に旧山口市と徳地町、小郡町、阿知須町、秋穂町が合併して誕生したが、合併する前の山口市は、2003 年 6 月に BM「ぶっくん」の運行を開始し、11 月には図書館を新設開館して最初の 1 か月間で約 10 万点を貸出した。この山口市立図書館は、2004 年には台風 18 号による被災で併設施設の屋根が半壊したものの、開館 10 か月余りで貸出点数 100 万冊を達成し、順調なすべり出しを果たした。

合併により山口市となった小郡町では、以前から住民グループが講演会を開催するなどの図書館改築に向けての動きが進んでいたが、2004 年の台風 18 号による被災で施設が半壊したため、合併後は当初の建設計画を変更し、2008 年に向けて小郡図書館を建て替えることが決定した。こうして 2007 年に建設に着工、2008 年 11 月には南部地域の拠点となる小郡図書館新館が開館した。

同様に現在は山口市となっている阿知須町では、きらら博の施設を移設してドライブスルーの返却口を備えた町立図書館が 2003 年 7 月に新設開館し、1 か月間の入館者が 1 万人を突破した。また、秋穂町では、生涯学習センター（図書館併設）建設委員会が 2003 年 4 月に発足し、図書館と公民館を兼ねた生涯学習施設の建設が予定され、一時は代替施設として中学校の空き教室が活用されたこともあった。2006 年になって、合併後の旧秋穂町地域の図書館新設計画が始動し、翌年、複合施設で 2010 年開館をめざす基本設計に着手した。2008 年 10 月には、山口市としては 5 館目となる秋穂図書館の建設工事が始まった。

阿東町では、2003 年 4 月にそれまでの図書センターを移転して条例設置による町立図書館が開館している。

防府市では 2003 年、防府駅北口の再開発複合ビル建設計画について、公共施設検討懇話会が図書館の全面移転を提言した。防府図書館フレンズの会はこれに対応して、同年 8 月には面積拡大についての緊急提言をした。2004 年、防府市は図書館を駅北再開発ビル内に 2006 年に移転することを決定した。その後、新館開館に向けた移転計画は順調に進み、2006 年 11

月1日、開架15万冊の新防府図書館が駅北再開発ビル（ルルサス防府）内に移転オープンしている。

2004年に宇部市と合併した旧楠町は、図書館を含む「ふるさと学習館（仮称）」構想を公表し、建設位置も決定した。

同年4月、下関市はPFIによる消防署と図書館併設計画を一旦公表したが、その後消防署との併設は断念した。2006年には、管理運営をPFI方式から指定管理者に変更し、図書館を含む社会教育複合施設として2009年の開館をめざすことになる。2007年には基本設計に入り、2008年5月に起工式を行い、2010年3月の開館を予定している。

2005年には、市町村合併に伴って、長門市にはゆや分館が、光市には大和分室が新たに開館した。2006年には、柳井市と合併した旧大島町の図書館の改築が進み、2007年3月、柳井市立大島図書館が公民館との複合施設として開館した。

2007年萩市は、児童館併設の複合館として新図書館建設をめざすこととなり、新図書館長は全国公募の上、10月末に選出し準備室に配属した。2008年に入って、新萩図書館の完成予想図を発表し、2011年3月の開館を予定している。

2008年7月、周南市は図書館機能を盛り込んだ「コアプラザ熊毛」の構想をまとめ、2009年着工をめざしている。

成長する市町立図書館の動き

各地でコンピュータ・システムの更新が相次ぐなか、2003年3月になって周東町が新たにコンピュータ・システムを導入し運用を開始した。

県内の平成大合併は、2003年4月に周南市（旧徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町）が発足したのが最初である。この周南市をはじめとする市町村合併を機に、同じ自治体となった図書館の運営統合、さらには図書館システムとしての整備が県内各地で始まった。

市町村合併により、2003年3月には56あった市町村が、2005年度には22に激変し、自治体別図書館設置率は69.6%から90.9%へと名目上は上昇した。その後、2008年になると、美祢市・美東町・秋芳町が3月に合併して県内の自治体は13市7町に再編され、図書館の設置率は90%となり、未設置は阿武町、上関町のみとなっている。

コンピュータのシステム統合も徐々に進み、2005年度には、周南市4館が1月から、下関市6館が10月から稼働を始めた。また同年、合併を機に山陽小野田市立厚狭図書館が新たにコンピュータを導入し、10月からは中央図書館とのシステム統合を実施した。2006年以降も、合併に伴うシステム統合が各地で進み、利便性の向上やサービスの標準化を果たしている。

そのほか2005年7月、岩国市立中央図書館でのビジネス支援コーナーの設置や、2006年8月に起きた徳山工業高専学生殺人事件における容疑者少年の実名報道への対応をめぐる議論の喚起などがあった。2007年には山陽小野田市立図書館の2館が、厳しい財政状況の中で資料費90%カットの超緊縮予算での運営となった。2008年4月には、山陽小野田市立中央図書館に一般公募によって選ばれた館長が着任した。

防府市立防府図書館では、2008年9月からレファレンスを除く窓口業務の委託を始めたが、新館となって間もない時期でもあり、サービスの低下や県内図書館への悪影響が懸念される。

一方、市域内の公共・大学が図書館相互協力のために館種を越えて連携・協定する動きが広がってきている。

図書館周辺の動きとしては、2006年9月30日に開催された第8回図書館振興県民のつどいを機に7団体加盟による「図書館友の会等山口県連絡会」が新たに発足した。

県立図書館の新しい動き

2003年7月に創立100周年を迎えた県立山口図書館では、各種記念行事の開催、コンピュータ・システムの切替え、100周年記念誌の編集などが行われた。

2004年には、これからの県立山口図書館のあり方を検討するため、県教育委員会が外部委員で構成する委員会を設置し、若手職員によるワーキング・グループも設けられた。同委員会は2005年11月、市町村支援強化などを盛り込んだ報告書を県教育委員会に提出した。2006年度には、この提言を受けた種々の改革に着手し、課名変更を伴う組織再編により、市町村図書館支援体制の強化や業務・サービス処理の流れの変更を図ると同時に、図書館運営協議会の設置、ビジネス支援コーナーの設置、祝日開館の試行、巡回協力車運行方法の改善などが実施された。また、同年11月3日から12日まで開催された「国民文化祭やまぐち2006」にあわせて各種のイベントを実施した。

2005年には、文字・活字文化振興法によって制定された「文字・活字文化の日」を記念した展示と翌年開催の国民文化祭にちなんだ「ふるさとの文学者13人展」を行った。

2007年、開架スペースに2万冊分の書架増設を行うとともに、郷土文学コーナーの開設に向けた準備が行われた。また、祝日開館（月曜日を除く）が正式に始まった。

2008年4月、「ふるさと山口文学ギャラリー」、「闘病記コーナー」を開設、5月には創立以来の来館者1,500万人突破を記念した展示やイベントを実施した。この年には、山口市や日独協会、商工会議所などの新たな連携先との連携事業も始まっている。

県立山口図書館が開催する図書館職員研修事業としては、新任職員研修や専門講座などが定着しているが、そのほか2007年1月には「全国公共図書館総合・経営部門研修会」、同年12月には「中国・四国地区図書館地区別研修」（文部科学省主催）を山口市で開催した。

子ども読書活動の推進

2003年、子どもの読書活動を推進する事業が多くの図書館で実施され、各地で子ども読書活動が活発化した。とりわけ「こどもと本ジョイントネット21・山口」が県内各地で展開した多彩なイベントは際立っている。また、県立山口図書館も同年3月、県教育委員会主催の「子ども読書活動推進フォーラム in 山口」を開催した。

この年、ブックスタート事業が下関市など1市5町で開始された。

「子ども読書活動推進計画」は、2004年4月、県内で初めて岩国市で策定された。県教育委員会は、同年10月に県の計画を策定公表し、「全国読書フェスティバル山口大会」（文部科学省主催）を山口市で開催して、子どもが本に親しむ環境づくりに努めた。

2005年になると、子ども読書活動の推進は長門市はじめ多くの図書館で、ボランティアの養成や協働、専用コーナー設置などにより着実に展開されている。

2007年、「子ども読書活動推進計画」が美東町、長門市、下松市で策定され、翌年の山口市、平生町と広がってきている。

県立山口図書館では、2004年4月から専任職員2人を配置して「子ども読書支援センター」を開設し、支援体制を整備した。同センターは2005年から、「子ども読書指導者養成講座」

を県内2か所で、「新刊児童書出前研究会」を県内5か所で開催するようになった。

2007年にはさらに、「子どもと読書チャレンジ講座」などを県立図書館で開催し、ほかにも子ども向けワークショップなどを県内各地で実施した。2008年から事務局として関わった「第2次山口県子ども読書活動推進計画」は、2009年3月に策定された。

まとめ

この時期の県内公共図書館にとってのトピックは、山口市立図書館の誕生と市町村の広域合併による影響との二つに絞ることができる。長く市立図書館が未設置の県庁所在地であった山口市に、紆余曲折を経て開館した市立図書館は、待ち望まれてきただけにその後の盛況ぶりにはめざましいものがあり、その影響は市内だけにとどまらず、県内図書館、特に県立図書館の在り方については県民にまで及ぶものであった。また、開館後に発足した山口市立図書館友の会「トネリコ」の母体でもあった「私たちの図書館をつくろう会」の13年間の地道な活動は特筆すべきで、市民参加の図書館づくりのモデルとなるものである。

もうひとつのこの時期の特徴である市町村合併の影響としては、同一の自治体内において複数館による図書館システムが機能するようになり、コンピュータシステムの統合やサービスの幅の広がり、あるいは活動実績の平均化が進んだ点などがあげられる。

この間の動きを、県内市町村立図書館の県民一人当たり年間館外個人貸出数によってみ

市町村立図書館による県民一人当たり年間館外個人貸出数

2002(平成14)年度	4.68 点	(全国10位)
2004(平成16)年度	5.67 点	(全国 5位)
2007(平成19)年度	6.10 点	(全国 3位)

ると、2003年度に開館した山口市立図書館が、前年度4.68点であった県内の数値を2004年度には一挙に5.67点とし、全国順位も一桁台に引き上げたことがわかる。この数値はその後も着実な伸びを続け、2007年度には6.1点までになっている。しかし、協会の目標値である8点に届く程に加速するには至っておらず、目標値の実現という点に関しては、今後予定されている新しい図書館の整備と既設館の成長とに期待したいところである。

最後に、公共図書館の今日的課題について触れておく。2003年の「公の施設」への指定管理者制度に関する地方自治法の改正以降、全国的には各種施設にこの制度が適用されてきた。一方、図書館への導入率は社会教育施設のなかでは極端に低いのも事実であり、最近では直営に戻すところもある。さらに、2008年の通常国会での「社会教育法等の一部改正」の際、文部科学大臣は「長期的視野に立った運営」「職員の研修の確保」「後継者の育成」などで図書館への指定管理者制度導入はなじまないと答弁しており、衆参両院の文教関係委員会では「導入による弊害について十分配慮すること」などを内容とする附帯決議がなされている。

図書館サービスは、住民の知る権利や学習権を保障するために、税金を還元して住民には無料で提供されるものである。これを指定管理者に委任したり窓口業務委託したりすることになれば、コスト削減を理由にした図書館サービスの縮小や非正規職員の不安定雇用・低賃金という労働環境の悪化へつながり、その先では図書館の荒廃も危惧される。財政的に苦しい現状にある今こそ、節度ある本来の図書館の姿を、『山口県の未来をひらく やまぐち2010年の図書館像』に求めるべきである。

第2項 学校図書館の概況

最近の学校図書館をめぐる動向

近年、学校図書館には追い風が吹いている。2001年「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定されて以来、県ではこれを受けて「山口県子ども読書活動推進計画」が2004年に策定された。県内各市町単位でも、同推進計画の策定が進み、現在15市町で実施段階に及んでいる。県ではさらに第2次読書活動推進計画の策定を終え、これが進行中である。

また、学校図書館法の改正により、2003年度から12学級以上の学校のすべてに司書教諭が配置された。現在、11学級以下のものも含めた県内の全公立小中学校492校のうち、38.2%に配置されている¹。また、2005年には「文字・活字文化振興法」が施行されて、一方では映像メディアの弊害が指摘されるなかで、2010年を「国民読書年」とするなど国を挙げての読書運動が展開されようとしている。

このような趨勢により、文部科学省は、2007年度を初年度とする「新学校図書館図書整備5か年計画（第3次）」を制定し、毎年200億円が地方交付税として措置されている。県内の小中学校にも各自治体において図書費が予算化されているところである。ただ、残念なことに、財政事情の厳しい自治体においては、国の意図とは相反して学校図書館の図書費として措置されたものが他の経費に使われていることも事実である（平成19年度の県全体の予算措置率は68.6%²である）。

研究大会・研修会

学校図書館で最も大きな研究大会としては、中国5県の持ち回りによる「中国地区学校図書館研究大会」がある。これは、2年に一度開催されるもので、同じ県に10年に一度巡ってくることになる。山口県では、前回、1999年に岩国大会を開き、2009年の11月には、下関において開催されることになっている。

下関大会の大会主題は「未来に夢つなぐ学校図書館の創造～子どもたちの多様なニーズに応えるために～」である。子どもたちが読書に親しむなかで、思考力・表現力を身につけるとともに、豊かな感性を磨き、実りある人生を創造していけるよう図書館教育のあり方を考える大会である。

11月5日には小・中・高校に分かれての分科会が、江浦小学校、日新中学校、下関商業高校を会場にして開催される。小学校の分科会では、本の読み聞かせから一歩抜け出し、「本の読み合い」へと読書を発展させる提案が、梅光学院大学教授村中李衣氏と子どもの広場主宰横山眞佐子氏のワークショップによって提案される。

6日は海峡メッセを会場に全体会、記念講演を行う予定で、県内はもとより中国地方の各県から500人の参加者を見込んでいる。

研修会については、山口県学校図書館協議会の司書教諭部会が企画する「司書教諭研修会」を毎年8月に実施している。内容としては、司書教諭の役割に関する講義、本の読み聞かせの技法、アニメーションの指導法、児童図書の選定、図書館運営等の研修である。毎年100人以上の参加者があり、山口県の学校図書館教育の推進に貢献している。

学校図書館と学校司書、図書館ボランティア

山口県の学校図書館は学校司書の配置が大変遅れている。中国地方だけをみても、岡山県では岡山市を中心に専任の学校司書が配置され、鳥取県では県立学校のすべてに学校司書が配置されている。

山口県で、専任の学校司書が配置されているのは、山口、岩国、光、周南の4市であり、それも嘱託や臨時職員の身分で、複数校のかけ持ちとなっている。

このため、せっかく司書教諭がいても学校司書との連携がとれず、学校図書館の利用が伸びないのが現状である。

今後、山口県の学校図書館が発展していくためには、学校司書の配置はぜひとも進めなくてはならない。この必要性を認識している人たちは、「学校図書館を考える会」を立ち上げ、自治体への働きかけをしている。その成果は少しずつみられ、学校司書に理解を示し、モデル校方式での配置に向けて動き出している自治体もある。

また、図書館ボランティアに関しては、最近本の読み聞かせグループが小学校の保護者を中心に組織され、その活動が活発になってきた。

2007年の調査³では小学校の68%で地域や保護者の読み聞かせグループが読書活動を支援している。さらに、この中には蔵書の修理、整理等にも関わっているグループもあり、学校図書館の活動に貢献している。



小学校の学校司書（周南市立富田西小学校）



中学校の図書館風景（防府市立華陽中学校）

朝の読書活動の増加

児童・生徒の読書活動の推進のために、小・中・高校では朝の一斉読書に取り組んでいるが、これは過去10年間に急激に増加したといえる。

当初、千葉県内の高等学校で生徒指導上効果がある、ということで始まったが、今や全国的にも多く学校で実施されており、県内での実施率は小学校では97%、中学校では87%、高等学校では33%である⁴。全校で一斉に行うため、朝の始業が静かに始められると好評であり、もちろん児童、生徒にとっても本に親しむ大切な時間といえる。

特に運動部等、部活動で忙しい生徒にとっては、唯一本に触れる貴重な機会ともなっている。不読者をなくすという目的からも、今後ともこの読書活動がすべての学校で実施されることを期待したい。

学校図書館と公共図書館の連携

学校で調べ学習が進展するにつれ、学校図書館が所蔵する本だけでは到底足りなくなってきた。そこで、公共図書館へ資料提供を依頼することが増えている。その際、各学校に設置

されているパソコンにより、インターネットを介した公共図書館の蔵書検索と予約ができるシステムを有効に活用できるようになってきた。

ただし、本を借りるためには直接図書館に赴かなければならないので、配送システムの整備が今後の課題である。

さらに、学校図書館の図書のデータベース化が進むことが期待される。そうすれば、学校間での相互貸借もより活発になると思われるが、その窓口となる学校司書の配置も課題となる。



学校図書館での合同読書会（県立厚狭高等学校）

学校図書館の課題

国・地方自治体の財政悪化に世界的不況も加わり、学校予算も極度に難しい状況にある。しかし、財政が厳しい時こそ、将来への投資として教育予算、特に学校図書館予算は最優先されるべきものの一つである。子どもたちの教育を保障するのは大人の責任である。すべての子どもにとって学校図書館は最も身近な情報基地であり、子どもたちの学習権をぜひとも保障していかなければならない。

現在、全国的に学校図書館は二極化に向かっている。図書館の価値が理解されず予算が削減された自治体の学校では、新刊書が充分そろわず、結果的に魅力のない図書館となってしまう。一方、財政が厳しくても、図書館に理解を示して一定の予算が確保されているところでは、学校司書を配置し新刊書をそろえ、児童・生徒が盛んに利用している。

元気の学校図書館では、図書館が本を読む楽しみの場所、「読書センター」となっている。さらに、教科学習に役立つ本がそろい、学校司書によってレファレンス・サービスもなされるため、「学習・情報センター」としての機能も果たしている。ひいては、それが学力向上に多大な貢献をすることは、種々の調査結果に表れている。

また、司書教諭と学校司書は車の両輪である。司書教諭を生かすためにも、学校司書の大切さについて理解を広げていきたい。

¹ 文部科学省 “平成 20 年度「学校図書館の現状に関する調査」の結果について”
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/04/_icsFiles/afieldfile/2009/06/05/1263139_1_1.pdf（参照 2009-08-09）

² 文部科学省 “「学校図書館図書関係予算措置状況調べ（平成 18、19 年度）」の結果について（概要）” http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/04/08041815/001.pdf（参照 2009-08-09）

³ 山口県教育庁社会教育・文化財課 『山口県子ども読書活動推進計画第 2 次計画』 山口県教育委員会，2009.

⁴ 注 3 に同じ。

第3項 大学図書館の概況

はじめに

大学にとって、図書館は学術情報基盤を形成するうえで中核となる存在であり、いまその整備のあり方が注目されている。特に、1990年代後半からのIT（情報通信技術）の急速な進歩は、図書館サービスを提供していくうえで多大な変化をもたらし、加えて国立大学の法人化移行や運営費交付金の継続的削減措置は、図書館の資料費予算はもとより、教員研究費の予算にも深刻な影響を及ぼすなど、資料購入費全体に与える影響は計り知れないものがある。

こうした状況は、公私立大学等においても同様の現象がみられ、さらに少子化や留学生30万人計画への対応など問題が多様化していくなか、各大学図書館においては図書館資料を安定的に供給するための方策、組織体制の見直し及びサービス体制の再構築など、直面している課題が山積している。

学術雑誌のハイブリッド化

ITの急速な進歩は、それまで紙媒体で発行されていた学術雑誌を電子媒体へ移行させるのにさほどの時間を要することはなかった。つまり、雑誌を紙媒体から電子媒体へと形態を変えて出版することにより、雑誌のもつ速報性や利用者の利便性の向上が大きく向上するなど、利用者のニーズにマッチしたため移行に伴う支障は少なかったといえる。いまでは、自然科学系外国雑誌の多くは、紙媒体と電子媒体とのハイブリッド型で刊行されるケースが多く、価格面、速報性、利便性及びバックナンバー保存の対応など多角的に検討し、選択して購読することが可能となった。

電子媒体の場合、外国の大手出版社に見られるビッグ・ディール（自社の刊行物を中心とした電子ジャーナルの包括的契約）や、アグリゲータ系の出版社に見られるように版權を取得して商品化するビジネスモデルが主流となり、国内の大学では国立大学及び公私立大学の図書館協会をベースにコンソーシアムを形成し、出版社と価格体系や利用形態など直接交渉を行っている。

例えば、ビッグ・ディールやアグリゲータ系のようなパッケージ化した製品の購読契約をした場合、現在未購読の雑誌までアクセスできること、重複雑誌の整理、製本に係る経費の節減等の利点がある反面、購読水準の維持が課せられ、購読料アップによる予算を確保する必要がある。一方、雑誌個々の購読契約の場合、購読の可否決定は柔軟に対応できる反面、電子ジャーナルへアクセスする場合、サイトアクセス制限や該当雑誌のみしかアクセスができないなど、パッケージ製品に比べ不利な条件も発生する。したがって、図書館には当該大学に見合ったビジネスモデルを選択し提供することが求められる。

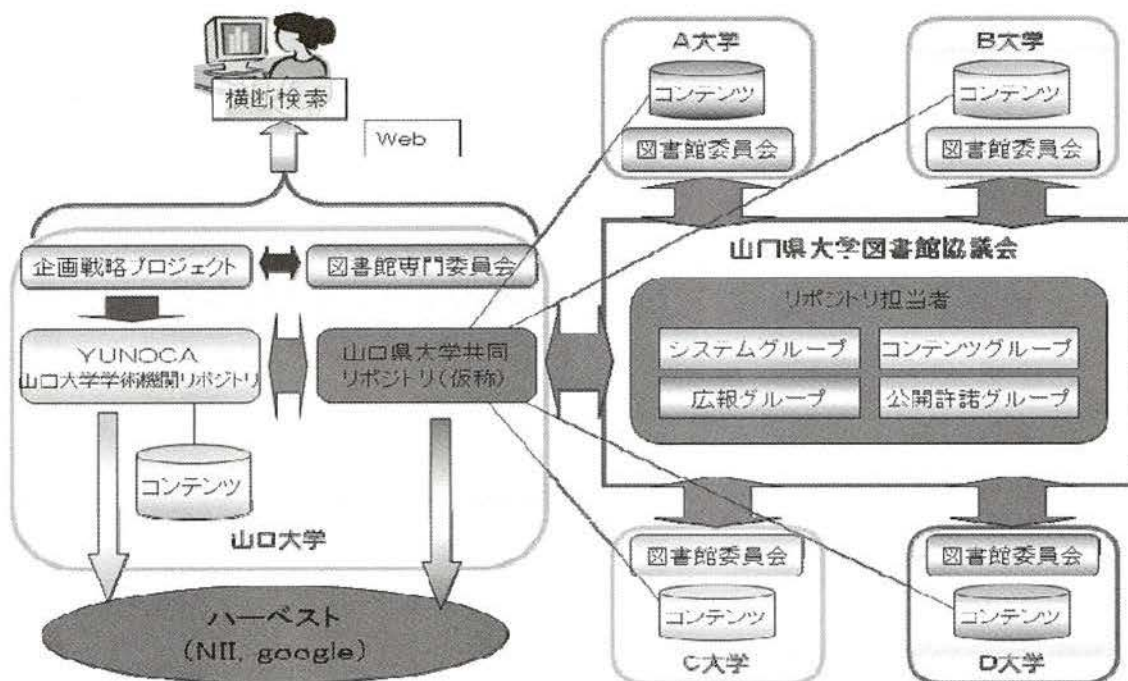
また、電子媒体固有の問題として、公衆送信権等の著作権に係わる問題や出版社が定めたルールを無視した不正ダウンロード対応、さらには大学外からの利用要望への対応等、解決すべき課題が多々ある。

学術機関リポジトリの構築

大学は教育と研究の場であり、教員等はその成果を論文として数多く生産し、図書や雑誌等へ投稿している。近年、これらの学術成果物を電子的に収集・保管し、Webを利用して広く社会へ公開する「学術機関リポジトリ」が多くの大学で進められている。山口大学では、2005年度から2007年度の間、国立情報学研究所の委託を受けて学術機関リポジトリシステムの構築を行い、現在「YUNOCA」(ユノカ)の愛称で4千点以上の学術成果論文の全文データと1万点以上のメタデータを公開している。

また、2008度からは、国立情報学研究所から新たな委託を受け、山口県大学図書館協議会(以下「県大図協」という。)を母体に5大学の参加による「山口県大学共同リポジトリ」の構築に着手した。同リポジトリ事業は、大学からの情報発信機能の核になるものと期待が高く、今後参加大学の増加が予想されている。この様に、大学から積極的に情報を発信することは、大学で行われている研究活動の可視性を高めることとなり、地域社会に対する説明責任の一端を担うという観点からも重要な事業であると位置付けられている。

山口県大学共同リポジトリ実施体制



この他、リポジトリには大学が持っている貴重書などの学術資産やデジタル・コンテンツの掲載も視野に入れ検討を行っている。特に、学術資産には酸性紙や経年経過による劣化の激しい資料があり、大学図書館が所蔵する貴重な学術資産を次世代へ継承するため、修復・保存並びに電子化活動に取り組んでいる。

大学図書館の公開

1999年度に施行された「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」(略称：情報公開法)を契機に、国内の多くの大学図書館では一般市民に対して公開の動きが始まり、2004

年度からの国立大学の独立行政法人化は、地域との連携を模索する動きや公開に拍車をかけることとなった。

県大図協が実施した「平成 20 年度統計調査票」によると、加盟館のすべてが何らかの形で一般市民の利用に向け取り組んでいることが分かった。また、利用者の利便性を図るため、平日の開館時間の延長や、土日開館を実施している加盟館も数多く見受けられ、さらに、ほとんどの加盟館では館外貸出サービスをも実施するなど、一般市民に対するサービスの充実に努めている。

なお、一般市民の利用を周知する方法としては、図書館 Web ページへの掲載、学園祭等を通じたチラシ配布等による PR、市民からの問い合わせによる個別対応、公共図書館との連携を通じた情報流通、及びクチコミ等が挙げられるが、同調査票から推察すると未だ宣伝不足と言わざるを得ない状況であり、一層の広報が課題である。

ちなみに、同調査によると、加盟館全体では蔵書冊数は 326 万 5 千冊強、学術雑誌は 4 万 6 千タイトル余を所蔵しており、これらの学術情報基盤資料を所蔵している大学図書館が、地域の知の拠点として果たす役割は大きく、さらなる飛躍に向け取り組んでいくことが期待される。

公共図書館との連携

最近の国内動向として、大学図書館と公共図書館が相互協力協定を締結し、資料の相互貸借や職員研修などを対象に連携を図っている例が数多く見られるが、県内においても山口地域や山陽小野田地域でこうした取り組みが行われている。大学図書館と公共図書館が保有している蔵書構成はそれぞれ特徴があり、両者が連携することにより、各々の不足している部分を補完する形でのサービスを展開することが可能となり、学内利用者や一般市民に対しよりきめの細かいサービスの提供を行うことができる。

また、下関地区では大学及び短期大学図書館が連携して課題に取り組んでいるといった例もあるなど、図書館コミュニティの連携拡大は様々である。

なお、県内には「山口県内図書館横断検索システム」が既に立ち上がるなど環境は整備されているものの、この事業は緒についたばかりであるため、取り組むべき課題や今後の展望を見据えながら改善を図らなければならない。

図書館サービスの拡充に向けた取り組み

いずれの大学図書館も、厳しい財政運営の中にありながら、利用者サービス拡充の声に対応するため、館内教育研修とは別に山口県図書館協会ほか各種団体が主催する研修会等を通じて図書館職員の資質の向上を図ってきた。県大図協では新たな試みとして、2006 年度から大学図書館間で共通して利用できる資料やサービス内容の可視性を高める目的で、情報リテラシー教材の共有による業務の省力化に向けた検討を開始した。

また、利用者が必要とする文献を素早く提供するシステムとして、DDS (Document Delivery Service=インターネットを活用した文献配送サービス) の本格稼働に向け検討を行っている。外国大手出版社の一部では DDS を認めているところもあるが、DDS は出版社のポリシーや著作権法に抵触する問題もあるため、全体で明確化されるまでには至っていない。一方、国内においては、大学図書館と著作権団体との協議で一定の妥協点は

見られるが、短期大学や高等専門学校においてはまだ課題が残されている。

この他、ユニークな事業として学生協働という動きがある。大学内には知的好奇心旺盛な学生が多数在学しており、彼等と協働して図書館事業に取り組むことにより、学生は学問で得たことを実践する場として、図書館ではピアサポート（学生同士のコミュニティ）体制の導入により、参考資料の活用方法や文献の入手方法など、図書館の利用に対し学生の立場に立ったサービスが提供できるものとして期待している。このような取り組みは、県内の私立大学で既に十数年前から実践しているところもあり、大学図書館の重要な利用者である学生に質の高いサービスを提供し、図書館機能の強化を図るために、各大学図書館へ拡大するのではないかと考えられる。

おわりに

いま、大学図書館に求められているのは、膨大な蔵書冊数を誇るのではなく、各々の大学図書館が所蔵している図書館資料の有効活用を図ることであり、そのためには大学内の学生や教職員へのサービス拡充はもとより、一般市民に対しても可能な限り質の高いサービスの提供と利便性の向上を目指していく必要がある。その手段の一つとしてOPAC（Online Public Access Catalog）やインターネットを活用した資料の紹介、検索及び提供といったサービスの充実強化が挙げられる。

一方、大学図書館を取り巻く環境は、法律や学内規則などの制約をはじめとした多種多様な問題はあるものの、関係団体と連携することにより進化を続けてきた歴史がある。一般公開が浸透してきた現時点では、ノウハウをより多く持っている公共図書館との連携も重要な手段であるといえる。

インドの図書館学者ランガナタンが、図書館に求められる姿として 1931 年に提唱した「図書館学の五法則」（①図書は利用するためのものである②いずれの読者にもすべて、その人の図書を③いずれの図書にもすべて、その読者を④図書館利用者の時間を節約せよ⑤図書館は成長する有機体である）があるが、大学図書館は、その利用対象に一般市民を含めながら、ITを駆使して必要な情報を素早く提供するなどサービスの拡充を努めてきた。これからもさらなる進化と成長を目指し、関係諸機関と連携し活動していくことが期待されている。

第4項 『やまぐち 2010 年の図書館像』による検証

はじめに

『やまぐち 2010 年の図書館像』¹（以下、『図書館像』という。）は、山口県図書館協会政策委員会により、国の「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」を受ける形で、2002 年 6 月に概要版が、2003 年 2 月には解説書が刊行された。県内公立図書館が目指す方向と目標を、数値基準にまで踏み込んで定めた、いわば山口県版「望ましい基準」である。

『図書館像』は、[山口県公立図書館のめざす 10 か条][山口県公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準][山口県公立図書館のサービス目標]の 3 つからなる。ここでは、そのうちの「山口県公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（以下、[基準]という。）の達成状況について、[基準]が数値対象とした 2001 年度と、直近の 2007 年度の統計数値²を元に検討する。この間、いわゆる平成の大合併により、県内の自治体構成は激変した。そのため、数字の上での単純な比較を行うことには若干の無理が伴うが、質的な評価はここでは行わず、量的なもののみを対象とする。すなわち、[基準]の 12 項目の「サービス目標と条件整備」の中で設定された 6 項目の目標値、および解説本文の中に設定された 3 項目の目標値の達成状況である。それらを確認することで、県内の市町立図書館の現況を概観してみたい。

資料提供

[基準]は、「図書館の基本的機能は資料提供」(p10)³とするなど、貸出サービスの意義を強調している。県内市町立図書館の貸出点数を見てみると、6,761 千冊（2001 年度）から 9,089 千冊（2007 年度）と、1.3 倍増となった。しかし、設置人口一人当たりの年間貸出点数は 5.5 点（2001 年度）から 6.1 点（2007 年度）と若干改善したものの、[基準]の求める 8 点には達していない。自治体単位でみても、目標値を満たしている自治体は 3 市町（宇部市、岩国市、和木町）にとどまる。なお、2007 年度の全国平均は 5.0 点⁴であり、山口県は第 3 位（設置人口当たりでは第 4 位）と、全国的に見ると高位置にある。

また、県内市町立図書館の総貸出点数における予約貸出の割合は、2.5%（2001 年度）から 5.2%（2007 年度）となり、目標値の 3%を大きく上回っている。自治体単位でみても、12 市町で目標値を超えている。合併により図書館システムの統合化が進んだことに加え、Web - OPAC の普及・改善、さらに在庫資料に予約がかけられるようになったことが大きな要因と思われる。

資料・資料費

2001 年度以降の県立図書館を含む県内公立図書館の受入冊数は、阿東町立、阿知須町立、山口市立の 3 館が開館した 2003 年度をのぞき、ほぼ全国平均の周辺を推移している。一方、2007 年度の県内市町立図書館の人口一人当たりの資料費は 240 円で、目標値 500 円の半分以下にとどまっているうえ、この目標値を達成している自治体は 1 町（和木町）のみ⁵である。2001 年度には 500 円以上を達成していた 10 町村（須佐町、鹿野町、和木町、久賀町、玖珂町、豊田町、美和町、徳地町、橘町、旭村）も、和木町を除く 9 町村が周辺市町村と

合併し、合併後の市町は「基準」の求める資料費に到達していない。これら旧町村図書館の合併後における資料費減などによるサービス低下が懸念されるところである。

また、図書資料の年間購入冊数が最低 4,000 冊以上という基準値を満たしている館は 11 館しかない⁶。逐次刊行物、特に雑誌についても、2007 年度に市で 200 誌以上、町で 100 誌以上という基準を満たしている自治体は、山口、防府、岩国の 3 市のみである。

運営

「基準」は、「図書館が、図書館法の理念にそってその役割と機能を果たしていくには、設置者である自治体の教育委員会が、直接管理運営することが基本」（p22）とする。合併に伴って直営化された館（周南市立熊毛図書館）がある一方、行財政改革の促進により、カウンター業務を委託した館（防府市立防府図書館）や、指定管理者制度が導入される館（新下関市立下関図書館）もあるが、公設公営の原則は堅持すべきである。

直営館の運営状況も決して楽観できない状況にある。「基準」では、図書館費（人件費を含む）の目標値は一般会計の 1% 以上が望ましいとしているが、達成している自治体は皆無であり、半分の 0.5% を超える自治体でさえ、20 自治体中 3 自治体と非常に厳しい。

設置

いわゆる平成の大合併により、2001 年の 56 市町村から 2007 年には 22 市町⁷となり、自治体の数が大きく減少したため、図書館未設置の自治体は阿武町と上関町を残すのみとなった。2001 年以降、阿東町立（2003 年 4 月）、阿知須町立（2003 年 7 月）、山口市立（2003 年 11 月）、長門市立ゆや分館（2005 年 3 月）、光市立大和分室（2005 年 4 月）が新設され、周防大島町立東和（2004 年 5 月）、防府市立（2006 年 11 月）、柳井市立大畠（2007 年 3 月）が新館として開館した⁸。2007 年の時点で、県内の公立図書館および図書室（条例設置のもの）をあわせると 51 施設である。県内には 174 の公立中学校⁹（2007 年度。分校含む）があり、身近に利用する地域館は 1 中学校区に 1 館とする「基準」の目標と比較すると、2009 年以降、6 市 1 町で新館¹⁰の建設予定があるものの、目標の達成は厳しい。

施設

図書館が地域の情報拠点として機能するために、「基準」は、建物の延べ床面積は最低 800 m² 以上が必要だとしている。この目標値に満たない館が、2007 年時点で 28 館¹¹（新築前の山口市立小郡図書館を含む）と、約半数を占めている。また、2001 年以降に新築された 8 施設のうち、柳井市立大畠、阿東町立、周防大島町立東和、長門市立ゆや分館、光市立大和分室の 5 施設は 800 m² 未満である。今後の新・改築の際は、この目標値を満たす計画が望まれる。

職員

図書館を構成する三要素のうちで最も重要とされる職員について、「基準」は、職員数は貸出点数 3 万点に 1 人という目標値を設定している。県内市町立図書館の貸出点数 908 万 9 千冊からすると 303 人が必要となるが、非正規を含めた実際の専任職員数¹²は 363.1 人であり、目標値を超えていることになる。しかし、「基準」が求めるこの目標値は、人口一人

当たりの年間貸出点数が8点以上になるような利用が多い図書館での、貸出点数当たりの最低限の職員数を示すものであり、地方中小図書館の諸条件を配慮した場合、貸出点数だけによらない職員配置が必要であることは論をまたない。

さらに、市町立図書館全職員のうち正規職員は133人と36.6%に止まり、そのうち専門職員である司書有資格率は44.4%に過ぎない。嘱託・臨時・委託等の非正規職員が60%以上を占め、その司書有資格率は52.8%と逆転現象も起こっている。図書館活動が非正規職員に依存している現状を実証しており、職員体制の適正化は最も重い課題である。

おわりに

以上、[基準]が求める2010年迄に達すべきとした目標値9項目について、2007年度の統計数値と比較してきた。目標値のうち、市町立図書館全体としてすでに達成されているものは予約率と職員数の2項目に止まる。目標値自体が、比較的高い水準を求めているものであるとはいえ、望ましい状況とは言えない。[基準]が真に有効なものとなるために、各図書館および山口県図書館協会が、その活動や実践を通じて、図書館の社会的役割の重要性、整備充実の必要性を訴え続けることが求められる。

¹ 山口県図書館協会政策委員会編『山口県の未来をひらく やまぐち 2010 年の図書館像』山口県図書館協会、2003。

² 検討に用いた資料は以下のとおり。

山口県図書館協会編『山口県公立図書館年報 平成13年度』山口県図書館協会、2002。

山口県図書館協会編『山口県公立図書館年報 平成19年度』山口県図書館協会、2008。

日本図書館協会図書館調査事業委員会編集『日本の図書館 統計と名簿 2002』日本図書館協会、2003。

日本図書館協会図書館調査事業委員会編集『日本の図書館 統計と名簿 2008』日本図書館協会、2009。

なお、全国の値は『日本の図書館』に、県内の数値は『山口県公立図書館年報』によった。

³ 以下、ページ数の表示は注1前掲書のもの。

⁴ 『日本の図書館 統計と名簿 2008』の「人口百人あたり貸出数」の全国平均数値501.9に基づき算出した。

⁵ 人口一人当たり資料費500円以上という目標値は、[基準]策定時の全国の貸出密度（人口1人当たりの資料貸出点数）上位にある図書館の高い資料費を参考にしながら、県内各市立図書館の実状を勘案して設定した望ましい数値である。和木町の資料費も人口別の[サービス目標・整備基準]に照らすと十分とは言えないことになる。

⁶ 具体的には右のとおり。下関市立下関、同長府、同彦島、宇部市立、山口市立中央、萩市立萩、防府市立、下松市立、岩国市、光市立、長門市立。そのうち、岩国市立図書館は、各館の購入冊数を明らかにしていない。

⁷ その後、2008年3月に美祢市が誕生したことにより、2009年4月現在20市町となった。

⁸ なお、2008年11月に山口市立小郡図書館が新築された。

⁹ 山口県教育庁教育政策課“山口県主要基礎データ(教育委員会)”山口県。

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50100/kkt/kisodata.html> (参照2009-04-24)。

¹⁰ 山口市秋穂、宇部市楠、上関町で新規設置が計画・予定されている。また、下関市、萩市、周南市熊毛、下松市で新館建設が予定されている。

¹¹ 2008年11月に山口市立小郡が新館（延べ床面積1,986.23㎡）となり、目標値以下の館は27館となった。

¹² 職員については、2008年度当初（2008年4月1日）のもの。

山口県図書館協会史関連年表

[凡 例]

- 山口県図書館史としては、中世大内氏の山口殿中文庫や近世の明倫館文庫を含むことになるが、この年表は山口県図書館協会の歩みを主とする関連年表を意図したため、収録範囲は明治以降の関係事項とした。
- 年表は、山口県図書館協会関係事項と県内図書館・全国図書館関係事項とを左右2欄に分割して記載した。
- 山口県図書館協会関係の記事の多少により、当該年の左右の欄の幅を変えたところがある。
- 全国図書館関係事項については、斜体を用いて表記した。
- 月日の表し方は、次のとおり。
例： 4. 12 は、4月12日を表す。
4. は、日付が不詳なもの、または日付を省略したもの。
— は、月日が不詳なもの、または月日を省略したもの。

山口県図書館協会関係事項	県内図書館関係事項・全国図書館関係事項
1872(明治 5)	4. 文部省、書籍館設立
1874(明治 7)	5. 10 山口県萩支庁内の掲示所を書籍新聞縦覧場とする。
1881(明治 14)	10. 17 「町村立学校幼稚園書籍館設置廃止規則」布達
1887(明治 20)	12. 山口高等中学校に東京図書館の書籍払下げ
1892(明治 25)	3. 日本文庫協会創設 10. 山口美以教会の柳原浩夫、山口町に図書館を開設、明治31年休館、廃館
1897(明治 30)	4. 帝国図書館官制公布、初代館長に田中稲城(岩国市出身)
1898(明治 31)	6. 京都府立図書館開館
1899(明治 32)	4. 秋田県立図書館設立 6. 29 山口県連合教育会発会の議場で中央教育団提出の議案「山口ニ図書館ヲ設置スルノ件ニ付協賛ヲナスコト」を可決 9. 1 県立萩中学校設置以来、有志の間で図書館設置を希望 11. 図書館令公布
1900(明治 33)	1. 5 関西文庫協会設立、2月4日発会式 8. 1 滝口吉良・菊屋剛十郎の寄付により、阿武郡立萩図書館建築着工 12. 13 県会で、県立図書館設置のための吉敷郡指定寄付金10,000円の採納を可決
1901(明治 34)	1. 30 萩中学校内に、阿武郡立萩図書館開館 4. 佐野友三郎、関西文庫協会に入会 12. 5 通常県会で、図書館建設のための次年度予算を可決

1902(明治 35)	2. 8 古沢滋前知事の後任として武田千代三郎が山口県知事に就任 4. 児玉源太郎が郷里の徳山町（現周南市）の旧宅跡に文庫建築に着手 5. 宮崎県立図書館設立 12. 23 山口県立山口図書館の設置を文部大臣認可
1903(明治 36)	1. 23 児玉源太郎、徳山町の生地に私立児玉文庫、開庫式挙行、都濃郡教育会運営 2. 茨城県立図書館設立 3. 3 佐野友三郎が山口県立山口図書館初代館長に就任 4. 大阪府立図書館設立 6. 29 武田知事が休職、後任として渡辺融が山口県知事に就任 7. 6 県立山口図書館開館、自由接架式の児童閲覧室を設置
1904(明治 37)	1. 14 県立山口図書館巡回書庫の貸出を開始、第 1 号は阿武郡役所 5. 出雲村立堀尋常高等小学校に図書館付設 10. 3 尾中郁太の寄付をもとに、佐波郡中関村立華南図書館設立、文部省認可 12. 10 中関村立華南図書館竣工、18 日開館式 一 玖珂郡広瀬小学校内に微明図書館設立
1905(明治 38)	1. 1 吉敷郡西岐波村の錦波小学校内に私立西岐波文庫創立、大正 12 年に村立となり、戦後は廃館 1. 5 宇部共同義会、日露戦争記念として私立宇部図書館を宇部小学校内に設立、館長は校長兼任 1. 10 中関村立華南図書館、華南小学校内に開館、香川政一校長が館長兼務 2. 山口高等商業学校図書館設置
1906(明治 39)	1. 10 吉敷郡阿知須村に私立阿知須図書館閲覧所開所 1. 阿武郡明木村の明木小学校校庭に図書館舎起工、3 月竣工 1. 児玉文庫、都濃郡内巡回書庫実施 3. 第 1 回全国図書館員大会開催 7. 9 吉敷郡大内村に私立大内校友会図書館閲覧所創立 9. 豊浦小学校に豊浦文庫開設 10. 5 明木図書館に文部省設立認可 10. 中関村立華南図書館、書庫増築 11. 1 瀧口吉良の援助により、明木村立明木図書館設置、開館式挙行、校長桜井民次郎を館長に任命 12. 9 玖珂郡新庄村に私立新庄同窓会附属図書館創立
1907(明治 40)	2. 11 吉敷郡吉敷村に私立良城文庫創立、昭和 2 年村立、山口市編入後は市立 3. 1 玖珂郡高森町に私立高森図書館開館、大正 15 年町立 3. 31 児玉文庫の管理を都濃郡教育会から児玉秀雄に復し、設立者の児玉家が直接管理 4. 11 吉敷村澤山家の協力による良城青年会付設私立良城文庫開庫 4. 県立山口図書館、2,540 冊で開架制を実施 5. 玖珂郡柳井町光台寺に私立柳井図書館創立 6. 都濃郡会、児玉文庫の増築に寄付することを決議、6 月着工、9 月竣工

		7. 8 阿武郡徳佐村に村立德佐通俗図書館創立 10. 出雲村立堀小学校内の図書館を、出雲村立堀図書館として認可 10. 17 日本文庫協会『図書館雑誌』を創刊 11. 3 都濃郡福川村在村の福田民平の寄付により、福川村立福川図書館創設 都濃郡富田村に私立竹島文庫創立
1908(明治41)		2. 1 熊毛郡麻郷村麻郷小学校内に私立麻郷文庫創立、大正14年村立 2. 11 福川村立福川図書館開館式挙行 3. 日本文庫協会、日本図書館協会と改称 3. 1 吉敷郡秋穂村に私立本郷小学校校友会図書館創立、大正11年頃、秋穂村立図書館に合併 4. 1 福川村立福川図書館開館し、一般公開 4. 1 大島郡油田村に村立油田図書館創立 4. 2 熊毛郡島田村に村立島田図書館創立 4. 5 熊毛郡周防村に私立向山文庫開庫 4. 10 東宮殿下(後の大正天皇)県立図書館行啓 4. 15 豊浦郡阿川村に私立阿川浦青年図書館創立 6. 1 美祢郡赤郷村に村立日露戦役記念桂陽文庫創立、大正12年2月文部省表彰 7. 1 厚狭郡厚南村に私立厚南文庫創立、大正11年12月村立、昭和17年4月宇部市立 7. 19 玖珂郡御庄村に私立御庄図書館創立、昭和2年5月村立 熊毛郡勝間村に勝間村立勝間図書館開館 7. 20 玖珂郡神代村に私立神代青年会附属図書館創立、昭和8年以降廃館か 7. 26 豊浦郡豊東村に私立重本文庫創立、大正10年村立 8. 20 熊毛郡上関村に村立上関図書館創立、大正11年2月文部省表彰 9. 1 玖珂郡神代村に私立明照寺図書室創立 9. 玖珂郡祖生村に私立祖生図書館創立、大正7年村立 10. 13 厚狭郡厚西村の厚西小学校内に行啓記念私立厚西文庫開庫 11. 3 厚狭郡藤山村に村立藤山図書館創立 12. 1 佐波郡小野村に村立小野図書館創立
1909(明治42)	10. 1 ～3日、県内図書館関係者大会開催、参加者38名、32館を代表(当時の館数は46館) 1日、県立図書館において開会、演説：私立児玉文庫監督杉山富樫・阿武郡立萩図書館長村上俊江・村立華南図書館長香川政一・私立西岐波文庫主管三井誠之進・由宇村青年興風会会長田中浦吉、日本赤十字社山口支部において記念撮影、懇親会、来賓渡辺県知事演説 2日、県立図書館長佐野友三郎が「米図書館事情」と題して演説、その後3件を協議し委員に調査を附託、山口県図書館協会結成を決議 3日、規則を制定、図書整理に関する実習 この間、県内外・米国の図書館関係の書式類と写真・絵ハガキを展示(県を単位とした協会としては全国初)	1. 1 玖珂郡由宇村に私立由宇青年興風会附属図書館創立、大正6年村立由宇図書館に 2. 11 熊毛郡田布施村に私立金声文庫創立 吉敷郡陶村に村立陶通俗図書館創立 大津郡深川町に町立深川文庫創立 4. 1 厚狭郡高千帆村の高千帆小学校に付設して私立高千帆図書館創立、昭和11年村立、昭和15年編入により小野田市立 5. 28 熊毛郡室津村に村立室津図書館創立 美祢郡大嶺村に村立日露戦役記念大嶺図書館創立 玖珂郡余田村に村立余田文庫創立 6. 1 玖珂郡玖珂村の玖珂小学校内に付設して、私立玖珂同窓会附属図書館創立、大正5年村立となり、昭和26年公民館所管となる。 熊毛郡三丘村に私立三丘図書館創立 6. 1 県立山口図書館木造2階建書庫完成、7月から図書の分類を「山口図書館分類表」に変更、8月には臨時閉館して全蔵書の再整理、貸出方式もニューアーク式に変更 7. 1 厚狭郡厚南村に私立厚南文庫創立 7. 18 豊浦郡宇賀村の宇賀小学校内に私立古谷文庫創立、昭和6年村立宇賀図書館となる。 8. 10 豊浦郡教育会付設豊浦図書館、忌宮神社内に開館

11.	佐野友三郎、日本図書館協会に入会  山口県図書館協会を創立した県立山口図書館初代館長佐野友三郎	9. 1 阿武郡地福村に村立地福図書館創立 熊毛郡光井村に私立野原青年同志会野原文庫創立 美祢郡真長田村に村立東宮殿下行啓記念淳美図書館創立、大正 11 年文部省表彰 佐波郡右田村に村立右田図書館創立、大正 12 年県表彰 9. 10 豊浦図書館、豊浦郡内に巡回文庫の回付を開始 10. 1 吉敷郡名田島村に村立名田島図書館創立、昭和 19 年 4 月山口市編入により山口市立 11. 3 美祢郡伊佐村に村立日露戦役記念伊佐図書館創立 12. 1 熊毛郡高水村に私立高水図書館創立、昭和 18 年に村立 12. 2 文部大臣小松原英太郎が臨席して、県庁で 9 名の図書館事業特別尽力者を表彰 12. 3 小松原文部大臣、県立山口図書館を視察
1910(明治 43)	 1910 年創立当時の岩国図書館 (岩国市岩国図書館提供)	1. 15 熊毛郡平生町に町立平生図書館創立 2. 3 小松原文部大臣「図書館施設に関する訓令」発令 4. 24 吉敷郡井関村に私立井関図書館創立 5. 出雲村立堀図書館が村内有志の寄付により堀小学校そばの建物に独立 6. 図書館令改正、図書館令施行規則公布 6. 1 大島郡平郡村に村立平郡西文庫創立 7. 1 阿武郡紫福村に村立紫福図書館創立 玖珂郡伊陸村に私立伊陸図書館創立、昭和 6 年村立 8. 2 萩町の明倫小学校内に私立明倫文庫創立、明治 44 年 5 月私立明倫図書館と改称、45 年 4 月から町営 8. 3 岩国町に岩国小学校付設岩国図書館創立 10. 15 佐波郡西浦村に村立西浦図書館創立、昭和 14 年防府市編入により市立 10. 20 熊毛郡三井村に村立三井図書館創立 12. 2 熊毛郡佐賀村に村立佐賀図書館創立 — 阿武郡立萩図書館、郡内に巡回文庫を回付
1911(明治 44)	3. 1 ～2 日、県図書館協会第 2 回総会、来賓 6 名、会員 35 名出席 県立山口図書館作成の『山口県町村図書館ニ備付クヘキ書籍標準目録案』を検討、「巡回書庫 回付方法改正ニ関スル件」を協議 講演：県内務部長小田切磐太郎「民育と図書館」、山口高等商業学校教授横地石太郎「古書の印刷及製本」、同校教授山本美越乃「欧米における図書館の状況」	1. 10 熊毛郡室積町に町立室積図書館創立 3. 萩図書館、創立 10 周年記念式挙行 5. 27 大島郡久賀村の小学校内に村立久賀図書館創立 5. 30 大島郡屋代村に村立屋代図書館創立 吉敷郡宮野村の宮野小学校に付設して村立宮野図書館創立 6. 1 厚狭郡須恵村に須恵小学校付設の村立須恵文庫創立 6. 21 佐波郡華城村が優良村として内務大臣表彰を受けたのを記念して村立華城図書館創立、大正 11 年 2 月文部省表彰 11. 21 『米国教育会図書館部報告』を佐野友三郎が抄訳、『師範学校教程図書館管理要項』として自費出版 12. 14 熊毛郡八代村に村立八代図書館創立
1912(明治 45・大正元)	6. 1 県図書館協会第 3 回総会開催、県立図書館にて、出席者 40 名 協議事項：巡回書庫選択目録に関する件ほか 1 件、講演：広島高等師範学校教授三澤糾「英米にて見たる図書館」、県内務部長小田切磐太郎「地方改良と図書館」、阿武郡立萩図書館長村上俊江「図書館の第一問題」 「年々図書館協会ノ会合ヲ開キテ研究協議ヲ遂ケ県内図書館全体ヲ以ッテノ図書館系統ト為シ互ニ相助ケ	1. 8 都濃郡末武村に村立花岡文庫創立 4. 1 大島郡蒲野村に村立蒲野図書館創立 5. 30 吉敷郡大蔵村に村立大蔵文庫創立 5. 私立佐波郡小学校教員文庫を佐波郡役所内に創立 7. 10 吉敷郡秋穂二島に村立秋穂二島図書館創立、大正 11 年 2 月文部省表彰 7. 22 美祢郡秋吉村に村立秋吉図書館創立 8. 2 豊浦郡角島村に村立角島図書館創立 9. 1 厚狭郡船木村に村立戦役記念船木文庫創立、大正 11 年 2 月文部省表彰 吉敷郡平川村に村立平川図書館創立、大正 11 年 2 月文部省表彰 9. 23 豊浦郡内日村に私立内日図書館創立

	テ効果ノ普及増進ヲ期ス」山口県図書館事業一覧（大正2年6月刊）p.1 総説より	10. 15 都濃郡富田村に村立富岡図書館創立 10. 17 玖珂郡鳴門村に私立鳴門文庫創立 10. 30 大島郡小松志佐村に私立明新文庫創立、大正15年、町立となり小松図書館と改称 11. 3 阿武郡江崎村に私立田万崎青年文庫創立、大正7年、村立多磨図書館となる 11. 20 玖珂郡河山村に村立河山図書館創立 — 玖珂郡日積村に私立日積青年会附属図書館創立
1913(大正2)	7. 1 県立図書館開館10周年にあわせ、午後、県図書館協会第4回総会開催、出席者45名 講演：県内務部長真中直道「読書の選択」、県立図書館長佐野友三郎「図書館の協同作業」、大坂府立図書館長今井貫一「近世的図書館の特徴—米図書館の一般状況」	1. 3 吉敷郡嘉川村に私立興進図書館創立、大正10年村立となり、昭和19年山口市編入により市立 2. 1 吉敷郡秋穂村に村立秋穂図書館創立、大正11年8月文部省表彰 3. 1 都濃郡久保村に村立東陽文庫創立、大正14年山口県表彰、昭和10年村立久保図書館となり、昭和14年下松市立 3. 5 美祢郡大田村に村立大田図書館創立、大正11年2月文部省表彰 3. 15 厚狭郡出合村に村立出合文庫創立、昭和4年厚狭町編入により町立出合文庫に改称 4. 1 厚狭郡厚東村に村立厚東図書館創立 玖珂郡和木村の和木小学校内に村立和木図書館創立 4. 8 吉敷郡佐山村に村立佐山図書館創立 5. 20 熊毛郡塩田村に村立塩田図書館創立 7. 1 山口県立山口図書館開館10周年記念式を挙行、『山口県図書館事業一覧』発行、「山口附近史蹟展覧会」開催 8. 2 吉敷郡小郡町の小郡尋常高等小学校内に町立小郡図書館創立、大正13年5月文部省表彰 9. 熊毛郡大野村に村立大野図書館創立 9. 佐波郡防府町に県社松崎神社附属私立松崎文庫創立 11. 1 明木図書館、巡回書庫の回付を開始 11. 5 豊浦図書館、新館移転し開館 — 大島郡平郡村に村立平郡東文庫創立 — 阿武郡須佐村に私立育英文庫創立、大正13年村立 — 玖珂郡藤河村に私立多田図書館創立、大正15年村立 — 都濃郡中須村に村立中須図書館創立
1914(大正3)	7. 25 県図書館協会第5回総会、山口中学校において開催、出席者42名 講演：県理事官藤岡兵一「全国より見たる山口県の図書館」、県立図書館長佐野友三郎「図書館雑項」	1. 13 佐波郡富海村に私立富海図書館創立 2. 1 豊浦図書館、新築図書館舎落成式挙行 3. 29 佐波郡牟礼村に牟礼村立進徳文庫創立 4. 1 吉敷郡鑄銭司村に村立黒山通俗図書館創立 大島郡安下庄村に村立安下庄図書館創立、大正11年2月文部省表彰 5. 5 豊浦郡川中村に村立川中図書館創立 6. 1 明木図書館、小学校へ教室文庫を回付開始 10. 1 美祢郡共和村に村立大正記念図書館創立 10. 7 厚狭郡二俣瀬村に二俣瀬図書館創立 — 吉敷郡仁保村に村立仁保図書館創立 — 熊毛郡伊保庄村に村立伊保庄図書館創立 — 玖珂郡通津村に私立通津村青年会図書館創立、大正13年村立 — 熊毛郡勝間村に私立笠陵文庫創立
1915(大正4)	5. 8 佐野友三郎が文部省による図書館事情取調のため渡米、かねてから会員であった米国図書館協会大会（パークレー）に出席、8月21日まで滞在し、米国各地の図書館約50館を視察	2. 11 私立宇部図書館が宇部村に寄付され、宇部村立図書館設立、村内に巡回書庫開始 5. 2 熊毛郡曾根村に村立曾根図書館創立 9. 1 市立下関商業学校付設図書館万古館創立、大正11年3月14日火災により焼失

10. 17	県図書館協会第6回総会開催、出席者45名 講演：県内務部長野口淳吉「図書館経営上の注意」、県立図書館長佐野友三郎「米国図書館事業の実際」、午後図書館事務実習	9. 吉敷郡東岐波村に私立東岐波青年会付設報徳文庫創立、大正14年村立、昭和8年文部省表彰 9. 厚狭郡小野村に大典記念村立小野図書館創立 9. 美祢郡西厚保村に村立大典記念厚保図書館創立 11. 3 大島郡日良居村に私立郷支部附属文庫創立 11. 3 大津郡三隅村に村立三隅図書館創立 11. 10 阿武郡篠生村に村立大典記念図書館創立 11. 10 阿武郡吉部村に村立吉部図書館創立、大正11年2月文部省表彰 11. 12 玖珂郡柳井町に町立柳井文庫創立 11. 28 都濃郡湯野村に村立湯野図書館創立 12. 15 大津郡日置村に村立日置図書館創立 — 美祢郡共和村に村立大正記念図書館創立 — 厚狭郡王喜村に村立王喜図書館創立 — 玖珂郡灘村に村立灘図書館創立、大正末年に沿洋図書館と改称、昭和14年岩国市編入により市立灘図書館と改称 — 豊浦郡勝山村に村立大典記念勝山文庫創立、昭和2年村立行啓記念図書館と改称、昭和14年下関合併により市立
1916(大正5)	11. 18 県図書館協会第7回総会開催、出席者54名 講演：県立図書館長佐野友三郎「小図書館管理要項に就いて」、その後、協会組織を変更し日本図書館協会山口支部設置の件を協議、次年度総会まで保留することを決議	1. 20 厚狭郡吉田村に村立吉田図書館創立 1. 豊浦郡彦島村彦島小学校内に村立大典記念彦島図書館創立 3. 7 室積師範学校で正科に図書館科を置き、市毛金太郎教諭が図書館管理法の講義を開始 3. 玖珂郡北河内村に村立大典記念天尾文庫創立 4. 1 玖珂郡桑根村に村立根笠図書館創立 6. 17 阿武郡吉部村に村立大典記念吉部図書館開館 7. 13 都濃郡米川村に村立米川文庫創立 8. 1 吉敷郡小鯖村に村立小鯖図書館創立 8. 19 阿武郡椿村に村立椿図書館創立、萩編入後は萩町立 佐波郡八坂村に村立八坂図書館創立 9. 18 吉敷郡嘉川村に私立嘉川通俗図書館開館、大正10年村立 10. 1 大島郡湯田村に村立湯田図書館創立 — 大津郡三隅村に村立三隅文庫創立 — 華南図書館、教室巡回書庫、地方巡回書庫を開始 — 厚狭郡糸根村に村立糸根図書館創立 — 豊浦郡阿川村に村立阿川図書館創立 — 美祢郡岩永村に村立岩永図書館創立 — 美祢郡東厚保村に村立大正記念雛山文庫創立 — 玖珂郡北河内村に私立杭名文庫創立 — 玖珂郡玖珂村に村立大礼記念図書館創立
1917(大正6)	11. 5 県図書館協会第8回総会開催 佐野会長開会宣言 前回総会で保留の日本図書館協会山口支部設置を満場一致で可決、役員選出、支部規則協定、支部長選出 協議：「通俗図書館経営管理及運用に関する要項」、「図書館を最も有効に利用する方法如何」、「図書館を青年団員に親しましむべき方法如何」 出席会員84名 11. 6 日本図書館協会山口支部発会式挙行 佐野友三郎山口支部長式辞 徳川頼倫総裁告示 文部大臣（桑原視学官代読）、林市蔵知事ほかの来賓祝辞、祝電披露、和田萬吉会長の祝辞演説	5. 30 豊浦郡豊西上村（のち吉見村）に村立尾崎大典記念図書館創立、昭和14年下関市編入により市立 6. 2 熊毛郡麻里布村に村立麻里布図書館創立 6. 23 美祢郡別府村に村立別府図書館創立 8. 玖珂郡由宇村に村立由宇図書館創立、大正15年町立 9. 4 美祢郡綾木村に村立綾木図書館創立 12. 21 山口県、訓令「図書館設置及改善ニ関スル件」（訓令第55号）を布達、県はこの訓令により、未設置町村に対して図書館の設置を、既存図書館に対して図書充実・運営改善を促す。 — 美祢郡別府村に村立堅田図書館創立、大正13年別府図書館と合併 — 阿武郡椿郷東分村に村立椿東図書館創立、大正12年、萩町編入により萩町立、のち市立、戦後、萩市立図書館に統合 — 阿武郡高俣村に村立高俣図書館創立

	午後、日本赤十字社山口支部にて百余名が参加して午餐会	—	阿武郡小川村に村立小川通俗図書館創立
		—	玖珂郡川越村に私立大典記念川越村有隣会附属図書館創立、昭和7年村立
		—	豊浦郡滝部村に村立滝部図書館創立
1918(大正7)			
10. 17	日本図書館協会山口支部第2回総会開催 佐野支部長開会の辞 中川知事訓示 徳川総裁並びに和田会長祝辞披露 演説：今村理事官「図書館趣味の養成」、 佐野館長「現代図書館の趨勢と本県の図書館」 協議題「本県図書館の振興に必要な施設」、 「巡回文庫廻付方に就きて」 出席会員約54名	6.	文部省、第1回府県立図書館長会議開催
		6. 25	県立図書館煉瓦造り3階建て書庫を増築
		8. 5	大島郡沖浦村に村立沖浦西文庫創立
		8. 27	豊浦郡神玉村に村立神玉図書館創立
		8.	大島郡沖浦村に村立沖浦文庫創立
		—	大島郡日良居村に私立島中文庫、油良教育後援会立油良文庫創立
		—	大島郡沖浦村に村立沖浦東文庫創立
		—	熊毛郡岩田村に村立岩田図書館創立
		—	熊毛郡三輪村に村立三輪図書館創立
		—	美祿郡於福村に村立於福図書館創立
1919(大正8)			
10. 18	日本図書館協会山口支部第3回総会開催 佐野支部長開会の辞 中川知事訓示 講演：今澤慈海(東京市立日比谷図書館頭) 「図書館教育の特徴」、菰田萬一郎(山口高等商業学校教授)「思想上より観たる我国の現在及将来」 出席会員約50名	4. 16	～17日、府県立図書館協議会開催、山口図書館十進分類表を標準分類として採用することを決議
		4.	私立厚西図書館、厚狭町立厚狭図書館と改称
		5.	官立山口高等学校、図書館設置
		7.	大島郡沖浦村に私立家房図書館創立
		9. 25	～29日、県立図書館、図書館事務講習会開催
		—	岩国町に私立総本家大塚親治図書館創立
		—	私立下関教育会図書館開館
		—	大島郡森野村に村立森野図書館創立
		—	都濃郡鹿野村に村立鹿野図書館創立、大正11年2月文部省表彰
1920(大正9)			
5. 13	山口支部長佐野友三郎死去 支部長代理百村轍弥	5. 13	佐野友三郎県立山口図書館長死去、後任館長任命まで百村轍弥司書が館長職を代行
		5. 15	文部省が佐野友三郎著『米国図書館事情』を発行
		7. 13	阿武郡福賀村に村立福賀図書館創立
		8. 3	岩国図書館創立10周年記念式挙行
		10. 30	阿武郡弥富村に村立弥富図書館創立
		10.	市毛金太郎『師範学校教程図書館学要綱』刊行
		11. 19	熊毛郡浅江村に村立浅江図書館創立、のちに光市立浅江図書館
		—	豊浦郡田耕村に私立田耕図書館創立、昭和7年頃村立
		—	大津郡通村に村立通図書館創立、文部省から2回、大津郡から1回表彰
		—	吉敷郡大道村に村立大道図書館創立、大正11年2月文部省表彰
		—	吉敷郡秋穂村に私立大海文庫創立、昭和4年村立大海図書館、のち町立
		—	都濃郡富岡村に村立四熊図書館創立、編入により富田町立に、のちに徳山市立
		—	下関市に私立下関教育会図書館、昭和3年以後廃館か
1921(大正10)			
11. 6	日本図書館協会山口支部第4回総会開催 講演：片山信太郎(大阪市立阿波座図書館長) 「明治に生れたる図書館の追憶」、作田莊一(山口高等商業学校教授)「蓄財に就いて」 協議会等、出席会員52名	2. 11	大津郡俵山村に村立俵山図書館創立
		3. 10	大津郡菱海村に皇太子殿下御渡欧記念村立図書館創立
		3. 28	県立山口図書館第2代館長に厨川肇(千葉県立佐倉中学校長)

	支部長厨川肇 前日午後、有志研究実習会、出席者 26 名	5. 13 寺内正毅の意志を継ぎ、寺内寿一が寺内文庫の建設に着手 6. 文部省、図書館員教習所開設 8. 5 玖珂郡広瀬村に村立広瀬図書館創立 8. 小郡町立図書館、町出身の浅野太三郎が寄付した新築館舎で開館 10. 1 美祢郡綾木村に村立鳳鳴図書館創立 11. 1 市制施行により宇部村立図書館、宇部市立図書館に改称 11. 1 明木図書館、開館 15 周年記念式を挙行政 — 美祢郡共和村に村立青景図書館創立、昭和 5 年村立八代とともに村立大正記念図書館に編入 — 美祢郡共和村に村立八代図書館創立 — 豊浦郡榑崎村に村立榑崎図書館創立 — 大津郡仙崎村に町立先崎図書館 — 大津郡向津具村に村立向津具図書館創立 — 大島郡和田村に村立和田図書館創立
1922(大正 11) 11. 5	日本図書館協会山口支部第 5 回総会開催 講演：湯浅廉孫（広島高等師範学校教授）「漢籍を読むに就て」、満井信太郎（山口高等学校教授）「阿弥陀の首で子をあいし」 協議会等、出席会員 36 名 前日午後、有志研究実習会、出席者 20 名	1. 30 大津郡宇津賀村に村立宇津賀図書館創立 2. 5 吉敷郡宮野村に私立桜園寺内文庫創立開庫 2. 文部省が次の図書館を表彰 屋代・花岡・船木・桂陽の各文庫、上関・福川・鹿野・堀・華城・秋穂二島・平川・大道・淳美・大田・通・明木・紫福・吉部・高俣の各図書館 2. 県が町立深川文庫を表彰 3. 県が岩国図書館、福川図書館を表彰 3. 14 下関商業学校付設図書館万古館、火災により焼失 4. 阿武郡篠生村に村立公民文庫創立 5. 5 玖珂郡高根村に村立高根図書館創立 5. 9 阿武郡生雲村に村立生雲図書館創立 5. 文部省が安下庄町立図書館を表彰 8. 文部省が秋穂村立図書館を表彰 10. 玖珂郡川下村に私立川下図書館創立 12. 1 玖珂郡米川村に村立米川図書館創立 12. 10 中関村立華南図書館、火災により焼失 — 玖珂郡河内村に村立河内図書館創立 — 玖珂郡高森村に私立中田図書館創立 — 熊毛郡城南村に村立城南図書館創立 — 豊浦郡殿居村に村立殿居図書館創立 — 豊浦郡宇賀村に私立八城文庫創立
1923(大正 12) 11. 18	日本図書館協会山口支部第 6 回総会開催 講演：三井誠之進（西岐波文庫長）「図書館と郷土資料」、原弘毅（山口高等学校教授）「伯林の図書館」、 協議会等、出席会員 44 名 前日午後、有志協議、実習研究あり、出席者 12 名	2. 県が村立右田、大内の 2 図書館を表彰 3. 文部省が岩国図書館を表彰 3. 県が町立明倫図書館を表彰 4. 文部省、公立・私立図書館規則公布 4. 1 阿武郡佐々並村に村立佐々並図書館創立 4. 10 郡制の廃止にともない、阿武郡立萩図書館が県に移管、山口県立萩図書館と改称 4. 2 豊浦郡西市町に町立西市図書館創立 4. 25 大島郡久賀町に私立九香文庫創立 4. 文部省が町立明倫図書館を表彰 9. 27 吉川報効会が建設した図書館を岩国町へ寄附、交付式挙行政 11. 1 日から 1 週間、第 1 回図書館週間を実施 12. 25 県立図書館、関東大震災で全滅した横浜市図書館のため、巡回書庫を送り市内に閲覧所を設置 — 玖珂郡桑根村に村立南桑図書館創立 — 玖珂郡深須村に村立深川図書館創立

		— 豊浦郡豊田中村に村立豊田中図書館創立 — 豊浦郡神玉村に私立岡村文庫創立 — 豊浦郡王司村に村立王司図書館創立、昭和 14 年下関市に編入により市立 — 大津郡向津具村に村立川尻図書館創立 — 阿武郡萩町に町立越ヶ浜図書館創立、昭和 20 年末に萩市立に統合 — 阿武郡萩町に町立山田図書館創立
1924(大正 13)	11. 3 日本図書館協会山口支部第 7 回総会開催 講演：今泉浦治郎（山口高等商業学校教授） 「生活の第一線に立つ文学」、小島武雄（山口高等学校教授）「滞英所感」 協議会等、出席会員 32 名 前日午後、有志による研究実習会あり、出席者 14 名	2. 11 阿武郡大井村に村立大井図書館創立 2. 県が村立地福文庫を表彰 3. 28 玖珂郡灘村に村立中洋図書館創立 4. 1 都濃郡下松町に町立下松図書館創立 4. 玖珂郡小瀬村に村立持ヶ峠図書館創立 5. 5 豊浦郡清末村に私立育英文庫創立、昭和 14 年下関市に編入 5. 28 ～ 29 日、県立図書館が図書館経営講話を厚狭郡役所で実施、以後昭和 13 年まで毎年各地で実施 5. 文部省が町立小郡図書館を表彰 6. 13 佐波郡串村に村立串図書館創立 7. 20 佐波郡防府町に私立二葉婦人図書館創立 7. 24 阿武郡三見村に村立三見図書館創立 7. 24 豊浦郡神田村に村立神田図書館創立 9. 22 須恵村立須恵文庫、町役場内に移転し小野田町立小野田図書館と改称 10. 1 豊浦郡教育会付設豊浦図書館、長府町に移管され長府図書館と改称 10. 1 熊毛郡上関村に村立四代図書館創立 12. 1 佐波郡和田村に村立和田文庫創立 12. 18 阿武郡川上村に村立川上西図書館創立 — 大島郡家室西方村に村立家室西方図書館創立 — 大島郡白木村に村立白木図書館創立 — 玖珂郡小瀬村に村立小瀬、樋口、乙瀬図書館創立 — 玖珂郡本郷村に村立本郷図書館創立 — 熊毛郡上関村に村立八島、祝島、白井田図書館創立 — 熊毛郡周防村に村立周防図書館創立 — 熊毛郡阿月村に村立阿月文庫創立 — 都濃郡夜市村に村立夜市図書館創立 — 阿武郡奈古村に村立奈古図書館創立 — 阿武郡川上村に村立川上、高瀬、野戸呂図書館創立 — 阿武郡福賀村に私立半田図書館創立 — 下関市に私立豊南文庫創立 — 県、優良図書館に奨励金交付、当年は地福文庫、右田図書館に交付
1925(大正 14)	11. 2 日本図書館協会山口支部第 8 回総会開催 講演：植松安（東京帝国大学司書官）「欧米図書館の現況」、匹田直（山口高校教授）「我が上代の民族」、 研究発表：田中藤一（福川図書館）、部坂俊亮（報徳図書館）、坂倉静代（俵山図書館）、堀田断蔵（地福文庫）、伊藤新一（明木図書館）、出席会員 46 名 前日午後、有志による研究実習会あり、出席者 15 名	2. 県が東陽文庫、長府図書館、明木図書館を表彰 3. 10 玖珂郡坂上村に村立坂上図書館創立 3. 17 県が「公私立図書館県費補助規則」（山口県令第 11 号）公布 4. 1 阿武郡嘉年村に村立嘉年図書館創立 4. 9 児玉文庫の経営管理の全てを児玉家の親戚浅見栄熊に委嘱 5. 1 阿武郡六島村に村立大島図書館創立 5. 28 華南図書館の新築館舎落成式挙行 6. 1 豊浦郡小串町に町立小串図書館創立 6. 豊浦郡安岡町に町立宣徳図書館創立、昭和 5 年安

		12. 1 — —	岡図書館と改称、昭和 13 年下関編入により市立 豊浦郡栗野村に村立栗野図書館創立 玖珂郡深須村に村立須川図書館創立 都濃郡向道村に村立大向図書館創立
1926(大正 15・昭和元)	11. 21 日本図書館協会山口支部第 9 回総会開催 講演：水野教授（山口高等学校）「民族性と 哲学」、奈倉教授（山口高等商業学校）「翻 訳文学に就いて」 協議では、図書館員の講習会開催を県に要望 することを可決 研究発表：上野義春（福川図書館）、時山富 蔵（萩図書館）、伊藤作一（小野田図書館）、 飯田信三（防府二葉婦人図書館）、伊藤新一 （明木図書館）、出席会員 48 名 前日午後、有志研究実習会あり、出席者 15 名	3. 20 3. 4. 1 5. 28 11. 1 12. 16 — — — — —	山口町の中村女学校内に私立含章婦人文庫創立 文部省が長府図書館を表彰 柳井町立柳井文庫、柳井町立図書館と改称 皇太子（昭和天皇）が 4 日間にわたり岩国・防府 ・山口・萩・秋吉・宇部・下関の各地を行啓、そ の際、28 日甘露寺侍従が児玉文庫を、29 日牧野侍 従が県立山口図書館を視察 明木図書館開館 20 周年記念式挙行、記念の読者組 合開設を決める 通常県会で行啓記念事業として県立山口図書館新 館建設の予算案可決 玖珂郡愛宕村に村立愛宕図書館創立、昭和 15 年岩 国市立 玖珂郡秋中村に村立秋掛、北中山図書館創立 玖珂郡広瀬村に村立広東図書館創立 都濃郡久米村に村立久米図書館創立、昭和 17 年徳 山市立 都濃郡加見村に村立加見図書館創立、昭和 17 年徳 山市立
1927(昭和 2)	11. 24 日本図書館協会山口支部第 10 回総会開催 講演：奥田啓市（鹿児島県立図書館長）「県 下の図書館事業」、大谷三郎（鴻城中学校長） 「普選に就いて」、出席会員 56 名 前日午後、有志の研究会有り、出席者 24 名	2. 11 4. 9 5. 16 9. 11. 3 12. 31 12. — — — —	文部省が昭和 10 年まで、紀元節に優良図書館へ奨 励金を交付、県内では村立地福文庫を表彰 岩国町立岩国図書館、夜間開館開始 ～ 18 日、県立図書館が図書館講習会を柳井町立図 書館で開催 宇部市立図書館、神原小学校内に移転 ～ 5 日、岩国図書館、図書館週間行事として郷土 書画展覧会を開催 東宮殿下本県行啓記念事業として県立山口図書館 新館（春日山庁舎）落成式、来賓 250 名 <i>青年図書館員連盟結成</i> 熊毛郡田布施町に私立多賀文庫創立、多賀神社の 附設文庫、のち小学校に移る 熊毛郡束荷村に村立束荷図書館創立 宇部市に私立菁莪文庫創立 都濃郡戸田村に村立戸田図書館創立
1928(昭和 3)	 1928 年新築の明木図書館 (伊藤新一著 『町村・学校図書館経営ノ実際』より)	2. 11 3. 1 4. 8 6. 25 9. 12 12. 16 —	文部省が中関町立華南図書館を表彰 明木図書館に滝口吉良が御大典記念図書館建築資 金と図書を寄贈 岩国図書館創立 20 周年記念式挙行、記念絵葉書発 行 明木図書館、明木小学校校庭に新館舎起工、8 月 31 日竣工、旧館は書庫として移築 豊浦郡黒井村に村立大典記念黒井図書館創立 瀧口吉良の指定寄付金を基にした明木村立明木図 書館新館落成式 萩町に町立本間図書館創立、昭和 21 年 1 月萩市立 萩図書館に統合
1929(昭和 4)	11. 28 日本図書館協会山口支部第 11 回総会開催	2. 11	文部省が灘村立中洋図書館、私立児玉文庫を表彰、

	黒崎知事ほかの来賓あり、会員 55 名出席 前日の有志研究会で提案された二つの建議案を決定し、知事に提出 1 両師範学校生徒に対し、適当なる方法により図書館学を講ずべきこと 2 本協会の地方別自治的研究協議会に適当な助成を与えられんこと 講演：村島新潟図書館長「図書館の経営に就いて」、御菌生翁甫「郷土史の一断面」 協議会、出席者の意見発表 翌 29 日、間宮書店福岡店員芝原狷介による図書簡易修理法実習、40 名出席	奨励金交付 3. 7 県立図書館館名を「行啓記念山口県立山口図書館」と改称、開館前の 3 日間にわたり一般公開、見学者は 1,600 名 3. 10 行啓記念山口県立山口図書館開館 4. 1 阿武郡見島村に村立見島図書館創立 4. 1 豊浦郡小月村に村立小月図書館創立、昭和 14 年下関市立 5. 14 小野田図書館、書庫を建築 11. 10 防長史談会結成、県立山口図書館内に事務局設置第 1 回例会を開催 — この年県内図書館数 254 館と最高を記録
1930(昭和 5)	11. 10 日本図書館協会山口支部第 12 回総会開催 平井知事ほかの来賓あり、会員 48 名出席 講演：小川五郎（山口高等学校講師）「図書館と郷土学」、大里瀬（福岡市男子高等学校図書館司書）「図書館の経営に就きて」 会務報告、協議会	2. 11 文部省が日置村立日置図書館を表彰 4. 1 佐波郡和田村に私立高瀬文庫創立 12. 26 山口県保管の旧藩時代記録類 6,123 冊を県立山口図書館に保管転換 — 玖珂郡通津村立通津図書館にハワイ会からの寄贈を受け「ハワイ文庫」を特設
1931(昭和 6)	11. 8 日本図書館協会山口支部第 13 回総会開催 平井知事ほかの来賓あり、会員 52 名出席 講演：松田稔「狩野芳崖の画に就いて」、その後協議会、出席者の意見発表	1. 20 伊藤新一著『町村学校図書館経営の実際』刊行 2. 11 文部省が下松町立下松図書館を表彰 4. 1 豊浦郡豊田下村に村立豊田下図書館創立 4. 2 帝国図書館長松本喜一が「図書館の使命」と題して天皇陛下に御進講 10. 中央図書館協会設立 11. 1 明木図書館開館 25 周年記念式挙行 12. 26 県立山口図書館、満州駐屯軍慰問のため図書雑誌の寄付を募り 5 回に分けて発送
1932(昭和 7)	11. 10 日本図書館協会山口支部第 14 回総会開催 岡田知事ほか約 20 名の来賓、会員 46 名出席 講演：御菌生翁甫「郷土史の研究に就いて」 午後協議会、出席者の意見発表	1. 1 児玉文庫、有料制とする。 2. 11 文部省が豊浦郡栗野村立栗野図書館を表彰 5. 全国図書館大会で「図書館記念日」（4 月 2 日）制定 — 熊毛郡高水村に村立高水図書館創立 — 都濃郡富田小学校に富田町立図書館付設
1933(昭和 8)	11. 23 日本図書館協会山口支部第 15 回総会並びに県立図書館創立 30 周年記念式開催 40 名の来賓、会員 56 名が出席 厨川支部長開会の辞、菊山知事訓示、関屋文部省社会教育局長講演訓示、松尾友雄社会教育局属講演「町村図書館の使命」 午後、山口図書館創立 30 周年の内祝で表彰等を実施した後、講演を続行、協議会	2. 11 文部省が吉敷郡東岐波村立報徳図書館を表彰 2. 11 山下美代蔵の寄付による山下記念町立厚狭図書館開館 3. 20 合併により彦島村立図書館が下関市立に 4. 1 萩図書館内に萩中学校職員会が教員文庫、学生文庫を特設し経費的に援助、萩中学校では「図書館科」を特設 4. 第 1 回図書館記念日 7. 1 改正図書館令公布、公立図書館職員令改正 9. 15 改正図書館令により、県立山口図書館が山口県中央図書館に指定認可 11. 23 県立山口図書館、創立 30 周年の内祝を挙行、「行啓記念山口県立山口図書館沿革略」刊行
1934(昭和 9)	11. 2 日本図書館協会山口支部第 16 回総会開催 講演：田村盛一（山口高等商業学校附属図書館）「小図書館の再認識と其の活動」 発表：萩「縣一般を通しての仕事に就て」、	2. 11 文部省が町立柳井図書館を表彰 5. 7 文部省主催、第 1 回中央図書館長会議開催 6. 文部省主催、良書普及協議会開催 11. 1 ～ 7 日、岩国町岩国図書館、図書館週間行事とし

	小野田「小野田郷土志料発行の沿革」、厚狭「地方的研究者に対する読物の提供」水沼課長「図書館補助費使用の奨励に就て」来賓多数、出席会員 41 名	12. 17	てポスター・葉の配布、後援会、童話会を実施 長府図書館に長府町史談会が設立
1935(昭和 10)			
10.	前年の総会での田村盛一の講演を『小図書館の再認識と其の活動』として刊行	2. 11	文部省が町立小野田図書館を表彰
11. 2	日本図書館協会山口支部第 17 回総会開催 知事代理水沼社会教育課長ほか来賓多数、会員 47 名出席 講演：小川五郎（山口高等学校教授）「独歩と松陰」、香川政一（萩図書館司書）「松陰先生をめぐりて」 前日午後、図書館事務講習、14 名受講	4. 10	豊浦郡川棚村に村立川棚図書館創立
		6.	児玉文庫、増築を決定、12 月竣工
		7.	出雲村立堀図書館の館舎を堀青年学校として使用開始
		11. 30	明木図書館に瀧口吉継から金 1 万円の寄付
		12. 26	防府市江泊出身の上山満之進から図書館を新築して三哲文庫とし寄付する申し出があり、議会で寄付採納を可決
1936(昭和 11)			
12. 8	日本図書館協会山口支部第 18 回総会開催 講演：岩田博蔵（前山口高等学校長）「東西文化の一端と復古七十年」 明倫図書館提出協議題「図書館実務研究協議会開催の件」について可決 小野田、明倫、明木、山口高商の各図書館から発表 多数の来賓並びに会員 44 名出席	2.	児玉文庫、児玉文庫後援会を組織
		6. 28	県立山口図書館、図書館経営法講習会を児玉文庫で開催、以後県内各地で全 6 回開催
		8. 25	中関町立華南図書館、合併により防府市立となる。
		10. 8	～ 10 日、全国高等諸学校図書館協議会第 13 回大会が山口高等商業学校で開催、56 校 74 名出席
		11. 1	明木図書館、開館 30 周年記念式典挙行
		12. 30	防長史談会解散、『防長史学』第 7 巻第 2 号で終刊
		—	宇部市に私立上宇部図書館創立
1937(昭和 12)			
8.	山口県史編纂所編『防長史蹟地誌解題 附防長修史事業沿革概説』を日本図書館協会山口支部が発行	1.	防長文化研究会結成、県立山口図書館内に本部設置、『防長文化』創刊、昭和 13 年 10 月まで発行
11. 7	日本図書館協会山口支部第 19 回総会開催 来賓 10 数名、会員 37 名出席 講演：田村盛一（山口高等商業学校書記）「明治以前に於ける本邦図書館史概説」 発表：香川政一（萩図書館）「明倫館の巡回書庫に就て及徳富蘇峰氏の思想に就て」、木村浩（佐々並図書館）「日本図書館協会第 32 回大会と満州に就て」、野村良蔵（厚狭図書館）「通俗図書館と児童の読書」、原田順圓（川中村豊南文庫）「寺院経営の公開文庫に就て」、堀田断蔵（明倫図書館）「図書館附帯施設の実際に就て」、伊藤新一（明木図書館）「村落図書館の効果の考察と国民精神総動員に就て」	3. 20	王政復古 70 年記念事業のため、県立山口図書館に県史編纂所開設
		3. 2	長府町立長府図書館、下関市との合併により、下関市立長府図書館と改称
		6. 19	萩市立明倫図書館、第 1 回通俗文化講座開催、以後、継続して開催
		8.	国民精神総動員実施要綱発表
		9.	「図書館記念日」が国民教化運動宣伝実施基本計画に採択
		12.	軍特務部に占領地区図書館文献接收委員会を組織
1938(昭和 13)			
11. 7	日本図書館協会山口支部第 20 回総会開催 来賓 10 数名、会員 39 名出席 講演：岡本山口高等商業学校校長「読書と修養」 協議：長府図書館提出事項 5 件 発表：浅見（児玉文庫）「読書会に就いて」、山本課長「ヒットラー・ユーゲンと尊攘堂」、田村（山口高商）「貸出法の研究に就いて」、部坂（東岐波）「教師の読書、花嫁学校等に就いて」、野村（厚狭）「公開書架」、堀田（萩明倫）「館の設備、後援会、施行細則」、石川主事（社会教育課）「感想」、伊藤（小野田）「博物館施設、史談会」、香川（県立萩）「館員の熱量、社会の図書館理解」、	1. 12	大津郡日置村に私立植山文庫創立
		2. 9	岩国図書館、国防婦人会の事務所を館内に設置
		2. 15	～ 16 日、県立山口図書館が図書館経営講習会を岩国町立岩国図書館で開催
		3.	国家総動員法公布
		3.	中央図書館 14 に文部省奨励金交付
		6. 6	県立山口図書館が図書館経営講習会を小郡図書館で開催
		6. 18	～ 19 日、県立山口図書館主催の図書館振興実地研究会を明木図書館で開催
		7. 30	三哲文庫の建設が、上山満之進の死去により自然中止
		11. 25	阿武郡宇田郷村に村立宇田郷図書館創立

	伊藤（明木）「目録索引、館訓練、修理、館精神」	12. 22	下関市、市立下関図書館開設を議決
1939(昭和 14)			
11. 5	日本図書館協会山口支部第 21 回総会開催 知事代理学務部長ほか 10 数名の来賓、会員 35 名出席 講演：小川五郎（山口高等学校教授）「鈴木重胤と防長」 午後、出席者による意見発表	1. 26 2. 13 4. 1 4. 17 5. 6. 27	小野田町立小野田図書館、笠井順八の遺志により建築された笠井記念館内に移転 上山満之進の遺族が再び三哲文庫の建築寄付を申し出、1 月後、議会が採納を議決 熊毛郡の島田、三井、浅江の各村立図書館は町村合併により周南町立となる。 紀元 2600 年に際し、文部省から緊急図書館事業費として 500 円交付、徳山市児玉文庫にて「図書館協議会」開催（6 月 22 日久賀町立図書館、10 月 19 日日置小学校、11 月 30 日大田小学校） 宇部高等工業学校図書館設置 長府図書館、長府毛利家より図書寄贈を受け毛利文庫を特設
1940(昭和 15)			
6. 13 12. 14	日本図書館協会山口支部長の厨川肇死去 紀元 2600 年記念山口県図書館大会並びに日本図書館協会山口支部第 22 回総会開催 来賓多数、会員 150 余名出席 武井知事告辞、功労者表彰、巡回書庫利用の多い施設 13 館 2 校を表彰、日本図書館協会松平頼壽総裁ほかの祝辞で式を閉じ、次いで知事諮問事項「時局ノ要求ト本県ノ実状ニ鑑ミ図書館ノ活動ヲ一層盛ンナラシムル方策如何」について附議、審議の結果、答申案を満場一致で可決 講演：大田光次（福岡県中央図書館長）「図書館の能動性」 支部長には新県立図書館長田中眞治が就任	4. 5. 1 6. 30 7. 1 11. 1 12. 23 — —	市制施行に伴い、岩国町立岩国図書館が岩国市立岩国図書館に改称 下関市、旧市役所議会議施設を名池小学校隣接地に移築、図書館としての利用を準備 下関図書館、落成式並びに開館式を挙行 紀元 2600 年を記念し、下関市立下関図書館開館、巡回文庫開始 市制施行に伴い、小野田町立小野田図書館が小野田市立小野田図書館に改称 三哲文庫、上山家から市に引き渡し完了 紀元 2600 年にあたり全国で記念行事開催 都濃郡櫛浜町に町立櫛浜図書館創立、昭和 17 年度に大華図書館と改称
1941(昭和 16)			
		1. 25 2. 3. 4. 1 4. 28 6. 18 10. 31 12.	～ 26 日、市部代表図書館協議会（下関市立図書館） 県立女子専門学校図書館設置 全国図書館大会にかわって第 1 回全国図書館総合協議会開催 上山満之進の遺志により、市に寄付された三哲文庫が防府市立三哲文庫の名称で開館 県立山口図書館が「図書館振興懇談会」を開催、5 月 10 日にも開催 国民学校長会議において、県が図書館の新使命達成に関する件として 4 項目を指示 県、「市町村立図書館振興助成ニ関スル件」通牒 太平洋戦争始まる。
1942(昭和 17)			
4. 14	日本図書館協会山口支部第 23 回総会開催 防府商業学校において、山口県主催「県下公私立図書館長会議」と同時開催 山口県図書館協会再発足を決定 講演：鳥井喜楽（福岡県黒土村立図書館長）「時局下に於ける図書館の経営」 協会の新会則により、11 の支部組織が発足 第一支部（大島郡）、第二支部（玖珂郡、岩国市）、第三支部（熊毛郡）、第四支部（都濃郡、徳山市、下松市）、第五支部（佐波郡、防府市）、第六支部（吉敷郡、山口市）、第	1. 17 2. 13 2. 20 4. 1 5. 19 6. 4	防府市内図書館長会議を開催、三哲文庫が防府市立中央図書館となる。 図書群選択協議会開催、3 月 19 日にも開催 ～ 21 日、支部代表図書館長会議（宇部図書館） 三哲文庫、後援会発足、貸出文庫開始、一部開架式を採用したが紛失が多かったため 3 か月で中止 ～ 20 日、創立 50 周年を迎えた日本図書館協会が通常総会、第 1 回部会総合協議会開催 県立山口図書館、青年の読書力を育成する目的で特別文庫を編成し、これを「図書群読書研究指定学校」に指定した青年学校に委嘱

12. 11	七支部（厚狭郡、宇部市、小野田市）、第八支部（美祢郡）、第九支部（豊浦郡、下関市）、第十支部（大津郡）、第十一支部（阿武郡、萩市） ～ 12 日、県立山口図書館において開催された読書指導協議会とあわせて協会評議員会を開催	7. 新刊図書優先配給要綱決定 8. 27 小野田市立小野田図書館、風水害により蔵書の大 半被害 9. 文部省、日本図書館協会共編『読書会指導要綱』 刊 11. 11 ～ 12 日、県立山口図書館において読書指導協議会 開催、国民皆読運動を推進 12. 8 下関図書館、大東亜戦争一周年を記念して国民文 庫を設け、市内の学校・青年団・町内会等 29 団 体に巡回文庫を発送開始 — 華南図書館、周防灘台風による高潮被害 — 大島郡和田村に村立小泊文庫創立
1943(昭和 18) 10.15	評議員会並びに支部長会	1. 10 県立山口図書館、6 読書会を指定し特別指導を実 施 2. 公立図書館への新刊図書優先配給開始 3. 2 文部省嘱託平沢薫が来県、指定読書会を視察、5 日の最終日に青年学校教員養成所で学校読書会実 地研究会を開催 4. 1 岩国市立図書館、吉川報効会へ移管され私立岩国 図書館と改称 4. 1 三哲文庫開館 2 周年、館外個人貸出開始 4. 1 光市市制施行により室積、三井、島田、浅江の各 館は光市立に 5. 8 読書会運営研究委員会が組織 6. 1 宇部商工会議所が、新川講堂を宇部市立図書館に と市に寄付、独立館として発足 10. 6 県立山口図書館、評議員会を組織 11. 1 宇部市立図書館、開館式を挙行 11. 県は、主要市町村に対し図書館新設とその充実に つき勸奨督励 12. 25 県立山口図書館、田村盛一著『初代館長佐野友三 郎氏の業績』を創立 40 周年記念事業として刊行
1944(昭和 19)		2. 20 県立山口図書館、5 か所の指定読書会を指定 4. 県立医学専門学校図書館設置 5. 21 県立山口図書館、読書会指導委員 8 名を嘱託 6. 12 県、国民学校併設図書館の独立青年学校への移管 を通牒 7. 青年図書館員連盟解散 8. 24 ～ 10 月 30 日、県内各地で読書会実施研究会を実 施 9. 『図書館雑誌』第 294 号で休刊 9. 16 下関図書館の建物の一部に暁第 16719 部隊が駐在 (昭和 20 年 9 月退去) 10. 三哲文庫本館の一部に市役所教育課及び兵事課が 疎開 (昭和 20 年 9 月退去)
1945(昭和 20)		1. 6 県立山口図書館、灯火管制のため夜間開館中止 3. 県立山口獣医畜産専門学校図書館設置 5. 1 玖珂郡深須村に村立深須図書館創立 5. 6 県立教育博物館の事務室を県立山口図書館内に移 転 5. 25 ～ 6 月 3 日、県立山口図書館の 1、2 階を防長新聞 社に提供するため臨時閉館して 3 階に移動 6. 岩国図書館の大部分を海軍設営隊が接收 6. 22 県立山口図書館、貴重図書の疎開開始



空襲にあった徳山市街地
(徳山青年会議所
『目で見る徳山の歴史』より)

		7. 2 宇部市立図書館戦災により一切を焼失 7. 13 岩国図書館、吉香文庫へ図書の疎開開始 7. 18 三哲文庫、図書疎開 7. 20 小野田市立小野田図書館、図書を分散疎開、閲覧中止 7. 26 徳山市の空襲により児玉文庫の一切を焼失 8. 14 光市立浅江図書館、空襲直撃により全蔵書焼失 8. 15 戦争終結の詔勅 9. 1 厚狭郡船木町に私立德基図書館創立 9. 光市立島田図書館、終戦により大部分の図書を焼却 10. 文部省、学校教育局・社会教育局を復活 10. 1 県立山口図書館、占領軍による図書廃棄開始、翌年末までに 14,032 冊を処分 10. 30 萩市立明倫、椿東、越ヶ浜、椿、山田、木間図書館の 6 館の統合が決定 11. 光市、図書館経営準備委員会を開催、図書館の統合を計画 12. 1 萩市、国民学校の併設図書館を統合、萩市立図書館設立 12. 11 岩国図書館から進駐軍が写真帖等持去、没収
1946(昭和 21)	8. 5 団体等規制令により山口県図書館協会の結社届を山口市に提出	1. 20 小野田市立小野田図書館、疎開図書を回収し閲覧業務再開 2. 25 進駐軍岩国軍政監本部、岩国図書館の接收を決定 4. 宇部市立図書館、上宇部小学校記念文庫を仮館舎とし再興 5. 1 岩国図書館、横山の岩国徴古館に移転し閲覧開始 6. 『図書館雑誌』復刊 6. 文部省、都道府県中央図書館長会議開催 7. 21 宇部市立図書館、閲覧業務開始、職員 3 名 7. 31 下関図書館、焼失紛失 4,204 冊、没収 3,773 冊の除籍終了、当日現在蔵書 18,933 冊 8. 10 防府市立三哲文庫、防府市立防府図書館と改称 10. 15 光海軍工廠宿舍跡に設置される光市立光図書館が県知事から認可 11. 3 日本国憲法公布 11. 15 ～ 16 日、戦後初の郡市代表図書館長会議開催（萩市立図書館）、25 日付で県並びに地方関係先に陳情書送付
1947(昭和 22)		3. 12 長府図書館から警察が軍国主義関係図書を没収 3. 31 教育基本法・学校教育法公布 4. 1 六・三制発足 4. 1 下松図書館、館長不在で事実上廃館、資料は終戦で散逸 7. 5 光市立図書館、旧海軍工廠光寮跡に開館、蔵書 3,000 冊、職員 3 名 10. 1 小野田図書館、組織を充実して再発足 10. 28 郡市代表図書館長会議開催（防府図書館） 11. 弥富村立弥富図書館、弥富公民館内に移転 11. 戦後第 1 回読書週間実施 12. 12 長府図書館が C I E 図書を受領、閲覧開始
1948(昭和 23)		1. 5 宇部図書館に C I E 読書室を開設 2. 国立国会図書館法公布、国立国会図書館設立 3. 日本点字図書館設立

		5. 1 県立山口図書館内に山口軍政部、GHQ、ニュージージーランド軍からの寄贈による「アメリカ図書室」を開設 5. 18 光市立図書館、図書館規則を改正し、閲覧料金を徴収 5. 県立萩図書館内に「アメリカ図書雑誌室」を開設 6. 戦後第1回の全国図書館大会開催 7. 14 ～15日、県立山口図書館で独立図書館長会議開催、図書館振興についての要望事項を協議決定 7. 25 小野田市立小野田図書館、移転 7. 文部省、学校図書館協議会設置 10. 1 防府図書館にCIE読書室を開設 10. 6 県立山口図書館後援会が発足 10. 10 徳山市立徳山図書館、仏教会館内で開館、CIE読書室を併設 10. 豊浦郡豊田前村に村立豊田前図書館創立 10. 山口県図書館長自治会、10名の連署で図書館振興についての陳情書提出 11. 1 山口県教育委員会発足 12. 文部省『学校図書館の手引き』刊 — 明治40年創立の光市私立野原文庫が新設の野原公民館に移転、その後機能消滅
1949(昭和24)		4. 1 柳井町立柳井図書館、町立東中学校本館2階に移転 5. 1 美祢郡町村会、県立図書館分館設置の嘆願書提出 5. 10 広瀬町立広瀬図書館、町役場に付設 5. 31 国立学校設置法公布 6. 1 山口大学発足、附属図書館・分館・分室を設置 6. 10 社会教育法公布 6. 徳山図書館が仏教会館から徳山小学校校舎に移転、7月10日から再開 7. 1 小野田市立小野田図書館、団体貸出文庫開始 7. 8 「図書館長会議・研究協議会」開催 8. 19 長府図書館、CIE図書を下関図書館に移管 9. 下松市に下松市教育図書館創立 11. 30 県立図書館美祢分館設置の予算案を県議会が可決 12. 私立深川農協図書館開館 — 由宇町立図書館、町役場内に開設、無人自由貸出 — 各県の学校図書館設立相次ぐ
1950(昭和25)		2. 全国学校図書館協議会設立 3. 佐波郡各村長から、出雲村に県立図書館分館設置の陳情 3. 山口女子短期大学附属図書館設置 4. 5 光図書館が三井農業協同組合に分館を設置 4. 28 岩国図書館、進駐軍の接收解除 4. 30 図書館法公布 5. 1 安下庄町立図書館、町公民館内に再発足 6. 10 県立図書館美祢分館(秋吉村)が開館 7. 3 防府市立三哲文庫が防府市立防府図書館に改称 7. 19 久賀町立久賀図書館、久賀中学校内に移転 7. 31 県立山口図書館1、2階の防長新聞社撤収 8. 1 小野田図書館高千帆分館、高千帆支所内に開設 8. 10 岩国図書館、吉川報効会から岩国市へ移管され岩国市立図書館として開館、11月『岩国ライブラリー』創刊 9. 1 「山口県立図書館条例」公布、館名を山口県立山

			口図書館と改称 県立図書館佐波分館設置の予算案を県議会可決 9. 13 徳山図書館、キジア台風により被害 10. 9 県立山口図書館に山口趣味の史談会事務所設置 10. 県立図書館美祢分館、教育庁車両による貸出文庫開始 11. 20 ～25 日、日本図書館協会が最初のワークショップを岡山市で開催、以後各地で開催 12. 15 県立萩図書館、新館建築落成式 — 豊浦郡や玖珂郡などから県立図書館分館設置の請願相次ぐ
1951(昭和 26)	5. 18 独立図書館長会議開催、山口県図書館協会の復興等について協議		1. 21 岩国市立岩国図書館、市民大学講座開講、以後昭和 40 年まで継続 2. 16 萩市は江向公民館に隣接して図書館を建設、県に無償貸与、県立萩図書館として新築開館、同時に阿武郡立図書館創設以来 50 周年記念式典挙行、従来の萩市立図書館は県立萩図書館に合併、蔵書数 71,943 冊 4. 公民館・公立図書館に対する補助金交付開始 4. 17 県立図書館佐波分館、新館舎竣工式挙行 5. 18 独立図書館長会議開催 6. 11 独立図書館長会議開催（小野田図書館） 6. 13 小野田市立小野田図書館、県内初の BM「むつみ号」運行開始 6. 28 広島 C I E 図書館山口分館、県立山口図書館内に開設 7. 文部省図書館専門職員養成講習を東京大学ほか 4 大学で開講、以後昭和 30 年まで各地の大学で開講 8. 5 県立図書館佐波分館（出雲村）が開館 8. 下松市教育図書館、下松市に移管 11. 玖珂郡鳴門村に村立鳴門図書館開館 11. 16 山口県公共図書館研究協議会発足、県立山口図書館に事務局設置 11. 28 県立山口図書館内に毛利文庫室完成 12. 5 広島 C I E 図書館宇部分室、宇部市渡辺翁記念会館に開設 12. 5 県立図書館豊浦分館（菊川村）が開館
1952(昭和 27)	3. 30 ～31 日、独立図書館長会議、県立山口図書館で開催、山口県図書館協会の再建について協議 6. 14 独立図書館長会議、宇部図書館で開催、山口県図書館協会の設立について協議 11. 8 独立図書館長会議、長府図書館で開催、山口県図書館協会の復興を協議、創立準備委員会、会則案起草委員会設置		1. 県立萩図書館内に萩童話研究会事務所を設置、併せて視聴覚施設を創設 1. 31 第 2 回山口県公共図書館研究協議会（徳山図書館） 4. 県立山口図書館の「広島 C I E 図書館山口分館」が「広島アメリカ文化センター（ACC）山口分館」と改称 4. 1 県立山口図書館が分類切替作業を開始、山口図書館分類から NDC 6-A 版へ切替 4. 6 下松市公民館 2 階に下松市立図書館開設 4. 13 柳井町立柳井図書館、国家地方警察署跡に移転 4. 26 県立山口図書館 1 階の一部を県フィルム・ライブラリーの事務室として貸与 5. 光図書館、支所の一部に室積分館開設 6. 5 彦島公民館に隣接して、下関市立下関図書館彦島分室開設 9. 29 第 4 回山口県公共図書館研究協議会（小野田図書館） 11. 教育委員会全国に一斉発足 11. 23 ～24 日、第 5 回山口県公共図書館研究協議会（県

			立図書館豊浦分館)
1953(昭和 28)			
4. 27	山口県図書館協会(山図協)を再興、設立総会開催、会則制定、役員選出 会長に鈴木賢祐山口県立山口図書館長就任 理事会開催	3. 16	～17日、第6回山口県公共図書館研究協議会(岩国図書館)
5. 12	事業部発足、図書館用品の斡旋開始	4. 1	下関図書館、接架式に館内改装
7. 2	理事会開催	4.	防府図書館内に市史編纂所が開設
8. 19	～20日、厚狭郡学校図書館振興協議会図書整理講習会に講師派遣	5. 25	宇部市立図書館、新築開館
9. 3	田布施公民館図書整理講習会に講師派遣	6. 2	宇部市立図書館、児童室開設
9. 10	徳山地区図書館協議会目録法及図書整理講習会に講師派遣	6. 29	～30日、第7回山口県公共図書館研究協議会(光図書館)
9. 15	学校図書館研究協議会(日置中学校)出張指導	7.	徳山図書館、徳山小学校から元徳山高校校舎に移転
10. 16	理事会開催	8. 8	学校図書館法公布
10. 27	～11月9日、図書館用品展示会(県立山口図書館)	9. 7	県立図書館豊浦分館、菊川マーケットを改造した独立館舎に移転、貸出開始
11. 4	～5日、製本指導者養成講習会(徳山図書館)に講師派遣	10. 1	福川図書館、合併により南陽町立
11. 9	県、県教委、山図協共催で山口県図書館大会及び山口県図書館協会臨時総会開催、「司書及び司書補講習についての要望」と「学校図書館法の趣旨実現についての要望」を決議、要望書を関係方面に提出、参加者180余名 大津郡学校図書館運営協議会整理講習会(仙崎中学校)に講師派遣	10. 8	独立図書館長会議(防府図書館)、図書館大会及び司書講習会につき協議、即日要望書提出
12. 11		10. 12	～13日、第8回山口県公共図書館研究協議会(下関図書館)
		11. 26	日本図書館協会、全国公共図書館研究集会を開催
		11. 29	「山口県地方史学会」設立、事務所を県立山口図書館内に設置
		12. 18	防府市立華南図書館開館50周年記念式挙行
		12. 25	県立山口図書館、田村盛一著『山口図書館五拾年略史』刊行
		12. 27	県立山口図書館開館50周年記念式を挙行
1954(昭和 29)			
2. 1	理事会開催、研究集会実施を可決	2. 27	県教委主催、山口県公共図書館長会議開催(県立山口図書館)
2. 8	～9日、山口県公共図書館研究集会(県立山口図書館)	3. 8	～9日、第9回山口県公共図書館研究協議会(宇部図書館)
3. 13	県公民館職員講習会(三隅公民館)出張指導	3. 31	柳井町立柳井図書館、柳井市立柳井図書館に改称
3. 29	理事会開催	4.	由宇町立図書館、由宇小学校併設の公民館内に設立
4. 22	阿武郡西部小学校図書館協議会(佐々並小学校)に講師(伊藤明木図書館長)派遣	4. 1	久賀町立久賀図書館、県に移管、県立図書館大島分館として開館
4. 26	定期総会開催、会員70余名出席 午前中総会議事 午後研究発表:大谷高照(仁保村東園小学校校長)「学校図書館の歩み」、高橋文雄(山口市吉敷公民館)「公民館図書部の営み」、渡辺秀忠(県立)「レファレンス・ワークの研究」、佐方嘉彦(山口市大殿小学校)「学校図書館における目録について」	5.	全国図書館大会で「図書館の自由に関する宣言」採択
6. 29	理事会開催	6. 8	光市立図書館、市民館の一部に移転
7. 14	～9月3日、文部省主催「図書館専門職員養成講習」開催に協力	6. 17	第10回山口県公共図書館研究協議会(防府図書館)
9. 29	～30日、第11回山口県図書館研究協議会(下松図書館)、以後改称して学校図書館・公民館を含め、引受館と協会で共催	7. 8	学校図書館法施行に伴い「宇部市公共図書館・学校図書館連絡協議会」結成
10. 18	理事会開催	7. 14	～9月3日、山口大学にて文部省主催、「図書館専門職員養成講習」開催 県内外の148名が受講
11. 15	～17日、全国公共図書館研究集会第1部会図書館統計を日本図書館協会などと共催	11. 15	全国公共図書館研究集会第1部会図書館統計を県立山口図書館で開催、3日間
11. 26	～27日、県外図書館研究視察として、福岡県・大分県の学校図書館を視察	11. 26	宇部市神原小学校にて学校図書館研究会開催
12. 16	～17日、第12回山口県図書館研究協議会(厚狭図書館)		
1955(昭和 30)			

1. 5	～15日、優良図書巡回展示会共催	1. 5	優良図書全国巡回山口県展示会、5～6日下関集文堂、8～9日小野田図書館、11～12日県立山口図書館、14～15日徳山図書館
1. 20	理事会開催	2.	小郡町公民館に図書館開設
1. 24	山口県市長会並びに各市教育局委員会に図書館関係予算・協会負担金について陳情書提出	2. 17	山口市平川小学校にて学校図書館研究会
2. 17	山口市学校図書館教育研究会（平川小学校）に講師派遣	2. 22	阿武郡佐々並小学校にて学校図書館研究会
2. 22	阿西学校図書館研究協議会（佐々並小学校）に講師派遣	2. 28	県教委主催、県下公共図書館長会議開催
2. 25	第13回山口県図書館研究協議会にかえて福岡・八幡方面の図書館を一行9名で視察	3. 31	県立図書館美祢分館で自動車文庫用車輛を購入、「みね号」と命名
2. 28	～3月4日、県外図書館研究視察として、大阪府・京都府の学校図書館を視察	4.	町村合併により図書館改称相次ぐ 広瀬町立広瀬→錦町立広瀬、鳴門町立鳴門→大島町立大島、明木町立明木→旭町立明木、弥富町立弥富→須佐町立弥富、安下庄町立→橘町立
3. 10	『山口県図書館協会報』創刊	5. 14	山口県公共図書館研究集会開催（第1部会「図書館のPR活動」：岩国図書館、第2部会「特殊資料の整理」：宇部図書館、第3部会「児童に対する図書館奉仕」：明木図書館）以後、山図協との共催で昭和37年頃まで毎年開催
3. 28	県選出衆参両議員に文部省の図書館関係予算についての陳情書発送	5. 20	県立図書館美祢分館開館5周年記念式並びにブック・モービル設置披露式
4. 8	理事会開催	5. 25	日本図書館協会定期総会で明木図書館長伊藤新一が顧問に推挙
4. 15	通信投票による役員選挙	5. 30	山口県学校図書館協議会の設立準備会、県立山口図書館で開催
4. 24	市長会・各市長・各市教育局に対し、日本図書館協会（日図協）と山口県図書館協会への負担金支出を継続するよう陳情	6. 12	徳山市で第1回山口県学校図書館研究大会開催、山口県学校図書館協議会を結成、以後44年の第16回大会まで毎年開催
4. 25	総会開催、会員90余名出席 総会後、研究発表	7. 12	柳井市立図書館、旧柳井保健所に移転
5. 14	山口県公共図書館研究集会共催	7. 24	～8月4日、教職の図書館学認定講習、阿知須中学校と高森小学校で開催
5. 16	図書整理講習会（県立図書館佐波分館）	8. 6	～24日、山口大学教育学部で司書教諭講習開催
6. 6	理事会開催	10.	深川農協図書館、長門市中央公民館に移転
6. 15	『山口県図書館協会報』を『YLA通信』に誌名変更	11. 20	第1回山口県学校図書館研究協議会（防府市華浦小学校・防府高等学校）250名参加
6. 27	～29日、第4回「中国地区公共図書館研究集会」共催	11. 28	学校図書館研究協議会（綾木中学校）
8. 3	下松市学校図書館夏期講習会に講師派遣		
8. 4	図書整理実務実習（大内中学校）に講師派遣		
9. 13	理事会開催		
11. 15	理事会開催		
12. 5	第14回山口県図書館研究協議会（県立山口図書館）		
1956(昭和31)			
1. 25	理事会開催	2. 1	県立山口図書館が山口市立児童図書館の開館に呼応し「児童室」を廃止、児童図書を市に長期貸出
3. 19	～20日、第15回山口県図書館研究協議会（光図書館）	2. 15	県立山口図書館「臨時分館長会議」開催、分館を翌年度末までに地元移管することについて協議
4. 17	理事会開催	3. 2	山口県点字図書館を、厚生省が点字図書館として指定
5. 10	定期総会開催 午後、研究発表「第6回全国学校図書館研究大会出席報告」（秋吉中学校江田健一）、「学校図書館の現状について」（遠石小学校田中康彦）	3. 22	県教委主催、県下公立図書館長会議開催
6. 4	～5日、第16回山口県図書館研究協議会（徳山図書館）	3.	下関商業短大図書館設置
7. 2	山口県公共図書館研究集会（県立山口図書館）	4. 1	深川農協図書館を長門市に移管、長門市立図書館開館
7. 25	理事会開催	4. 6	山口市立児童図書館、市公会堂内に開館
10. 3	理事会開催	10. 1	県立山口図書館1階に山口県点字図書館開館
11. 12	～13日、第17回山口県図書館研究協議会（下関図書館）	10.	宇部市中部第24区子供の会図書館が文部大臣賞を受賞
12. 10	読書優良団体の表彰伝達式と座談会を共催	11. 15	南陽町立富田図書館開館、業務開始
		12. 10	県立山口図書館で読書優良団体の表彰伝達式と座談会を開催
1957(昭和32)			
1. 25	県下図書館長会議を兼ねて理事会開催	1. 22	寺内文庫を山口県が買収、山口女子短期大学附属図書館として発足
3. 22	～23日、第18回山口県図書館研究協議会（明木図書館）	2. 5	山口県学校図書館研究大会（宇部市神原小学校）
4. 30	定期総会開催、参加者68名	2. 20	県内公共図書館長会議開催

6. 13	特別講演「日本図書館界に対する本県の寄与」 藤林忠（山口大学助教授） ～14日、第19回山口県図書館研究協議会（下松図書館）を全国共通テーマ「公共図書館の利用層の分析と対策」のワークショップに変更して開催	3. 15	創立50周年を記念し、旭村立明木図書館新築開館
7. 1	理事会開催 理事会の決議により「司書教諭補職についての要望書」を県教委に提出	4. 1	県立図書館佐波分館を地元移管、徳地町立図書館として11月5日に開館式
9. 25	理事会開催	4. 24	県教育委員会において、県立4分館の地元移管を正式決定
11. 15	～16日、第19回山口県図書館研究協議会開催（組合立美祢図書館）	5. 1	県立図書館大島分館を地元移管、久賀町立久賀図書館発足、6月21日設置条例制定
		5. 1	県立豊浦分館を地元移管、菊川町立菊川図書館条例公布、5月30日に開館祝賀式
		6. 1	県立図書館美祢分館を地元移管、美祢市・秋芳町・美東町が所管する組合立美祢図書館開館
		7.	和木村立和木図書館、新設の公民館に併設
		8. 4	～25日、学校図書館司書教諭講習を山口大学で開催
		11. 8	～9日、山口県学校図書館研究大会（岩国市川下小学校及び同中学校）
		11. 20	厚狭町が合併し、山陽町立厚狭図書館に改称
		—	水産大学付属図書館建設
1958(昭和33)			
1. 28	理事会開催	2. 25	山口県公共図書館長会議（山泉荘）
3. 4	～5日、第20回山口県図書館研究協議会（徳地図書館）	3.	橘町立図書館、安下庄小学校内に移転
4. 22	理事会開催	3. 25	定例県議会で、県立山口図書館の書庫増築、文書館創設などが決定、
5. 10	総会開催、出席者81名 午後、講演「県下に伝わった若干の漢籍について」上村幸次（山口大学教授）	4. 1	小野田市立図書館高千帆分館、新築の高千帆公民館内に移転
6. 23	～24日、山口県公共図書館研究集会（県立山口図書館）、第21回山口県図書館研究協議会にあてる。テーマ「図書館評価」	5. 3	吉野孝一の寄付により、大島町旧沖浦村役場に町立吉野文庫開館
10. 7	理事会開催	6. 26	久しく中断していた自主的な山口県公共図書館長会議が宇部図書館主催で開催
12. 15	～16日、第22回山口県図書館研究協議会（小野田図書館）	7. 23	～8月10日、山口大学で司書教諭講習（第3回）開催
		7. 29	徳山市立図書館、BM「やまびこ号」運転開始
		9. 1	専門図書館である出光徳山図書館創立
		10. 1	県立山口図書館の福岡アメリカ文化センターACC山口分館が廃止、資料は蔵書として受入
		10. 23	宇部市学校図書館協議会誕生
		11. 8	～9日、山口県学校図書館研究会（大蔵小学校・川西中学校）
		11. 11	小野田市立図書館竜王分館、新築の労働会館内に開設
1959(昭和34)			
1. 20	理事会開催	2.	県学校図書館第1回読書ノートコンクール実施
5. 22	総会開催 新会長に上村忠治（県立図書館長）就任	2. 16	山口県公共図書館長会議開催
6. 24	～25日、第23回山口県図書館研究協議会（柳井図書館）	2. 20	県立山口図書館、吉田松陰殉難百年記念事業として遺墨40点を萩、下関、防府、柳井で移動展示
9. 25	理事会開催	3. 16	「山口県文書館設置条例」可決
11. 5	～7日、第1回中国地区学校図書館研究大会（萩市）を共催	4.	日本初の山口県文書館開館
12. 11	～12日、第24回山口県図書館研究協議会（菊川図書館）	5.	第1回こどもの読書週間開催
		6.	久賀町立久賀図書館、久賀中学校内に移転
		10. 1	下関市立下関図書館、BM「みちづれ号」運行開始
		11.	読書推進運動協議会発足
		12. 18	県立山口図書館書庫増築竣工式を挙行
1960(昭和35)			
1. 29	役員会開催	1.	宇部短大図書館設置
3.	山図協編『山口県図書館要覧』刊	3. 1	県下公立図書館長会議開催
3. 15	第25回山口県図書館研究協議会（防府図書	3. 26	宇部図書館敷地内に、市民の浄財による花壇図書

3. 30	館) 役員会開催	4.	館オープンステージ新設
3. 31	事業部(図書館用品の斡旋)を閉鎖	4. 1	周東町立周東図書館、中央公民館に併設開館
6. 3	通常総会開催、会則の一部(会費)を変更 午後、研究・意見発表 出席者 75 名	4. 1	組合立美祢図書館から美祢市立図書館が旧市役所 庁舎を改修して分離独立、9 日開館
7. 7	～8 日、第 1 回「読書活動研究集談会」開催 (県婦人会館)、県内の読書グループ代表が 参加、県公民館連絡協議会などと共催、昭和 37 年から地区別読書活動推進協議会となり 56 年まで続く。	4. 1	大島町立吉野文庫、大島海洋研究所に小松分館を 併設
8. 17	役員会開催	6. 27	小野田市立小野田図書館、新築落成式
9. 29	～30 日、「中国地区公共図書館職員研究集会」 共催(山泉荘)	7. 7	～8 日、第 1 回「読書活動研究集談会」開催
10. 18	役員会開催	9. 29	～30 日、「中国地区公共図書館職員研究集会」開 催
12. 13	第 26 回山口県図書館研究協議会(県立山口 図書館)	10. 28	県立山口図書館、読書推進懇談会を周東町高森公 民館で開催、この後、貸出文庫大量投入
		11. 2	県立山口図書館、鹿野町で読書推進懇談会開催
		11. 5	山口県学校図書館研究大会
		11. 12	宇部市立図書館が学校図書館との連絡協議座談会 を開催
1961(昭和 36)			
1. 19	役員会開催	2. 2	山口県公共図書館長会議
1. 31	山図協編『図書館実務の手びき』刊	4.	久賀町立久賀図書館、久賀公民館内に移転
2. 16	第 27 回山口県図書館研究協議会(美祢市立 図書館)	5.	組合立美祢図書館、美祢教育事務所管理庁舎の一 部に移転
5. 10	定期総会開催(山口市 山泉荘)	6.	防府市立図書館、児童閲覧室を隣接の旧市民館に 移転
6. 7	読書活動研究集談会(徳山市民会館)を教委 と共催、6 月 9 日山陽町公民館	7.	南陽町立富田図書館、富田公民館内に移転
6. 23	役員会開催	9. 22	防府図書館、開館 20 周年行事実施
7. 1	山図協編『読書活動の手びき』刊	10.	中国四国地区大学図書館研究集会開催(山口大学)
7. 12	第 2 回読書活動研究集談会(徳山市)、7 月 13 日山陽町	11. 7	日図協が 70 周年を記念し図書館功労者を表彰、県 内では、吉野孝一(大島町)を援助者表彰
7. 27	図書館実務講習会を県立山口図書館で開催	11. 27	～30 日、日図協中小図書館調査委員会、岩国市立 図書館を調査
8. 24	～25 日、第 28 回山口県図書館研究協議会(岩 国図書館)	11.	<u>国立国会図書館新館開館</u>
10. 25	～26 日、第 29 回山口県図書館研究協議会(下 関図書館)	12.	大島町公民館新築に伴い、隣接地に大島町立図書 館吉野文庫開設
1962(昭和 37)			
1. 25	理事会開催	1.	下関市立大学附属図書館設置
1. 27	鹿野地区読書活動集談会		下関女子短大図書館設置
2. 16	女子職員研修会開催	2. 20	山口県公共図書館長会議
4. 20	理事会開催、読書県民運動を中心に協議	4.	由宇町立図書館、新築の公民館内に移転
5. 10	山図協編『図書整理の手びき』増補改訂版刊	4.	宇部工業高専図書館設置
5. 10	定期総会開催(防長青年会館講堂)、参加者 約 70 名	9. 1	徳山図書館、若宮町へ移転のため閉館、10 月 2 日 から開館
6. 28	『読書活動事例集 1962』発行	11.	宇部短期大学附属図書館新築
6. 28	周防部図書館公民館連絡協議会開催(南陽町)	11. 1	下松市立図書館、創立 10 周年を記念して、BM「あ おぞら号」運行開始
7. 3	長門部図書館公民館連絡協議会開催(美祢市)	12. 1	各教育事務所単位で開催される地区別読書活動推 進協議会(地区別読進協)がはじまる。
8. 3	～4 日、第 30 回山口県図書館研究協議会(長 門図書館)		
9. 4	役員会開催		
12. 1	「親と子の読書健民運動」の一環として、地 区別読書活動推進協議会はじまる。県教委、 開催地教委、山図協、県学図協共催、56 年 度まで継続		
1963(昭和 38)			
1. 29	役員会開催	2. 22	徳山市立図書館で「周南文献情報連絡会」結成
2. 8	「山口県図書館史刊行準備委員会」開催	2. 25	山口市学校図書館研究協議会が「読書指導研究協 議会」を開催
2. 14	～15 日、第 31 回山口県公共図書館研究協議 会(県立山口図書館)	3. 26	山口県公共図書館長会議
5. 6	役員会開催	3. 31	組合立美祢図書館解散、これにより美東町立、秋

5. 15	定期総会開催（県庁前福祉会館ホール）、出席者 63 名		芳町立に分離独立
6. 24	～ 25 日、第 32 回山口県図書館研究協議会・中小図書館研究集会を秋芳図書館と共催（秋吉台国民宿舎若竹荘）	3.	日図協『中小都市における公共図書館の運営』刊
7. 29	「初心者のための学校図書館実務講習会」開催（山口市商工会議所）	4. 1	美東町立美東図書館設立
7. 31	県教委・県公連・地元教委と共催で公民館・図書館連絡協議会、周防地区：由宇公民館、8 月 2 日長門地区：豊浦町小串公民館	4. 1	小野田市立図書館竜王分館、新築の竜王公民館に移転
8. 23	県青少年問題協議会発行の児童・生徒向け選定図書目録『おすすめする 100 冊の本』の選書に協力、以後県立山口図書館と継続発行	4. 1	秋芳町立秋芳図書館設立
8. 23	理事会開催	6.	山口県視聴覚センター設立
9. 18	～ 19 日、第 33 回山口県公共図書館職員研究協議会（徳山図書館）	6. 24	～ 25 日、中小図書館研究集会を秋芳町で開催
12. 16	役員会開催	7. 1	山口市立児童図書館、山口市児童文化センター内に移転
—	地区別読進協、38 年度は 8 か所で開催	7. 22	公民館・社会教育団体・図書館読書活動指導協議会を萩市中央公民館で開催
		8. 24	学校図書館協議会研究部会（婦人会館）
		11. 15	～ 16 日、山口県学校図書館研究大会（下関市）
		11.	宇部市立図書館、付設郷土資料館を竣工
		—	新南陽市福川図書館、新築開館
		—	大島町公民館の新築移転に伴い、大島町立図書館吉野文庫移転
1964(昭和 39)			
1. 27	公共図書館研究部会開催、『全国公共図書館逐次刊行物総合目録 中国・四国編』編集のため、研究部を発足して県内公共図書館の逐次刊行物所蔵調査を実施	1.	梅光女学院大学短大部図書館設置
4. 22	理事会開催	2. 11	県教委主催公共図書館長会議（県立山口図書館）
5. 15	定期総会開催、（県営陸上競技場会議室）出席者 68 名	4.	長門地区公共図書館職員連絡協議会発足
7. 5	会長である上村忠治県立図書館長が退職	9.	山口県立医科大学の国立移管にともない、附属図書館が山口大学附属図書館医学部分館となる。
8. 26	役員会（労働福祉センター）	9. 18	山口県学校図書館教育研究会開催（下松市）
9. 16	研究部会開催	10.	下松市立図書館、旧労働会館へ移転開館
12. 22	山口県図書館研究協議会（県立山口図書館）	11. 30	国民体育大会開催のため 1 年延期されていた県立山口図書館開館 60 周年記念祝賀式を挙行
—	地区別読進協、39 年度は 7 か所で開催	—	光市立光図書館、光市立図書館と名称変更
1965(昭和 40)			
2. 3	役員会開催	2. 18	県教委主催公共図書館長会議開催
3. 16	山口県公共図書館研究協議会（宇部図書館）	3. 24	～ 26、中小図書館調査のため日本図書館協会から委員 4 人が来県、柳井・下松・小野田・厚狭・秋芳・菊川の各館を調査
4. 1	『山口図書館だより』第 75 号の一部に山図協会報『Y L A 通信』復刊掲載	4.	文部省、大学学術局に情報図書館課設置
5. 6	役員会	6. 16	～ 18 日、中国五県公共図書館研究集会開催（公立学校共済組合湯田保養所）参加者 79 名
5. 20	定期総会開催（防長青年館）、参加者約 80 名、会長の後任に木原立美（県立図書館長）を選任 従来の研究協議会を連絡協議会に改称、総会後新旧合同役員会で事務引き継ぎ		第 1 分科会館内奉仕部会、第 2 分科会館外奉仕部会、第 3 分科会図書整理部会、総務関係事務協議会
7. 19	～ 20 日、「図書整理・読書普及講習会」共催（防長青年館）	6.	下関市立大学附属図書館新築開館
10. 7	役員会開催	7. 29	県立山口図書館が「学校図書館実務講習会」を開催（山口商工会議所ホール）
12. 3	公共図書館連絡協議会（防府市）	10. 28	～ 29 日、山口県学校図書館研究大会（美祢市・秋芳町）、2 日目は学図協総会と滑川道夫特別講演会
—	地区別読進協、40 年度は 8 か所で開催		
1966(昭和 41)			
3. 8	山図協から沖縄の子どもへ送る図書の寄贈式挙行、12,601 冊の図書を発送	4. 12	山口県公共図書館長会議
3. 25	「図書館網の形成」をテーマとする研究部会が発足、初会合	7. 27	県立山口図書館が「調査相談業務研究会」結成、県内の専門機関 11 が所蔵する文献の相互利用を図る。「吉佐地区文献情報連絡会」の前身
5. 10	定期総会開催（県私学会館）、出席者 70 名	8. 22	～ 27 日、県立山口図書館が「県内高等学校司書補研修会」開催
5. 16	図書館中堅職員研修会を共催（県立山口図書館）	10. 27	山口県学校図書館研究大会（鹿野町）、7 分科会で実施
5. 18	～ 20 日、全国公共図書館研究集会・郷土資料部門（山口市）を共催	11.	東和町立図書館、新築の東和町公民館内に開設

7. 10	山図協編『図書整理技術の手びき』刊	11. 20	徳山市立図書館新館開館
7. 29	学校図書館整理技術講習会共催（県私学会館）、周防部 72 名、長門部 30 日 76 名受講	12. 8	宇部市読書グループ連絡協議会発足
8. 8	役員会	12. 8	大学図書館職員研修会開催（山口大学附属図書館）
8. 22	図書館網形成に関する全体部会		
—	地区別読進協、41 年度は 8 か所で開催		
1967(昭和 42)			
1. 26	公共図書館連絡協議会開催（徳山市立図書館）	1.	梅光女学院大学附属図書館設置
3. 23	役員会開催		山口工業短大（山口短大）図書館設置
5. 1	役員会開催		萩女子短大図書館設置
5. 12	定期総会開催、会長に福井研造（県立図書館長）を選任	5. 23	平生町立平生図書館新築開館
6. 13	図書館職員連絡協議会（平生町）	6. 8	～9 日、昭和 42 年度図書館短期大学学外公開講座開催（県私学会館）
7. 27	学校図書館図書整理技術講習会共催（県私学会館）周防部 90 名、28 日長門部 80 名受講	6. 21	県教委主催県内公立図書館長会議開催
8. 4	研究部会全体会開催（県立山口図書館）	6.	大島商船高専図書館設置
9. 8	役員会開催	9. 5	全国図書館長協議会の西日本地区ブロック会議開催（山泉荘）
9. 12	公立図書館職員（初級）実務講習会開催	10. 3	下関市立長府図書館落成式、文書館併設
9. 18	～19 日、町村立公共図書館職員連絡協議会開催（明木図書館）	10. 17	山口県学校図書館研究大会（小野田市）
11. 30	公共図書館職員連絡協議会（宇部市立図書館）	10. 21	大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館）
—	地区別読進協、42 年度は 7 か所で開催	11. 16	公立図書館長会議
1968(昭和 43)			
3. 18	役員会開催	2.	山口芸術短大図書館設置
4.	役員会開催	2.	山口県学校図書館連絡協議会研究部編『学校図書館教育計画（試案）』刊
5. 6	定期総会開催、午後講演会「現代の日本は幸福か」熊野英坤（中国新聞山口支局長）	4.	日図協、公共図書館振興プロジェクトの実施を公表
5. 21	レファレンス協議会（県立山口図書館）	5. 19	「山口県点訳友の会」発足、県点字図書館長が会長に就任
6.	市立図書館職員連絡協議会（下関市）	8. 23	宇部市立図書館が母と子の青空読書会開催、以降毎年開催
7. 31	～8 月 1 日、学校図書館整理技術講習会（県立山口図書館）	10. 14	自治公立図書館長会議開催
7. 31	公立図書館職員研修会（県立博物館）	10. 27	読書週間にちなみ県立山口図書館が県連合婦人会と共催して「本を読むおかあさん大会」を開催
8. 1	大学図書館職員研修会（県立博物館）		講演「劣等感と読書」棕鳩十（児童文学者）、（会場：医師会館、婦人会館）、約 500 名参加
9. 27	レファレンス協議会		翌年から「本を読むおかあさんのつどい」として昭和 45 年まで開催、読書感想文コンクールは平成 9 年まで毎年開催
10.	役員会開催	11.	周東町立周東図書館、中央公民館新築に伴い移転
11. 26	町村立図書館職員連絡協議会（南陽町）		
12. 12	役員会開催		
—	地区別読進協、43 年度は 10 か所で開催		
1969(昭和 44)			
2. 17	役員会開催	1. 30	県立山口図書館「新館の基本構想に関する協議会」開催
3.	役員会開催	2. 7	大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館）
5. 15	定期総会開催（県私学会館）、74 名出席、新会長に上田孝治（県立図書館長）選任	2.	吉佐地区文献情報連絡協議会結成
6. 10	研究部会「図書館網形成について」（秋芳図書館）	4.	久賀町立久賀図書館が県信用農業協同組合連合会大島支所跡に移転
8. 1	学校図書館職員整理技術講習会共催（県立山口図書館）	4.	大島町立大島図書館、BM 運行開始
8. 20	～21 日、公共図書館職員連絡協議会（秋芳図書館）	5. 1	秋芳町立秋芳図書館新築開館
9. 29	～30 日、図書館職員整理技術講習会（県私学会館）	5.	菊川町立菊川図書館が町公民館に移転
—	地区別読進協、44 年度は 10 か所で開催	10.	県立山口図書館『郷土資料目録』発行
		10. 28	下関市立下関図書館、明治維新 100 周年記念事業として新築開館
		10. 19	第 2 回「家庭の日」読書推進大会～本を読むおかあさんのつどい（県自治会館）350 名参加
		11. 14	公立図書館自治館長会議

		12.	下関市立下関図書館、BM「ともしび号」運行開始
1970(昭和45)	2. 20 レファレンス協議会開催 5. 8 定期総会開催(県私学会館)約80名出席、午後講演「情報化社会とデータ通信」西川和直(中国電気通信部データ通信調査役) 7. 30 学校図書館図書整理技術講習会共催(県私学会館)中学・高校対象 参加者75名 8. 7 ～8日、中国地区公共図書館職員研究集会を共催(小規模図書館部会:秋芳、中規模図書館部会:防府、大規模図書館部会:山口) 10. 8 公共図書館職員研修会共催(県私学会館)午前講演「公共図書館における奉仕活動はいかにあるべきか」永末十四雄(田川市立図書館長)、午後事例発表・協議 11. 25 ～26日、公共図書館職員連絡協議会(大島町立吉野文庫) — 地区別読進協、45年度は8か所で開催	3. 17 美和町中央公民館内に図書室開設 4. 20 山口大学移転にともない附属図書館新築開館、新キャンパスの学部分館を統合 5. 日図協『市民の図書館』刊 5. 錦町立広瀬図書館、町立公民館に移転開館 8. 読書推進運動協議会、はじめての全国読書グループ調査実施 8. 22 県「図書館等基本構想」策定 9. 8 ～10日、国会図書館行政・司法支部図書館職員24名が実状調査に来県、山口大学、県議会、明木、徳山曹達、県立の各図書館、文書館を見学 9. 29 ～30日、教育研修所主催高等学校図書館運営研修会 10. 13 公立図書館自治館長会議(長府図書館) 10. 26 第3回本を読むおかあさんのつどい(教育研修所)250名参加 11. 8 宇部市立図書館、読書グループ連絡協議会共催「本を読むよい子のおまつり」開催、270名参加 11. 26 岩国市親子読書会連絡協議会発足 — 秋芳町立秋芳図書館新築	
1971(昭和46)	2. 16 レファレンス協議会開催(県立山口図書館) 3. - 研究部会報告書「図書館網形成について」発行、配布 5. 14 定期総会(県立山口博物館)、田中豊(県立図書館長)が新会長に就任 7. 28 学校図書館職員整理技術講習会共催(県私学会館)、小学校対象、110名参加 9. 21 ～22日、公共図書館職員研修会、レファレンス業務研修会共催(県私学会館)、講師:北島武彦(東京学芸大学) 11. 9 ～10日、公共図書館職員連絡協議会(山口市立児童図書館) 役員会開催 12. 15 地区別読進協、46年度は9か所で開催 —	3. 5 大学図書館職員研修会(山口大学附属図書館) 3. 岩国短大図書館設置 4. 町制施行により、大島町立大島図書館と改称 4. 1 徳山大学開学、附属図書館設置 4. 1 防府市読書グループ連絡協議会発足 4. 10 下関市立図書館彦島分館、公民館改築移転に伴い併設開館 5. 全国図書館大会で4月30日を図書館記念日に制定することを決定 7. やまびこ文庫、光市室積公民館に開設 8. 下関市・豊浦郡4町で下関地域広域BM「くさぶえ号」発足、11月運行開始 9. 須佐町立図書館、須佐公民館に併設 9. 30 公立図書館自治館長会議開催(徳山市立図書館) 12. 7 第17回県学校図書館研究大会開催(山陽町) — 宇部工業高等専門学校図書館設置	
1972(昭和47)	3. 15 役員会開催 5. 18 定期総会開催(県私学会館) 7. 28 学校図書館(中・高)職員整理技術講習会(県私学会館) 10. 3 レファレンス業務研究会 12. 6 公共図書館職員連絡協機(防府文化福祉会館) 12. 13 役員会開催 — 地区別読進協、47年度は10か所で開催	1. 国際図書年はじまる 1. 11 県立山口図書館新館起工式挙行 2. 29 大学図書館職員研修会(山口大学附属図書館) 3. 1 第1回読書活動指導者研修協議会開催(山口市中央公民館)、図書館・公民館職員約40名参加 5. 光市立図書館、旧市民館を改造し独立 6. 山陽町立厚狭図書館新築開館 6. 30 山口県読書推進運動協議会発足、県立図書館長が会長に就任 9. 13 県公共図書館自治館長会議 10. 5 下関市立下関図書館、屋外児童閲覧室増設 11. 16 ～17日、図書館資料整理事務講習会(県私学会館)	
1973(昭和48)	3. 14 役員会開催 6. 6 総会開催、新会長に村瀬和徳(県立図書館長)	1. 23 大学図書館職員研修会(山口大学附属図書館) 2. 梅光女学院大学附属図書館竣工	

8. 8 —	就任（県私学会館） 学校図書館整理技術講習会共催（県立山口図書館）、小学校対象 地区別読進協、48年度は10か所で開催  地区別読書活動推進協議会	3. 5 吉佐地区文献情報連絡協議会が山口文献情報連絡会と改称 3. 30 山口県視聴覚センター設置条例公布 3. 30 「山口県点字図書館条例」制定 3. 31 「山口県行政組織規則の一部を改正する規則」により、県点字図書館業務が県教委へ事務委任 4. 岩国市立岩国図書館、併設公民館とともに増改築 4. 菊川町立図書館、新築開館 4. 1 町制施行により、和木町立図書館と改称 6. 21 読書会リーダー研修会（徳山市） 6. 25 小郡町公民館、旧県立山口農業高等学校跡地に新築、図書館を併設 7. 1 美祢市立図書館、新築開館 7. 3 柳井市立柳井図書館、旧高等女学校講堂へ移転 7. 4 学校図書館研究協議会（萩市） 7. 23 県立山口図書館新館開館式挙行 8. 28 県立山口図書館図書抜き取り放置問題発覚 9. 25 公共図書館自治館長会議開催
1974(昭和49) 1. 17 3. 8 6. 21 7. 29 9. 18 10. 11 12. 16 —	～18日、「全国公共図書館奉仕部門研究集会」共催（県立山口図書館）、テーマ「図書館活動の分化と総合 - 都道府県立・市町村立の機能を中心として」、参加者200名 公共図書館職員研究協議会（美祢市） 総会開催、新会長に林二郎（県立図書館長）就任 学校図書館職員等整理技術講習会共催、中学校対象、83名参加 ～19日、県立図書館において開催された「中国地区公共図書館職員研究集会」を共催、テーマ「利用者の拡がり求めて」、4分科会、参加者103名 ～12日、公立図書館職員研究協議会（岩国図書館）役員会開催 地区別読進協、49年度は10か所で開催	1. 7 県立山口図書館「資料の収集方針ならびに選択基準」制定 2. 東亜大学附属図書館設置 3. 6 「中国地区読書普及研究会」開催（山口市） 3. 8 大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館） 3. 29 県立萩図書館の萩市移管にともなう「山口県立図書館条例」改正、4月1日施行 4. 徳山点字図書館設立 6. 徳山工業高専図書館設置 6. 21 公共図書館自治館長会議 7. 30 新県立山口図書館開館一周年記念行事開催 9. 26 萩市立図書館、新築開館 10. 8 宇部市立図書館、BM「あおぞら号」運行開始 11. 橘町立図書館、町老人福祉センター内に移転開館 12. 6 県学校図書館協議会司書部会実務研修会（県立図書館） 12. 7 西日本図書館学会、県立図書館で開催 12. 日図協、図書館の自由に関する調査委員会設置 12. 11 国立国会図書館が県内図書館の特殊コレクション調査を実施
1975(昭和50) 4. 24 6. 10 7. 22 10. 8 10. 16 —	レファレンス協議会開催（県立図書館） 定期総会開催 学校図書館等整理技術講習会共催（県立図書館）、103名参加 公共図書館管理者研修会（下関図書館）22名参加 公共図書館職員研修会（厚狭図書館）22名参加 地区別読進協、50年度は10か所で開催	2. 18 県内公共図書館長会議開催 3. 19 大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館） 4. 1 山口女子短期大学が山口女子大学となり開学 6. 10 公共図書館自治館長会議開催 6. 20 県立図書館、児童図書の館外貸出開始 6. 20 ～11月11日、県立図書館「図書館セミナー幼児読書」開講、50年度は全7回開催 8. 9 宇部市立図書館、見初分室を設置 11. 1 防府市立図書館、新田地区供用会館に11番目の分館を設置 11. 4 県立図書館において「山口県読書の集い」開催、3分科会、参加者約300名 11. 16 柳井市立柳井図書館、旧山口銀行柳井支店へ移転 11. 25 公共図書館自治館長会議開催 — 徳山工業高等専門学校、図書館設置
1976(昭和51) 1. 21	県内図書館の児童担当者が集まり研修会開	2. 21 ～22日、歴史資料保存利用機関連絡協議会創立大

催、児童図書館研究会発足 5. 27 役員会開催 6. 30 定期総会開催、新会長に田中宏県立図書館長を選任、総会後講演会「幼児読書教育と県下の読書施設の現状について」岩田弥富山口女子大学助教授 7. 20 協会報『としょかん』と解題して復刊 7. 28 図書整理技術講習会開催（県立図書館）、160名参加 10. 5 公共図書館管理者研修会（新南陽市） 10. 28 公共図書館職員研修会開催（光市） 12. 7 子どもの読書地方講習会（県立図書館）、児童文学者渡辺茂男講演、130名参加 — 地区別読進協、51年度は10か所で開催	会、山口市で開催 2. 30 大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館） 3. 大島商船高等専門学校図書館新築 3. 山口県高等学校研究会図書館研究部会編『山口県高等学校図書館の実態—図書館教師の意識を中心に—』刊 6. 1 新南陽市図書館、新築開館 6. 26 県立図書館「幼児読書セミナー 一日講座」を萩市立図書館で開催、9月3日岩国市麻里布公民館、11月16日防府市公会堂、12月3日美東町大田中央公民館で開催 7. 新南陽市図書館、BM「なかよし号」運行開始 7. 2 光市立図書館、新築開館 7. 14 公共図書館自治館長会議において山口県公共図書館協議会を結成 7. 28 宇部市立図書館、常盤公園で第9回青空読書会開催、3,200名参加 10. 小郡町、県道路公社小郡分室庁舎を借り受け図書館を開設 — 岩国図書館、麻里布会館に分室設置
1977(昭和 52) 2. 9 役員会開催 3. 24 児童図書館研究会開催、以後、山図協の部会として継続することを決定 5. 18 役員会開催 6. 30 定期総会開催、児童読書研究部会発足 講話「図書館の利用指導について」棚町知弥山口大学教授、分科会開催 7. 28 図書整理技術講習会開催（県立図書館）、254名参加 11. 児童読書研究部会編『児童読書研究部会報』創刊 11. 25 公共図書館職員研修会・児童読書研究部会研修会（萩市立図書館） 役員会開催 12. 13 地区別読進協、52年度は10か所で開催 —	3. 1 県立図書館、重度身体障害児・者に対する図書の郵送貸出開始 3. 18 大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館） 5. 7 下関市立下関図書館、「おはなしのじかん」開始 5. 25 県立図書館、開催地の図書館・公民館と共催で「本を読む会」を開催、52年度は10か所で実施、56年度まで継続 7. 12 県立図書館、幼児読書研修会を開催、52年度は4か所で実施、53年度からは幼児読書講座として56年度まで継続 10. 萩市立図書館、視覚障害者と高齢者にカセットテープの貸出開始 10. 13 ～14日、「日本図書館協会視聴覚分科会全国研究集会」を県立図書館において開催 10. 19 ～21日、「中国四国地区大学図書館研究集会」開催（山口大学） 11. 1 昭和48年以降中断の第19回県学校図書館研究大会、久賀町で開催 11. 1 新南陽市図書館、県内初のコンピュータ導入 11. 6 ～8日、県立図書館利用実態調査を都市施設調査の一環として実施 12. 豊浦町図書館、新築の中央公民館に付設 12. 9 学校図書館協議会司書部会研修会
1978(昭和 53) 3. 児童読書研究部会研修会（新南陽市図書館） 4. 28 公共図書館レファレンス協議会開催、26名参加 6. 28 「製本技術講習会」共催、8月17日、29日にも実施 6. 30 定期総会開催、総会後山口女子大学古田足日教授の講演「子どもの本と私」、その後分科会 7. 児童読書研究部会（宇部市立図書館） 7. 28 図書整理技術講習会開催（県立図書館）、参加者165名 9. 6 ～7日、公共図書館職員研修会（秋芳図書館） 11. 児童読書研究部会研究会	3. 22 大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館） 3. 下関女子短期大学付属図書館新館完成 5. 1 久賀町立久賀図書館、新設の久賀町民センターに移転開館 5. 衆参両議院の図書議員連盟発足 6. 12 山口女子大学附属図書館新築開館 6. 20 県立図書館「幼児読書講座」を年度内に8か所で開催、56年度まで継続 9. 20 県立図書館「読書指導研修会」を教育事務所単位に10か所で開催 10. 8 ～11月12日、県点字図書館が厚生省身体障害者地域福祉活動推進事業として「点訳奉仕員養成講習会」を4回開催、以後毎年開催

—	地区別読進協は、この年から県立図書館が「読書指導研修会」、「読書活動研修会」と改称して 56 年度まで実施	11. 1	山口県読書推進運動協議会編『読書運動通信』創刊 「子どもの読書の集い」開催（県立図書館）、いぬいとみこ講演、約 300 名参加
		11. 17	山口県高等学校教育研究会学校図書館部会、県教育委員会に図書費増額について陳情
		12. 6	学校図書館協議会司書部会研修会（県立図書館）
1979(昭和 54)			
2. 27	役員会開催	2. 28	県点字図書館が厚生省身体障害者地域福祉活動推進事業「朗読奉仕員養成講習会」を開催、以後毎年開催、平成 5 年度に名称変更
3. 7	児童読書研究部会研究会	3. 13	大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館）
5. 17	役員会開催	4. 1	小野田市立図書館高千帆分館、新築の勤労青少年ホームに移転
6. 1	公共図書館レファレンス研究協議会開催	5.	日図協総会、「図書館の自由に関する宣言 1979 年改訂」採択
6. 22	製本技術講習会開催、21 名参加	5. 11	中日友好の船使節団 43 名が県立図書館訪問
6. 30	定期総会開催、新会長に山本儀雄県立図書館長選任、総会後講演会「子どもの世界」那須正幹（児童文学者）、78 名出席	9. 13	県立図書館「読書活動研修会」を年度内に 9 地区で開催
7. 3	児童読書研究部会研究会（厚狭図書館）	10.	山口県高等学校研究会図書館研究部会編『山口県高等学校図書館の実態—変容と課題を求めて—』刊
8. 3	図書整理技術講習会開催、121 名参加	10. 17	「新聞・雑誌等の保存協定」に関する会議を県立図書館で開催
9. 21	～ 22 日、「中国地区公共図書館職員研究集会」開催、参加者 85 名（県立図書館・山泉荘）	12. 21	公共図書館協議会で逐次刊行物の保存分担を協議
10. 2	児童読書研究部会研究会（防府図書館）		
10. 28	「本を読むよい子のまつり」共催（会場：宇部市勤労青少年会館）、参加者約 140 名		
11. 9	～ 10 日、公共図書館職員研修会（久賀図書館）		
1980(昭和 55)			
3. 18	児童読書研究部会研究会	1. 11	「学校司書研修会」開催（県立図書館）
5. 28	製本技術講習会（県立図書館）、8 月 22 日、11 月 14 日にも開催	3. 6	大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館）
6. 12	児童読書研究部会研究会	3. 12	～ 13 日、大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館）
6. 30	定期総会開催、新会長に升井卓弥県立図書館長選任、総会後講演「国立国会図書館の協力について」大内直之（前国立国会図書館目録課長）	3.	山口大学附属図書館『Library News』創刊
8. 1	図書整理技術講習会（県立図書館）、115 名受講	3.	徳地町立図書館、旧堀小学校講堂に移転
10. 25	理事会開催（山泉荘）	4.	市制 40 周年を記念し、下松市立図書館新築開館
10. 26	「本を読むよい子のまつり」共催（徳山市立図書館）、参加者 210 名、講演「子どもの本のよろこび」那須正幹（児童文学者）	6.	公共図書館協議会で逐次刊行物の分担保存取り決め
11. 13	～ 14 日、公共図書館職員研修会（宇部市立図書館）	8.	周東町立周東図書館、町内個人宅に一坪図書館 20 館開設
11. 24	児童読書研究部会研究会	8.	日図協総会、「図書館員の倫理綱領」採択
		9. 11	県立図書館「読書活動研修会」を年度内に 10 か所で開催
1981(昭和 56)			
1.	公共図書館振興を県、県教委、各市町村に陳情	1.	国際障害者年をはじめ。
1. 29	公共図書館レファレンス研究協議会開催	3. 6	大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館）
3. 10	役員会開催	3.	岩国短期大学 10 周年を記念し、附属図書館新築
3.	児童読書研究部会『児童読書調査報告』刊	3.	下関図書館、「おはなしの部屋」新設
5. 25	製本技術講習会、8 月 21 日、11 月 9 日にも開催	4. 1	田布施町立田布施図書館、新設の町民福祉センター内に開館
6. 9	役員会開催	7. 30	防府市立防府図書館新館開館
6. 30	定期総会開催、総会後講演「子どもの文学をめぐって」砂田弘（山口女子大学教授）、児童読書研究部会研究会	8.	小郡町立図書館の建物、県が無償払い下げ
8. 1	～ 10 日、協会個人会員を対象に、図書館業務に関するアンケート調査実施	9. 7	県立図書館「読書活動研修会」を 9 か所で開催
		9. 27	和木町立図書館、新設の和木町総合コミュニティセンターに開館
		10. 1	美東町立美東図書館、新設の美東町民センター内に移転開館

8. 6	整理技術講習会開催、174 名参加	12. 11	県学校図書館協議会司書部会研究大会（県立図書館）
10. 8	役員会開催	12. 21	大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館）
11. 20	公共図書館職員研修会（防府図書館）		
11. 25	児童読書研究部会研究会		
1982(昭和 57)			
3. 5	児童読書研究部会研究会（防府図書館）	1. 1	小郡町立小郡図書館、図書館法に基づく図書館として開設
3. 19	役員会開催、適書目録『私たちの本棚』の作成を中止、『郷土資料目録』の作成を決定	1. 6	徳山市立中央図書館新築開館、点字図書館併設
5. 6	役員会開催	4.	山口大学附属図書館では閲覧業務を中心にコンピュータシステム稼働
5. 31	定期総会開催（徳山市立中央図書館）	4.	岩国市立福祉会館図書室開館、点字図書・録音図書の貸出開始
	栗原均日本図書館協会事務局長講演「最近の図書館情勢」、児童読書研究部会研究会	5. 1	玖珂町立図書館、新設の町総合センター内に開館
7. 19	製本技術講習会、26 名受講	6.	東和町立図書館、条例整備により東和町立東和図書館と改称
8. 4	整理技術講習会開催、156 名受講	6. 30	全国図書館山口大会実行委員会事務局を県立図書館に設置
9. 3	役員会開催	7.	防府市立図書館、「古典を味わう会」発足
9. 14	全国図書館大会実施協議会開催、日程、テーマ等大会の大綱決定	7. 1	周東町立周東図書館新築開館、整理業務を図書館流通センターに委託
9. 21	～ 22 日、児童読書研究部会研修会（下関図書館）	7. 16	周南地区公共図書館・公民館図書室連絡協議会発足
9. 30	公共図書館職員研修会開催	10. 5	県立図書館が県民大学講座を開講、絵本・児童文学研究講座全 6 回（宇部市）、郷土文学研究講座全 6 回（徳山市）、平成 4 年まで毎年県内各地で継続開催
—	全国公共図書館協議会が進める図書館全国計画策定事業の一環として、「公共図書館のサービス指標及び整備基準策定のための実態調査」を実施、山口県及び中国ブロックについて集計	10. 26	県立図書館、巡回協力車を運行
		11. 20	西日本図書館学会研究発表会、県立図書館で開催
		—	山口大学附属図書館が一般市民に公開
1983(昭和 58)			
3. 2	児童読書研究部会研修会	1. 17	下関市立下関図書館、身障者用トイレ設置
3. 4	役員会開催	3. 18	大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館）
5. 13	役員会開催	4. 1	東部地区図書館協議会発足、広域貸借システム運用開始
5. 17	全国図書館山口大会第 1 回実行委員会	5.	由宇町立図書館、新築の町文化会館 2 階に移転
5. 31	定期総会開催、児童読書研究部会研修会	8.	長門市立図書館、法務局長門出張所跡に移転
8.	山図協編『山口県の図書館』刊	11. 8	徳山大学図書館、新築開館
8. 1	整理技術講習会開催、132 名受講	—	山口県学校図書館協議会、県内小・中・高の学校図書館調査実施
	『図書整理技術の手びき』新訂 2 版刊	—	豊北町町民センターに図書コーナー設置
9. 20	全国図書館山口大会運営委員会		
9. 29	役員会開催		
10. 6	全国図書館大会第 2 回実行委員会		
10. 18	全国図書館大会実務担当者協議会		
10. 26	～ 28 日、全国図書館大会、「学ぶ芽が伸びる 広がる図書館づくり」をメインテーマに、山口市で開催、全参加者 1,828 名、図書館 3 大 ツールおよび『図書館雑誌』『現代の図書館』 の点訳あるいは音訳を求める決議		
10.	県教育財団の助成を得て『初代館長佐野友三郎の業績』を復刻		
1984(昭和 59)			
2. 28	児童読書研究部会研修会	2. 24	大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館）
3. 7	公共図書館レファレンス研究協議会	2.	県内公共図書館の逐次刊行物分担保存の再確認調査実施、保存一覧作成
3. 21	全国図書館大会第 3 回実行委員会	3. 8	大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館）
3. 23	役員会開催	3. 31	県学校図書館協議会編『図解学校図書館実務の手引き』刊
5. 9	役員会開催	5. 22	長門地区公共図書館職員連絡協議会
5. 31	総会開催、新会長に国井幸生（県立図書館長） 就任、総会後講演「国立国会図書館に納入の		

7. 30 9. 20 10. 12	図書の現状と図書館協力」講師：岡本正（前国立国会図書館支部上野図書館長） 整理技術講習会開催、116名受講 ～21日、県教委と共催で「中国地区公共図書館職員研究集会」を県立図書館で開催、テーマ「県域公共図書館のネットワークづくりを考える」、参加者約70名 児童読書研究部会研修会	7. 7. 31 8. 7 9. 10. 11. 11. 11. 17 12.	久賀町立久賀図書館、テレホンサービスによる新刊図書案内開始 周東町立周東図書館、月末整理休館日廃止 ～9日、第24回全国学校図書館研究大会山口大会、山口市で開催 県立図書館、中小企業経営情報コーナーを開設 中国四国地区大学図書館研究集会開催（山口大学） 東和町立東和図書館、旧森野小学校校舎へ移転 由宇町立図書館、レコード館内視聴サービス開始 ～18日、岩国市立岩国図書館、図書館まつり開催 玖珂町立玖珂図書館、整理業務を委託
1985(昭和60) 2. 27 3. 6 3. 12 3. 5. 14 5. 31 7. 29 11. 28 12. 13	児童読書研究部会研修会 公共図書館レファレンス研究協議会 役員会開催 児童読書研究部会編『子どもにすすめたい本・初級のよみもの』刊 役員会開催 総会開催、出席者約70名 講演「図書館に生きる」前川恒雄（滋賀県立図書館長） 児童読書研究部会総会・研修会 図書整理技術講習会、175名参加 公共図書館レファレンス研究協議会 児童読書研究部会研修会	3. 11 5. 5. 24 6. 24 7. 10. 1 11. 6	大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館） ～7月、日本子どもの本研究会が子どもの本面白ゼミナールを岩国市と下関市で開催 山口銀行従業員組合、県公共図書館協議会に128万円の寄付 ～25日、県立図書館で県教委主催「高等学校図書館担当者研修講座」開催 新南陽市図書館、ビデオコーナー開設 周東町立周東図書館、BM「ライオンズ号」運行開始 ～8日、県立図書館で「マイコンによる資料・情報関連業務処理講座」開催、計30名受講、2年継続
1986(昭和61) 3. 14 5. 15 5. 23 5. 31 7. 28 10. 9	役員会開催 役員会 児童読書研究部会総会・研修会 総会開催、新会長に菰野節雄（県立図書館長） 就任、午後講演「図書館活動の進展のために」竹内紀吉（浦安市立中央図書館長） 図書整理技術講習会、109名受講 児童読書研究部会研修会	1. 25 2. 23 4. 4. 4. 1 6. 9 6. 23 7. 7. 10 7. 28 8. 24 8. 8. 28 10. 10. 6 10. 15 11. 30 12. 12.	大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館） 図書館問題研究会まちむら委員会、周東町立周東図書館調査実施、結果は『周東町立図書館調査報告書』7月刊 岩国市立岩国図書館、受入業務をコンピュータ化 山陽町立厚狭図書館、厚狭小学校の全校生徒を対象にした図書貸出開始 山口女子大学に郷土文学資料センター設置 図書館問題研究会（図問研）山口支部発足 ～24日、県立図書館で県教委主催「高等学校図書館担当者研修講座」開催 徳山市立中央図書館、4週6休の職員勤務体制に 図問研山口支部編『ともんけん山口』創刊 ～30日、日本子どもの本研究会が「子どもの本と児童文化講座山口大会」を山口市で開催 ～29日、IFLA東京大会開催 IBBY「第20回子どもの本世界大会東京大会」開催 ～30日、日本盲人社会福祉協議会が「点字指導員資格認定講習会」を開催（共済苑） NHK山口放送局「くらしのアンテナ」で県立図書館職員が毎週郷土出版物を紹介、63年度末まで 柳井市立柳井図書館、新築開館 梅光女学院大学附属図書館、新館開館 図問研山口支部が「地域に育つ暮らしの中の図書館を考えるつどい」を防府市で開催 徳山女子短大図書館設置 東京理科大学山口短大図書館設置
1987(昭和62) 2.	県内公共図書館を対象に資料整理についてのアンケート調査実施	1. 1. 16	久賀町で新成人へ図書館から図書を贈呈 大学図書館問題研究会（大図研）山口支部結成

3. 6	公立図書館職員研修会、33 名参加 アンケート集計結果報告、県立・下関市立・ 周東町立の 3 館から発表	2. 23	大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館）
3. 24	役員会開催	2.	山口市文庫の会、山口県子ども文庫の集いを県立 図書館で開催
6. 18	児童読書研究部会総会・研修会	4. 1	図書館条例の廃止により、須佐町立図書館と須佐 町立弥富図書館閉館
6. 30	定期総会開催、出席者約 90 名 新会長山村康夫（県立図書館長）就任 午後、3 分科会に分かれて協議 A 分科会「生涯学習における図書館の役割」、 B 分科会「生涯学習における館種を超えた図 書館協力のあり方」、C 分科会「子どもの読 書と児童奉仕」	4.	山口大学附属図書館では学術情報センターに目録 所在情報の登録開始
7. 27	図書整理技術講習会、103 名受講 児童読書研究部会研修会	4.	大図研山口支部編『ダイトケン ヤマグチ』創刊 ～ 26 日、県立図書館で県教委主催「高等学校図書 館担当者研修講座」開催
11. 19	～ 12 日 1 日、公共図書館職員研修会（県立 図書館）、テーマ「体験実習の中で明日の図 書館を考える」、66 名参加	5. 25	山口県子ども文庫連絡会設立
11. 30		7. 31	山口県子ども文庫連絡会『ぶんこ山口』創刊
		8.	日図協政策特別委員会、「公立図書館の任務と目標」 発表
		8. 1	玖珂町立図書館、CD 貸出開始
		8. 1	図書館ネットワーク・システム研究会発足、平成 元年までに『図書館ネットワーク・システムの基 礎的研究』全 3 冊刊
		9. 16	宇部市立図書館、BM 2 代目「あおぞら号」運行 開始
		10.	防府市立防府図書館、『としゃかんこどもしんぶん』 創刊
		11. 8	山口県子ども文庫連絡会、県内子ども文庫のつど いを県立図書館で開催
		12. 10	公文書館法公布
1988(昭和 63)			
3.	児童読書研究部会編『子どもにすすめたい本 II 中級の本』刊	1. 28	東部地区図書館協議会開催（岩国図書館）
3. 3	児童読書研究部会研修会	1.	山口大学附属図書館、学術情報センターに接続
3. 4	大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館） を助成「中国学のデータベースをめぐって」 藤村哲也（京都大学東洋学文献センター）	2.	新南陽市図書館、『図書館ニュース』発行
4. 29	日図協県内会員の集い、県立図書館で開催、 参加者 53 名	3.	山口大学附属図書館に高速ファクシミリ設置、国 立大学図書館間の文献複写に利用
5. 31	定期総会開催、総会後全体会議「ネットワー クの取り組みについて」、分科会「資料の収 集と情報提供」、「予約サービスと貸出方式」	4.	梅光女学院大学附属図書館、地域への公開開始
8. 1	図書整理技術講習会、94 名受講	4. 1	下松市立図書館、コンピュータ稼働
10. 12	児童読書研究部会研修会	5. 16	～ 17 日、県立図書館で県教委主催「高等学校図書 館担当者研修講座」開催、35 名受講
12. 6	公共図書館職員研修会開催、テーマ「子ども と本との出会いを求めて」、講演「子どもと 本の世界の間で～絵本を中心に」講師：児童 文学作家村中李衣、事例発表、研究協議	7. 1	文部省組織令改正、社会教育局を生涯学習局に変 更
		7. 3	～ 5 日、第 35 回図書館問題研究会全国大会、岩国 市で開催
		9.	柳井市立柳井図書館、学校に団体貸出開始
		9.	防府市立防府図書館、『図書館だより』発行開始
		9.	柳井市立柳井図書館が前年開催の県民大学講座を 引継ぎ、市民大学（児童文学・絵本講座）開催
		10. 20	～ 21 日、特許公報を所蔵する図書館の連絡会「産 業関係公共図書館協議会」を県立図書館で開催
		11. 17	周東町立周東図書館、スライド「生涯学習と図書 館」制作
		—	「ちびくろサンボ」の絶版相次ぐ
		—	千葉県・船橋学園女子高校で「朝の読書」開始
1989(昭和 64・平成元)			
3. 2	大学図書館職員研修会（山口大学附属図書館）	2. 1	橘町立図書館、新設の町総合センター内に移転
3. 2	児童読書研究部会研修会	2. 6	公共図書館職員対象のコンピュータ研修会を図関 研山口支部が徳山市立中央図書館で開催
6. 30	定期総会開催、総会終了後、第 1（市立）、 第 2（町村立）、第 3（大学その他）の各分科 会で研修会	3.	下関地域広域移動図書館廃止
7. 25	役員会開催	3.	菟永秀夫編『明倫館・山口明倫館・越氏塾旧蔵和 漢書目録』刊
7. 28	整理技術講習会、127 名受講	3.	県立図書館が『中国地区公共図書館増加郷土資料 目録』の編集に参加、1995 年版まで継続
9. 26	児童読書研究部会研修会		

10. 5	～6日、全国公共図書館整理部門研究会共催（主催：日図協公共図書館部会）、会場：県教育会館、280名参加 テーマ「公共図書館における整理業務の変革とコンピュータ」	5. 15	～16日、県立図書館で県教委主催「高等学校図書館担当者研修講座」開催
11. 27	公共図書館職員研修会「図書館経営フォーラム」開催、「図書館行政と図書館ネットワーク・その今日的課題」講師：薬袋秀樹（図書館情報大学助教授）、70名参加	6.	久賀町立図書館、BM「はばたき号」運行開始
11. 30	山図協80周年記念行事「山口県図書館振興の集い」開催、記念講演「生涯学習と図書館」澤田正春（北海道置戸町教育長）、パネルディスカッション「生涯学習を目指すまちづくりと図書館の役割について」	10. 1	徳山市立中央図書館、コンピュータ導入
12. 15	80周年を記念して佐野友三郎著『米国図書館事情』復刻	10. 20	熊毛町立図書館、新築の周南農業協同組合熊毛支所と併設開館
		10. 27	～28日、中国地区学校図書館研究大会開催（宇部市）
		12.	柳井市立柳井図書館、開館3周年を記念してシンボルマーク公募
		12. 1	岩国市立岩国図書館、コンピュータ導入
		12. 25	宇部市立図書館、学習席を廃止し雑誌閲覧席充実
		—	楠町中央公民館図書室、住民参加の選書バスツアー開始
1990(平成2)			
3. 2	大学図書館職員研修会(山口大学附属図書館)	1.	国際識字年はじまる
3. 21	日図協会員の集い(婦人教育文化会館)	1.	山口大学附属図書館、研究室からの蔵書検索を開始
3. 31	児童読書研究部会編『子どもにすすめたい絵本300』刊	1. 19	防府市立防府図書館、AVコーナー開設
5. 31	児童読書研究部会総会・研修会	1. 29	県立図書館で図書館振興フォーラムを開催
6. 12	役員会開催	2. 8	～9日、日図協主催の図書館づくり研修会「図書館未設置町村自治体関係職員等研修会」、周東町立周東図書館で開催
6. 30	定期総会開催、新会長西田昭博（県立図書館長）就任、組織等検討委員会と整理業務・参考業務の2部会の発足を決議 研修会「『図書館ネットワーク・システムの基礎的研究』について」講師：時浦恭三（図書館ネットワーク・システム研究会）	3. 20	小野田市図書館建設基本計画書作成
7. 31	図書整理技術講習会、119名受講	4. 1	豊浦町立図書館が中央公民館内に開館
8. 29	役員会開催	4. 1	目録データベース構築について研究する自主研究グループB I D B研究会が発足
9. 19	組織等検討委員会発足、会則等の改正検討	4. 1	熊毛町立図書館、バードブックコーナー開設
10. 22	組織等検討委員会が検討結果を報告	4. 1	下松市立図書館、コンピュータ更新
10. 22	従来の公共図書館レファレンス研究協議会を改め参考業務研究部会開催	5. 14	～15日、県教委主催「高等学校図書館担当者研修講座」、県立図書館で開催
11. 15	児童読書研究部会研修会	6.	「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」公布
11. 30	図書館法制定40周年記念・図書館振興のつどいを県立図書館で開催 記念講演「図書館の任務と振興の課題」講師：塩見昇（大阪教育大学教授）、シンポジウム「図書館振興のために今なすべきこと」、約100名参加	6. 1	徳山市立中央図書館、広報誌『くすのき』発行
		6. 4	山口市に私たちの図書館をつくろう会発足
		7. 1	新南陽市図書館、BM更新
		7. 3	下関市立下関図書館、夜間貸出業務を委託
		7. 18	下関市立彦島図書館、新築開館
		8.	升井卓弥著『山口県図書館史稿』刊
		10. 22	県立図書館が「図書館ボランティア活動受入研修会」を開催、平成5年度まで毎年開催
		11.	初代県立図書館のレンガ造り書庫を保存改修
		11. 1	新南陽市福川図書館、ふれあいセンター内に開館
		11. 1	～12月13日、県立図書館が「図書館ボランティア養成講座」開催、全7回、平成5年度まで毎年開催
		11. 30	柳井市立柳井図書館、公募によるキャッチフレーズを決定
1991(平成3)			
1. 31	参考業務研究部会、山口県図書館職員研修会開催、講演「レファレンス・サービスをふりかえって」講師：升井卓弥(元県立図書館長)、事例発表「機械化に絡んで件名情報の取り入れ方」、「県立山口図書館での新しいレファレンス・サービスの傾向」、「梅光女学院大学附属図書館の一般公開について」、研究協	1. 5	徳山市立中央図書館、BM更新
		1. 25	錦町立広瀬図書館、専用ワゴン車による図書巡回サービスを開始
		2.	大島商船高等専門学校図書館、リサイクル文庫設置
		3. 27	田布施町立田布施図書館、新築開館
		4.	県立図書館の巡回協力車が、一部公民館へも巡回

2. 1	議「利用者の増加策について」	4.	徳山大学図書館、コンピュータ稼働
2. 22	大学図書館職員研修会(山口大学附属図書館)	4. 25	徳山市立中央図書館、パソコン通信での蔵書検索サービス開始
4.	山図協、県内公共図書館を対象にAV資料の所蔵調査実施	5.	全国学校図書館協議会、「学校図書館憲章」採択
6. 13	役員会開催	5. 10	金子みすゞ顕彰会(長門市)、みすゞこども図書館を開館
6. 20	児童読書研究部会総会・研修会	5. 13	～14日、県教委主催「高等学校図書館担当者研修講座」、県立図書館で開催
7. 1	定期総会開催、会則・役員選出規程及び表彰規程の改正	6. 7	防府市立防府図書館、公募によるキャッチフレーズを決定
7. 31	図書整理技術講習会開催、参加者99名	7.	県立坂上高校、月2回日曜日の図書館開放を開始
9. 19	～20日、「公共図書館の任務と目標」研究集会(主催:日本図書館協会)共催 参加者87名、講義・解説は1日目信田昭二委員、2日目塩見昇委員	8. 13	周東町立周東図書館、貸出100万冊達成記念行事
10. 1	組織等検討委員会開催	9. 21	防府市立防府図書館、レーザーディスク利用開始
10. 16	児童読書研究部会研修会	9. 27	台風19号により、県内図書館でも停電等の被害
		10. 5	宇部市立図書館、市制施行60周年を記念し、新築開館
		12. 1	防府市立防府図書館、コンピュータ稼働
1992(平成4)			
1. 31	図書館職員研修会(防府市)	1. 10	大図研・図問研の両山口支部交流会
2. 27	児童読書研究部会研修会	2. 1	新南陽市図書館と新南陽市福川図書館とがオンライン接続
3.	『山口県図書館相互協力便覧-大学・短大・高専-1992年版』刊	2. 14	山口県市町村立図書館長等協議会発足、「山口県市町村図書館相互協力実施要綱」採択
3. 13	大学図書館職員研修会(山口大学附属図書館)	3. 27	光市立図書館、コンピュータ・システム起動式
3. 18	整理業務研究部会第1回会議開催	4.	山口大学附属図書館では学術情報センターのILLシステムに参加
3. 23	山口県図書館職員研修会・参考業務研究部会研修会開催、報告『山口県図書館協会相互協力便覧 大学・短大・高専篇』の作成について、「図書館ネットワークシステム整備事業計画の概要」ほか、研究協議「レファレンスツールのコンピュータ化について」	4. 1	小野田市立図書館竜王分館、赤崎分館と改称
4. 1	公共図書館部会、大学・短大・高専図書館部会発足	4. 1	田布施町立図書館、コンピュータ稼働
4. 25	大学部門連絡会(下関市)	4. 1	県立図書館、鹿野町立図書館建設のため職員派遣、鹿野町より研修職員受入、5年度まで継続
6. 17	役員会開催	4. 15	平生町立図書館、増改築落成
6. 20	児童読書研究部会が児童文学評論家石井直人講演会開催	5. 1	山口県図書館ネットワーク・システム始動式挙行、パソコン通信による蔵書検索開始
6. 30	定期総会、新会長時浦恭三(県立図書館長)就任、研修会「山口県図書館ネットワークシステム事業について」講師:松岡孝史(県立図書館)	5. 1	大島商船高等専門学校、一般公開のため利用時間変更
7. 8	児童読書研究部会研修会	5. 11	～12日、県立図書館で県教委主催「高等学校図書館担当者研修講座」
9. 10	役員会開催	6. 30	県立図書館、「図書館ネットワーク研修会」開催、年度内に全5回開催
10. 25	～26日、図書館職員研修会(主催:図書館問題研究会山口支部)後援 講演「図書館専門委員会報告『公立図書館の設置運営に関する基準』をめぐる諸問題」講師:松岡要(前図書館問題研究会委員長)	7.	宇部工業高等専門学校、夏休み中一般公開
10. 29	児童読書研究部会研修会	7. 1	徳山市立中央図書館、パソコン通信による予約サービス開始
11. 19	図書館政策委員会発足、初会合	7. 1	光市立図書館、遠隔地の高齢者などへ図書の宅配サービス開始
12. 2	日図協100周年を記念し、「山口県図書館振興のつどい」開催、参加者約100名 問題提起「学校図書館の現状と課題」「大学図書館と公共図書館の接点」、「図書館調査にみる市町村図書館」 情勢報告「各県の図書館政策」栗原均(日本図書館協会事務局長) シンポジウム「図書館振興の課題」	7. 11	周東町立周東図書館開館10周年記念行事、スライド「好きんようちの図書館」制作
		8. 10	長門市図書館、生涯学習センター建設推進委員会発足
		8. 31	国際ソロプチミスト萩、萩市立図書館へBM「わくわく号」寄贈
		9.	田布施町立田布施図書館、BM運行開始
		10.	社団法人図書館倶楽部、下松市の3施設にミニ図書館設置
		10. 16	熊毛町立図書館と徳山市立中央図書館のネットワーク開始
		10. 28	～30日、中国四国地区大学図書館研究集会(山口大学)
		11. 5	～12月4日、周東図書館が「平成の全国町村図書館資料展」開催

3. 13	図書館政策委員会、県立図書館の現状と課題を把握するアンケート調査を実施	3. 16	和木町立図書館、増改築完成
6.	図書館政策委員会『県立図書館への期待・要望アンケート報告書』刊	4. 1	宇部市立図書館、CD貸出開始
6. 7	児童読書研究部会研修会	6. 6	山口市の文化交流プラザ整備計画検討協議会専門部会に県立図書館職員派遣
6. 30	定期総会開催、93名出席 個人会費改正、役員選出規程改正 研修会「県域ネットワークの現状と未来」講師：中村裕（KARRN幹事）	6. 7	徳山市立中央図書館、「やまびこ号」による離島へのBM運行開始
9. 13	理事会開催	6. 21	情報処理振興事業協会が実施するパイロット電子図書館総合目録プロジェクトに県立図書館が参加
10. 6	大学・短大・高専図書館部会（山口東京理科大学）	7.	県立図書館のYLネットで山口県関係人物データベース「ふるさと文献情報検索サービス」を公開
10. 12	児童読書研究部会研修会（小野田市立図書館）	7.	岩国市立中央図書館、障害者への図書宅配サービス開始
11. 2	理事会開催	7. 1	東和町立東和図書館、第1回山口県手づくり紙芝居大会開催
11. 10	～12日、山口県図書館振興大会開催 講演「協働による図書館づくりー伊万里市民図書館のコンセプト」講師：森田一雄（前伊万里市民図書館長） 関連行事、ブックフェアなど	7. 10	山本哲生著『県立図書館に求められるもの』図問研山口支部刊
11. 17	公共図書館部会研修会（小野田市立図書館）	7. 25	豊田町立図書館開館
11. 22	参考業務研究部会（山口大学附属図書館）	9. 18	～10月31日、県立図書館が「県民大学図書館活用百科」開催、全6回
		9. 30	小野田市立図書館、新築開館
		10. 18	山口女子大学附属図書館、コンピュータによる貸出業務開始
		11. 1	徳地町立図書館、新築開館
		11. 4	下関市立下関図書館、開館55周年記念行事・第1回図書館まつり開催
1996(平成8)			
1.	大学・短大・高専図書館部会が職員アンケート調査を実施、6月に報告書作成	2.	～3月、県立図書館利用の実態や資料要求を把握するため、県立図書館と県内公立図書館の来館者を対象に県民ニーズ調査を実施
3. 8	児童読書研究部会研修会	2. 1	～28日、県立図書館が維新再発見展「飛耳長目策」開催（下関市立下関図書館、徳山市立中央図書館）
3. 8	大学・短大・高専部会研修会、大学図書館職員研修会（山口大学）	3.	県立図書館内で『21世紀に向けた新しい県立図書館の在り方について』報告書を作成
3. 31	図書館政策委員会『提言：山口県の公立図書館振興方策』刊	3.	県立図書館、パイロット電子図書館総合目録の運用開始
3.	山図協編『山口県内公共図書館増加郷土資料目録』第13集（最終刊）発行	4.	生涯学習審議会、「地域における生涯学習機会の充実方策について（答申）」発表
5. 21	理事会開催	5. 17	豊田町立図書館、遠隔地の団体利用に宅配サービス開始
5. 29	児童読書研究部会研修会	5. 20	下関市、図書館施設改築調査委員会設置
6. 15	整理業務研究部会、郷土件名標目小委員会を設置	6.	国立国会図書館、ホームページ公開
6. 24	定期総会開催、新会長越田徳範（県立図書館長）就任、研修会「提言：山口県の公立図書館振興方策」山本哲生（図書館政策委員長）、講演「毛利元就と防長両国」内田伸（郷土史家）	7.	やまびこ文庫編『やまびこ文庫の25年』刊
10. 8	児童読書研究部会研修会	8.	山口大学附属図書館では学術情報センターと共催で目録システム地域講習会を開催
10. 11	大学・短大・高専部会研修会（徳山大学）	9. 11	山口女子大学が県立大学となり、新図書館構想検討委員会を設置
10. 12	～14日、第3回全日本語りの祭りを後援（徳山市）	9. 26	～27日、県立図書館が研修会「公立図書館の任務と目標」を日図協と共催（山泉荘）
11. 12	整理業務研究部会	10.	下松市立図書館、BM更新
11. 16	～17日、山口県図書館振興大会開催 テーマ「子どもと本の出会いのために」 講演「わたしの絵本づくり よもやまばなし」ふりやかよこ（絵本作家）、「ふりやかよこ絵本原画展」などの関連行事	10.	全国点字図書館協議会、全国視覚障害者情報提供施設協議会（全視情協）に改称
11. 23	～24日、大学・短大・高専部会研修会（山口大学）	11. 20	～12月12日、県立図書館が維新再発見展「飛耳長目策Ⅱ」開催（岩国市立中央図書館、小野田市立図書館）
		12.	公立社会教育施設整備費補助金廃止決定
1997(平成9)			
2. 26	公共図書館部会研修会	1.	図問研山口支部、知事選挙にあたり候補者4名に

		11. 6	読書感想文コンクール 25 周年記念「山口県読書推進大会」開催（県立図書館）
		11. 24	宇部市立図書館、点訳ボランティアのための点字 110 番開設
1993(平成 5)			
2. 25	児童読書研究部会研修会	3. 19	「山口文献情報連絡会研修会」を「山口県図書館ネットワーク研修会」と合同開催、以後、「山口文献情報連絡会」は休止
3. 4	大学図書館職員研修会(山口大学附属図書館)	4. 28	山口県高度情報通信網の稼働により、図書館ネットワーク・システムへのアクセスポイントが拡大
3. 25	役員会開催	5. 9	～10 日、県立図書館で県教委主催「高等学校図書館担当者研修講座」
4. 29	日図協山口県内在住会員のつどい、県立図書館で開催、5 人が研究発表、参加 42 名	6. 1	文部省、「学校図書館図書標準」を設定し、学校図書館図書整備新 5 年計画を策定、通知
6. 16	役員会開催	9. 1	防府市立防府図書館、パソコン通信による図書検索・予約サービス開始
6. 30	定期総会開催	9. 13	～11 月 22 日、県立図書館、県民大学講座「図書館活用実践講座」を開催、全 6 回
	報告「最近の図書館界の情勢報告」山本哲生理事、県立図書館への提言等の意見発表会	9. 16	～12 月 10 日、県点字図書館、「朗読奉仕員養成講習会」を「音訳奉仕員養成講習会」と改称し開催
7. 9	児童読書研究部会総会・研修会	9. 25	宇部市立図書館、日本図書館協会建築賞受賞
7. 27	大学図書館職員研修会(山口大学附属図書館)	10. 1	宇部市立図書館、柳井市立図書館、コンピュータ稼働
8. 10	中国地区公共図書館間相互貸借規程改正	11. 9	山口県学校図書館研究大会（新南陽市）
9. 28	児童読書研究部会研修会	11. 15	鹿野町立図書館、新築開館
11. 9	第 24 回山口県学校図書館研究大会新南陽大会（主催：山口県学校図書館協議会）後援	12. 9	子どもと本の議員連盟発足
11. 11	公共図書館職員研修会、テーマ「カウンターのうちそと・貸出を中心にして」、講演「わたしの・みんなの・地域の図書館」才津原哲弘（刈田町立図書館）		
12. 4	公共図書館貸出業務調査実施		
1994(平成 6)			
2. 25	公共図書館部会研修会（鹿野町立図書館）	3.	文部省『県立図書館の役割と実践—都道府県立図書館の実践事例集—』刊
3.	『山口県図書館相互協力便覧 1994 年版』刊	4. 1	下関市立下関、長府、彦島の 3 図書館、コンピュータ稼働
3. 10	児童読書研究部会研修会	4. 22	「児童の権利に関する条約」批准
3. 16	役員会開催	5. 9	～10 日、県立図書館で県教委主催「高等学校図書館担当者研修講座」
3. 31	図書館政策委員会『図書館はいま 白書・山口県の公共図書館 1993』刊	5. 19	山口女子大学附属図書館、学術情報センターへ接続開始
4. 22	役員協議会開催	6.	阿東町図書センター、山村開発センター内に開設
6. 10	児童読書研究部会研修会	7. 1	岩国市立中央図書館、新築開館
6. 27	定期総会、新会長吉弘欽一（県立図書館長）就任、研修会「山口県公立図書館白書について」講師：山本哲生理事、部会研修会	7. 18	山口市図書館計画協議会に、県立図書館職員が参加、年内に 6 回開催
9. 29	理事会開催	9. 14	～10 月 24 日、県立図書館が県民大学「図書館活用百科」を県立と宇部市立図書館とで開催
10. 14	児童読書研究部会（岩国市立中央図書館）	10. 28	山口県学校図書館協議会 40 周年記念大会開催（山口市）
11. 11	公共図書館部会研修会(岩国市立中央図書館)	11.	「ユネスコ公共図書館宣言」改訂
11. 16	参考業務研究部会研修会	12. 16	県職員対象の新規プロジェクト募集で、県立図書館自主研究グループ「どこでもドア」の「リプロプラン UFO」が知事表彰
12. 1	理事会開催	—	大学図書館問題研究会全国大会開催（山口市湯田）
12. 8	～9 日、第 1 回「山口県図書館振興大会」を「中国地区公共図書館職員研究集会」と同時開催、参加者 130 名 テーマ「公共図書館の振興・発展にむけて」、講演「新しい図書館づくりと国の動き」酒川玲子（日本図書館協会事務局長） 事例発表、図書館振興シンボルマーク&キャッチフレーズ募集、決定など		
1995(平成 7)			
2. 16	参考業務研究部会研修会	1. 6	徳山高等専門学校と徳山市立中央図書館相互のパソコン通信による資料検索システムの運用開始
2. 28	公共図書館部会研修会	3. 14	山口県視聴覚センターの廃止にともない、「山口県立図書館条例」改正
3. 3	大学図書館職員研修会(山口大学附属図書館)		
3. 10	児童読書研究部会研修会		

3. 7	児童読書研究部会研修会		公開質問状を送付
3. 14	大学図書館職員研修会(山口大学附属図書館)	2. 6	宇部市立図書館、外国語図書コーナー開設
3. 21	理事会開催	3. 14	「山口県大学図書館協議会(仮称)」設立準備会開催(山口大学)
5. 30	役員会開催	3. 31	山口県社会教育委員の会、「生涯学習社会に対応した図書館のあり方」を提言
6. 27	児童読書研究部会研修会	4. 1	宇部市立図書館、全館禁煙実施
6. 30	定期総会開催、出席 91 名 研修会「図書館振興と地方分権」松崎啓三(栃木県馬頭町教育委員会社会教育課課長補佐・日図協町村図書館活動推進委員会委員)	5. 8	大島町立大島図書館、新築開館
10. 6	図書館ネットワーク研究部会発足、研修会(宇部市立図書館)	5. 9	市町立図書館 8 館が参加して県内総合目録のための研究会発足
10. 9	児童読書研究部会研修会	5. 14	岩国市立中央図書館、学校とのパソコン通信 開始
11. 7	～ 8 日、山口県図書館振興大会開催 講演「会津からみた戊辰戦争」八巻実(常総歴史研究会代表) パネルディスカッション「会津と長州の恩讐」 関連行事「わくわくドキドキおはなし広場」など	5. 14	「山口県立大学新図書館基本構想(案)」県立大学評議会です承
11. 24	大学・短大・高専部会研修会(梅光女学院大学情報センター)	5. 20	美和町立図書館開館
12. 12	図書館ネットワーク研究部会研修会 臨時役員会「山口県新長期展望」について	5. 21	山口県大学図書館協議会設立総会(山口大学)
12. 16	山口県新長期展望素案への要望書を山口県新長期展望策定協議会に提出	6. 11	「学校図書館法」改正
12. 18		6. 12	佐々木鶴代編『宇部短期大学司書養成課程 30 周年記念誌』刊
		7.	宇部読書グループ連絡協議会編『宇部読書グループ連絡協議会 30 周年記念誌』刊
	1997 年山口県図書館振興大会	8.	大島町立大島図書館、日曜開館開始
		8.	山口大学附属図書館では 24 時間開館を開始
		9. 2	～ 26 日、県立図書館が「公立図書館等職員専門講習会」開催、以後毎年開催
		10.	県立図書館が「新山口県立図書館整備基本構想素案」策定
		10.	山本哲生編『グラフで見る日本の町村図書館』図問研山口支部刊
		10. 13	図問研山口支部、県教育委員会へ「図書館の振興に関する要望書」を提出
		10. 21	光市立図書館、コンピュータ更新、ビデオテープ貸出開始
		10. 24	～ 12 月 10 日、県立図書館が維新再発見展「萩から発信 飛耳長目策」開催(県立図書館、萩市立図書館)
		10. 29	第 25 回山口県学校図書館研究大会萩大会
		11. 9	「読書感想文コンクール」表彰式、昭和 43 年から継続、この 30 回で終了
		12.	山口県高等学校教育研究会学校図書館部会、学校図書館の充実についての要望書を県教委に提出
		12. 1	光市立図書館、パソコン通信による蔵書検索開始
1998(平成 10)			
1. 24	ネットワーク研究部会研修会(山口大学)	1.	山口大学附属図書館では市民への図書貸出を実施
2. 25	児童読書研究部会研修会	2. 2	～ 3 日、県立図書館で「中国・四国地区図書館地区別研究協議会」開催 参加者 131 名
2. 26	人権に関する問題となった雑誌の取り扱い調査を県内公共図書館及び大学・短大・高専図書館に対して実施、調査結果は協会報 No. 55	2. 4	～ 6 日、「中国・四国地区図書館地区別研修会」開催、参加者 60 名
3. 3	大学図書館職員研修会(山口大学附属図書館)	2. 27	須佐町立図書館開館、自動貸出機による 24 時間サービス開始
3. 5	公共図書館部会・参考業務研究部会研修会	3.	県教委、「山口県教育ビジョン」策定
3. 18	整理業務研究部会研修会	3.	『山口県立大学の現状と課題 自己点検・評価報告書』刊、附属図書館を含む。
3. 20	理事会開催	3.	山口県高等学校教育研究会学校図書館部会編『学校図書館をインターネットにつなごう』刊
3. 31	児童読書研究部会『子どもにすすめたい本 IV ぶちおもしろい本みつけた!』刊	4. 1	長門市立図書館、開館に先立ち BM「みすゞ号」運行開始、10 月開館時にはシャトルバスを運行
5. 22	役員会開催	4. 1	田布施町立田布施図書館、コンピュータ更新
6. 15	ネットワーク研究部会研修会(山口大学)	5. 1	豊浦町立図書館、コンピュータ導入
6. 17	児童読書研究部会研修会	6.	山口県総合情報化ビジョン策定
6. 29	定期総会、新会長に藤田和夫(県立図書館長)就任、研修会、事例発表「貸出 100 万冊の秘密」、「学校図書館はいま」、講演「図書館法		

7. 16	改正をめぐる諸問題」酒川玲子（日本図書館協会事務局長）	6.	宇部市立図書館、大活字本コーナー新設
9. 24	ネットワーク研究部会、県域図書館総合目録	7. 13	学校図書館を考える会・山口ネットワーク「ゆるねっと」発足
9. 27	ネットワーク実験版の構築を開始	8. 1	県立図書館『山口県ライブラリー・ガイド』発行、以後平成 13 年まで毎年発行
11. 13	児童読書研究部会研修会	9. 11	県立図書館で山口県図書館協力セミナー開催
	～ 28 日、図書館視察研修（主催：図問研山口支部）共催、三日月町・佐賀市立図書館	9.	防府図書館フレンズの会発足
	～ 14 日、山口県図書館振興大会開催、テーマ「新しい時代の図書館に期待するもの」、講演「朝の読書が奇跡を生んだ」林公（市川学園教諭）、シンポジウム「未来をひらく図書館を求めて」、事例発表「市民とともにそだつ図書館」犬塚まゆみ（伊万里市）、「交流会・朝の読書実践 Q & A」等	10.	総合目録ネットワークプロジェクト、国立国会図書館の運営に移行
12. 21	ネットワーク研究部会、「実験版山口県域図書館総合目録」実用化についての協議会	10.	新南陽市図書館友の会発足
		10. 1	長門市立図書館、新築開館
		10. 24	～ 28 日、徳山市立中央図書館、創立 50 周年記念行事開催
		12. 1	萩市立図書館、コンピュータ導入
		12. 1	～ 3 月 31 日、錦町立広瀬図書館、改修工事
1999(平成 11)			
2. 25	児童読書研究部会研修会	1.	下関市、新図書館基本構想策定
3. 5	大学図書館職員研修会(山口大学附属図書館)	2.	私たちの図書館をつくろう会(山口市)、山口市立図書館についてのアンケート実施
3. 25	公共図書館部会・参考業務研究部会研修会	3. 8	県点字図書館、厚生省の視覚障害者情報提供システム整備事業に参加
3. 25	理事会開催	3. 31	県立図書館の特許公報類地方閲覧所の指定解除
4. 25	ネットワーク研究部会研修会、県内総合目録データベース実験版を公開	4.	県立図書館、『山口県図書館協力ハンドブック』刊
5. 21	役員会開催	4.	秋穂町中央公民館図書室にボランティア運営の「わくわく文庫」開設
6. 17	児童読書研究部会研修会	4. 16	県立図書館が総合目録構築のため、実態・意識調査を実施
6. 24	定期総会開催、新会長に山本哲生(元周東町立図書館長)就任、会則及び役員選出規程改正、研修会『「基準」をめぐる諸問題』講師：山本宏義(相模原市立図書館長)	5. 1	下関市の 3 図書館、ホームページ開設、インターネットで蔵書検索開始
8. 6	公共図書館部会研修会	5. 11	県立図書館、「図書館協力担当者会議」を開催、以後毎年度当初に開催
8. 26	15 団体で構成する「図書館振興県民のつどい」実行委員会を発足	6.	山口県高等学校教育研究会図書館部会編『山口県高等学校図書館の実態 1999 年度』刊
9. 18	～ 19 日、図書館視察研修(主催：図問研山口支部)共催、能登川町立図書館・近江八幡市立図書館・大阪市立中央図書館見学	6. 1	県立図書館、「郷土出版物収集アドバイザー制度」を導入
9. 29	児童読書研究部会研修会	6. 12	風車の会発足
9. 30	理事会開催	6. 15	県立図書館、遠隔地利用者返却システム試行開始
10. 24	ネットワーク研究部会研修会	7.	図書館法改正、国庫補助要件としての館長資格、最低基準の削除
10. 29	～ 30 日、第 21 回中国地区学校図書館研究大会(岩国大会)後援	7. 1	東和図書館友の会発足
11. 12	～ 13 日、山図協 90 周年を記念し、従来の図書館振興大会を第 1 回「山口県図書館振興県民のつどい」として開催、テーマ「いいまちづくり 役立つ図書館」記念講演「地方自治と図書館」上原恵美(滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール副館長)シンポジウム基調講演「まちづくりと図書館」糸賀雅児(慶応義塾大学教授)関連行事「山口県ほんのきもち賞」表彰式図書館友の会のつどいなど	7. 14	岩国市の 3 図書館、ホームページ開設、インターネットでの蔵書検索開始
11. 30	実行委員会編『図書館振興この 10 年』刊	7. 30	徳山工業高等専門学校、書庫改修
	理事会開催、県教育委員会に図書館行政に関する要望書提出	7. 31	周東町立周東図書館、子ども放送局設置
		9. 1	宇部市立図書館、予約・検索システム更新
		10. 15	山口市図書館計画検討会発足
		10. 29	～ 30 日、第 21 回中国地区学校図書館研究大会、岩国市で開催
		11. 18	昭和 3 年建築の旧明木村立図書館、登録有形文化財に指定
		12.	山口大学医学部附属病院に、院内図書室開設
		12. 25	柳井市立柳井図書館、コンピュータ更新
2000(平成 12)			
2. 10	大学図書館職員研修会(山口大学附属図書館)	1.	子ども読書年はじまる。
3. 10	山図協編『いいまちづくり役立つ図書館』刊	2. 18	岩国市立中央図書館、BM 運行開始
5. 19	役員会開催	3. 16	防府図書館フレンズの会、市教委へ「21 世紀へむけて私たちの提言」を提出
6. 14	児童読書研究部会研修会		

6. 30	定期総会開催 図書館法 50 周年記念講演「図書館法のめざすところ」山口源治郎（東京学芸大学助教授）	3. 30	須佐町立図書館、延べ床面積 2 倍に増築
9. 19	ネットワーク研究部会・参考業務研究部会研修会（山口大学）	4.	文部省、2000 年度の学校図書館整備費として 110 億円地方交付税措置
9. 27	児童読書研究部会研修会	4. 1	柳井市立柳井図書館、ホームページ開設
9. 28	理事会開催	4. 1	平生町立図書館、コンピュータ導入
10. 6	公共図書館部会研修会	4. 1	山口市立図書館開設準備室開設
11. 11	～ 12 日、第 2 回図書館振興県民のつどい・「子ども読書年」山口県大会を「山口の子ども読書年」推進実行委員会と共催（県立図書館） テーマ「すべての子どもに本との出会いを」 基調報告「子どもと本との出会いづくりにいま問われていること」広瀬恒子（親子読書地域文庫全国連絡会代表） シンポジウム「子どもと本との出会いを確かなものに」 手づくり絵本コンクール表彰式、ワクワクおはなし大会ほかの関連イベント多数 「子ども読書年」山口県大会宣言採択	4. 13	周東町立周東図書館、BM 更新
12. 7	大学・短大・高専部会、山口県大学図書館職員研修会共催（山口大学附属図書館）	4. 23	こどもと本ジョイントネット 21 山口設立
12. 8	参考業務研究部会研修会	5.	国際子ども図書館開館
		5. 24	山口市中園文化施設運営協議会発足
		5. 25	小郡町の新しい図書館づくりをすすめる会発足
		6. 8	山口県総合目録システム検討委員会発足
		7. 4	美祢市立図書館、開館 40 周年記念行事開催
		9. 22	～ 11 月 22 日、県立図書館が県民大学講座「子ども読書年：わくわく教室」開催、全 5 回
		10.	豊浦町図書館、改築移転
		10. 1	山口市立図書館建設のため、県立図書館職員を市に派遣、市から研修職員受入、12 年度、13・14 年度前・後期、15 年度各 1 名
		10. 23	山口県学校図書館協議会、学校図書館の職員と図書費についての要望書を文部大臣・県教委に提出
		11. 1	小野田市立図書館、ホームページ開設、インターネットでの蔵書検索開始
		12.	ビジネス支援図書館協議会設立
2001(平成 13)			
2. 16	ネットワーク研究部会研修会	1.	省庁再編により文部科学省発足
3.	『山口県内市町村図書館例規集』、『基準・マニュアル等事例研究資料』発行	1. 29	萩市立図書館、創立 100 年記念式典挙行
3. 2	理事会開催	2.	山口県、生涯学習圏構想策定
3. 2	県版望ましい基準を策定するため政策委員会が発足	2.	西日本図書館学会山口県支部発足
3. 7	児童読書研究部会研修会	3.	学校図書館法改正、学校図書館施設等に関する国庫補助廃止
5. 18	役員会開催	3.	山口県教委『山口市立図書館のサービス計画』刊
6. 21	児童読書研究部会総会・研修会	3.	風車の会編『子どもと本との出会いづくり・子ども読書年山口県大会記録集』刊
6. 29	定期総会開催、総会後講演会「図書館による町村ルネサンス・L プラン 21」日図協町村図書館活動推進委員会委員長糸賀雅児（慶應義塾大学教授）	4.	宇部市立図書館、周辺 2 市 3 町に広域貸出開始
9. 1	日図協、中国ブロックの集いを岩国市立中央図書館で開催、参加者 105 名 竹内愼理事長講演「図書館のめざすもの・先人と私たち」と、意見交流、懇親会	4.	防府市立防府図書館、対面朗読開始
9. 7	参考業務研究部会兼公立図書館職員等専門講習会「読書案内・レファレンスの実践技術」	4. 1	光市立図書館、ホームページ開設、インターネットでの蔵書検索開始
9. 19	整理業務研究部会研修会	4. 5	玖珂町立図書館、コンピュータ導入
10. 5	参考業務研究部会・ネットワーク研究部会研修会	5. 25	県立図書館「新任職員基礎講座」開催、6 月までに全 3 回開催、以後毎年開催
10. 11	児童読書研究部会研修会	6.	萩国際大学附属図書館、一般開放実施
11. 9	～ 10 日、第 3 回図書館振興県民のつどいを 16 団体で組織する実行委員会が開催、テーマ「みんなで描く新世紀の図書館」、基調講演「進化する図書館とまちづくり・ディズニールランドの街浦安から」常世田良（浦安市立中央図書館長）、シンポジウム「みんなで拓く図書館の未来」、講演会「ブックスタートで本のひととき 赤ちゃんといっしょ」佐藤いづみ（ブックスタート支援センター企画主任）、パネルディスカッション、ハイブリッド・ライブラリー体験コーナーほか	6.	本とあそぼう全国訪問おはなし隊、県内巡回
		7.	文部科学省、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」告示
		7. 17	～ 9 月 9 日、山陽町立厚狭図書館、IT 講習会開催
		8.	ブックスタート支援センター設立
		9.	美祢市立図書館、ホームページ開設
		9.	山口市子どもと読書ネットワーク「ぶどうの木」設立
		9. 30	山口大学附属図書館自己点検・評価委員会編『自己点検・評価報告書』刊
		10. 1	長門市立図書館、図書館協議会設置
		10. 9	下関市立下関図書館、BM「ブックル号」運行
		10. 29	萩市立図書館、「わくわく子ども図書館」開設
		11.	山本哲生編『グラフで見る日本の町村図書館 2』図問研山口支部刊
		12. 12	「子どもの読書活動の推進に関する法律」制定

2002(平成 14)			
3. 1	役員会開催	1.	長門市立図書館、ホームページ開設
3. 7	児童読書研究部会研修会	2. 18	下関市の図書館、ICカードでの貸出開始
3. 9	大学・短大・高専部会・ネットワーク研究部会合同研修会	3. 30	山口大学附属図書館外部評価実施委員会編『外部評価報告書』刊
6.	政策委員会が「山口県の未来をひらく・やまぐち 2010 年の図書館像 (概要版)」を発表	4.	玖珂町、由宇町、豊田町でブックスタート開始
6. 12	児童読書研究部会総会・研修会	4.	宇部フロンティア国際大学附属図書館開館、一般開放実施
6. 22	整理業務研究部会編『山口県郷土件名標目表』刊	4. 1	県立図書館ホームページ、県域横断検索システム運用開始、遠隔地返却システム本格実施
6. 28	定期総会開催、総会後研修会「新たなまちづくり 役立つ図書館 やまぐち 2010 年の図書館像を考える」	4. 1	和木町立図書館、開館時間を延長
9. 25	児童読書研究部会研修会	4. 15	学校図書館図書整備第二次 5 年計画通知
9. 27	理事会開催	4. 23	第 1 回子ども読書の日
10. 11	参考業務研究部会研修会	4. 23	宇部市立図書館とこどもと本ジョイントネット 21
10. 20	第 4 回図書館振興県民のつどい「本に親しみ本を楽しむ こどもの未来をひらく図書館」開催 講演「物語の生まれるとき」富安陽子(児童文学者)、フォーラム「すべての子どもに本との出会いを」には河村建夫文部科学副大臣も参加、ブックリサイクル、バザー、コンサートなどイベント多数		山口とが最初の子どもの読書活動優秀実践図書館・団体として文部科学大臣表彰
10. 26	ネットワーク研究部会、大学・短大、高専部会合同研修会	5. 8	阿知須町図書館開館準備協議会発足
		6. 20	長門市小中学校図書館担当者連絡協議会発足
	『山口県の未来をひらく やまぐち 2010 年の図書館像』表紙	7. 1	久賀町立久賀図書館、コンピュータ導入
		7. 2	岩国市に子どもの読書を考える会発足
		7. 27	長門市に子どもの読書推進会議発足
		8.	「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」策定
		8. 22	山口県子ども読書活動推進会議設置
		8. 31	県立図書館の機能強化検討委員会が、報告書『山口県立図書館・進化へのプラン』を作成
		9. 1	～12月21日、「子ども読書活動推進フォーラム」を萩市、下関市、徳山市で開催
		9. 3	～6日、周東町立周東図書館、IT講習会開催
		10.	国立国会図書館関西館開館
		10.	中国四国地区大学図書館研究集会(山口大学)
		10. 3	長門市立図書館、BM「ぐるブック号」運行開始
		10. 23	防府市立防府図書館、姉妹都市・韓国春川図書館との資料交換開始
		11.	旭村立明木図書館、乳幼児健診時の絵本紹介開始
		11. 17	全日本教職員組合等主催「学校図書館・公共図書館の充実を求める山口のつどい」(山口市)
		—	子どもの読書活動推進モデル事業、岩国市・宇部市・長門市・大島町で実施
2003(平成 15)			
2. 20	政策委員会編『山口県の未来をひらく やまぐち 2010 年の図書館像』刊	2. 12	下関市、北九州市との図書館広域利用の調印式
2. 14	整理業務研究部会研修会	3. 8	県教委主催「子ども読書活動推進フォーラム in 山口」開催
2. 26	児童読書研究部会研修会	3. 25	周東町立周東図書館、コンピュータ導入
3. 3	理事会開催	4. 1	旧阿東町図書センターが移転、阿東町立図書館として設置、開館
3. 19	公共図書館部会研修会	4. 21	合併により周南市誕生、関係市町村図書館改称
5. 26	理事会開催	6. 25	山口市の BM「ぶっくん」運行開始
6. 12	児童読書研究部会総会・研修会	6. 27	小郡町、町立図書館建設用地を買収
7. 7	定期総会開催、会長稲生慧(元岩国市立中央図書館長)就任 午後会員研修会を県立図書館開設 100 周年記念講演会と兼ねて開催 聴衆参加「きいてよ私ののはらうた」 講演「詩がひろがるとき」工藤直子(児童文学作家)	7. 7	県立図書館 100 周年記念式典・記念講演会
10. 19	山口県立山口図書館開設 100 周年記念・第 5 回図書館振興県民のつどい、県教委主催「子ども読書活動推進フォーラム」と同時開催、	7. 13	阿知須町立図書館「きらら館」開館
		7. 16	小郡町新図書館等建設検討委員会発足
		7. 16	旭村立明木図書館、蔵書の再調査開始
		7.	活字文化議員連盟設立
		8. 13	宇部市立図書館と市内中学校図書館との連絡協議会発足
		8. 20	小野田市、マタニティー・ブックスタート開始
		10. 16	県立図書館、新システムの運用試行

10. 24	テーマ「いま、子どもたちに何を、どう伝え ますか？」 「きょうは楽しいさんかん日」宮西達也（絵 本作家）、村中李衣（児童文学作家）、那須 正幹（児童文学作家）による授業など	10. 31	山口市立児童図書館、市立図書館開館に伴い閉館
10. 29	参考業務研究部会研修会	11. 1	山口市立図書館、山口情報芸術センター内に開館
11. 14	児童読書研究部会研修会	11. 1	私たちの図書館をつくろう会編『山口市民の図書 館づくり 13年のあゆみ』刊
12. 20	整理業務研究部会研修会	11. 3	児玉文庫開設 100 周年記念碑の除幕式举行
	大学・短大・高専部会、ネットワーク研究部 会合同研修会	11. 6	～7 日、「視聴覚教育総合全国大会山口大会」開催
		11.	国立国会図書館、レファレンス協同データベース 実験事業の第 1 期参加館募集
2004(平成 16)			
2. 6	公共図書館部会研修会	1.	山本哲生編『グラフで見る日本の町村図書館 3』 図問研山口支部刊
2. 25	児童読書研究部会研修会	3. 19	県立図書館でブックスタート実践講座開催
2. 26	大学・短大・高専部会研修会	3. 27	県立図書館「子ども読書活動推進フォーラム」開 催（宇部市立図書館）
3. 4	参考業務研究部会研修会	3. 31	県立図書館『山口県立山口図書館 100 年のあゆみ』 刊
3. 5	理事会開催	4.	文部科学省新規事業「社会教育活性化 21 世紀プラ ン」、「これからの図書館の在り方検討協力者会議」
4. 23	市町村合併対応検討委員会発足	4. 1	県立図書館に「子ども読書支援センター」設置、 青少年室を子ども資料室に改称
5. 14	役員会開催	4. 1	山口大学の国立大学法人化にともない、山口大学 図書館総合図書館、医学部図書館及び工学部図書 館に名称変更
6. 24	児童読書研究部会総会・研修会	4.	岩国市、県内最初の「子ども読書活動推進計画」 策定
6. 30	『図書館と市町村合併・対応の指針とマニユ アル』を発行	4.	県教委が県立図書館あり方検討委員会を設置
7. 3	子ども元気創造フェスティバルを協賛	5. 29	文部科学省、日図協共催でシンポジウム「ディス カバー図書館」開催（東京）
7. 5	定期総会開催、職員研修会、講演「市町村合 併と図書館」大串夏身（昭和女子大学教授）	8. 25	～27 日、山口大学図書館が国立情報学研究所と目 録システム地域講習会（図書コース）を共催
7. 29	図書館振興県民のつどい実行委員会発足	9.	山口市立図書館が開館 10 か月余りで貸出数 100 万 冊を突破
9. 12	諫早図書館等の視察研修を図問研山口支部と 共催	10.	県教委が「子ども読書活動推進計画」策定
9. 24	理事会開催	10. 1	合併により周防大島町の図書館名改称
9. 29	児童読書研究部会研修会	10. 4	合併により（新）光市誕生、翌 4 月 1 日大和分館 新設開館
10. 8	整理業務研究部会研修会	—	台風 18 号により、県央部の図書館が被災
10. 30	第 6 回図書館振興県民のつどい開催 テーマ「図書館を身近なものにしていくため に」、講演「ひとの自立と図書館」竹内哲（日 本図書館協会理事長）、事例報告、質疑応答	—	県学校図書館協議会創立 50 周年記念行事実施
10. 31	文部科学省主催の全国読書フェスティバル・ 山口大会を後援（県総合保健会館）		
11. 1	県教育委員会から社会教育特別功労表彰		
11. 5	参考業務研究部会研修会		
12. 1	大学等図書館部会研修会		
2005(平成 17)			
2. 8	会則等規約改正委員会発足	1.	萩市立田万川中学校図書館、校舎新築にともない 地域開放図書館として設置
2. 10	公共図書館部会研修会	1.	「県立図書館あり方検討委員会」が報告書提出
3. 3	児童読書研究部会研修会	1.	平成 15 年合併の周南市図書館がシステム統合
3. 4	理事会	2. 13	合併により（新）下関市の図書館名改称
3. 7	大学・短大・高専部会、山口県大学図書館協 議会事業助成「個人情報保護法と図書館」	2. 21	合併により（新）柳井市の図書館名改称
3. 11	参考業務研究部会研修会	3. 6	合併により（新）萩市の図書館名改称
6. 3	役員会開催	3. 22	合併により山陽小野田市の図書館名改称
6. 16	児童読書研究部会総会・研修会	4. 1	光市立図書館大和分館開館
6. 28	定期総会開催、午後会員研修会、テーマ「合 併と新しい図書館運営」、事例発表、講演「図 書館と新しいまちづくり」渡部幹雄（滋賀県 愛知川町立図書館長）	4. 1	長門市立やゆ分館開館
9. 2	大学・短大・高専部会、ネットワーク部会合 同講演会	5.	公立大学協会図書館協議会（下関市立大学）
10. 4	理事会開催	6.	徳山大学図書館内にマンガ資料館開設
10. 5	児童読書研究部会研修会	7. 29	文字・活字文化振興法公布
		7.	岩国市立中央図書館、ビジネス支援コーナー設置
		9. 15	山口大学図書館セミナー 2005 を開催
		10. 1	合併により（新）山口市の図書館名改称
		10.	合併により下関市の図書館システムが統合

10. 21	参考業務研究部会研修会	10.	山陽小野田市の図書館が合併を機にシステム統合
10. 29	第7回図書館振興県民のつどい テーマ「読書活動に翼を 広げられ連携の輪」 講演「お笑い流読書の喜び」笑福亭仁勇（上方落語家）、講演「文字・活字文化振興法について」河村建夫（元文部科学大臣）、講演「学校図書館を活性化する」参納哲郎（富山短期大学非常勤講師）、パネルディスカッション、その他関連イベント	10. 27	県立図書館が「文字・活字文化の日」記念行事
11. 18	整理業務研究部会研修会	12. 5	山口大学学術情報機構シンポジウム 2005 を開催
		—	県立図書館が新規事業「子ども読書指導者養成講座」、「新刊児童書出前研究会」を開催、以後継続
		—	山口県立大学、図書館システムを更新
		—	梅光女学院大学、国立情報学研究所と接続
		—	山口大学はじめ県内4大学、読書マラソン実施
		—	学校図書館を考える会、周南、岩国、防府に発足
2006(平成18)			
2. 10	公共図書館部会研修会（県政資料館）	1.	図書館間協力における現物貸借で借り受けた図書の複製に関するガイドライン等合意
3. 7	理事会開催	2.	山口東京理科大学図書館と山陽小野田市が包括的提携協定を締結
3. 8	児童読書研究部会研修会	3.	文部科学省「これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして」発表
3. 15	参考業務研究部会研修会	3. 20	合併により(新)岩国市の図書館名改称
5.	市町村合併をした図書館に対するアンケート調査を実施	4.	山口大学学術機関リポジトリ「YUNOCA」システムを構築し、試験公開を実施
5. 12	役員会開催	4. 1	県立図書館、課名変更及び組織再編
5. 31	総会開催、総会後会員研修会、講演「『これからの図書館像』を生かすために」糸賀雅児（慶應義塾大学教授、これからの図書館の在り方検討協力者会議副主査）	4. 1	山口県立大学、公立大学法人となる。
6. 16	児童読書研究部会研修会	7. 31	山口大学、県立大学、県立の3館が相互協力協定を締結
8. 25	理事会開催	8. 2	～4、山口大学図書館が国立情報学研究所と共催で目録システム地域講習会（図書コース）を開催
9. 30	第8回図書館振興県民のつどい開催、午後の部を「日本図書館協会中国ブロック会員のつどい」と兼ね日本図書館協会と共催 テーマ「読書で暮らしに潤いを—文字・活字文化振興法を身近なものにするために」 講演「本と言葉と私の話～読むこと・書くこと・語ること」山根基世（NHK アナウンス室長）、情勢報告「文字・活字文化振興法を実効あるものにするために」常世田良（日本図書館協会事務局次長）、パネルディスカッション	9. 1	県立図書館に外部委員8名からなる図書館運営協議会設置
10. 19	児童読書研究部会研修会	9. 30	「図書館友の会等山口県連絡会」が発足
11. 24	参考業務研究部会研修会	10.	8月に起きた徳山高専学生殺害事件に関する新聞記事の図書館での扱いが、全国図書館大会で議論
12. 15	整理業務研究部会総会・研修会	11. 1	防府市立防府図書館が開架15万冊で駅北再開発ビルに新築移転開館
		11. 3	～12日、「国民文化祭やまぐち2006」開催 岩国市玖珂では「全国こどもブックフェスタ」、県立図書館では「日・中・韓子ども絵本展」開催
		12. 22	教育基本法の全面改正
		—	萩市、周防大島町が合併にともなうシステム統合
		—	県立図書館、ビジネス支援コーナー設置
2007(平成19)			
1. 18	～19日、全国公共図書館総合・経営部門研究集会を共催、参加者243名 1日目、基調講演「『これからの図書館像』を実現するために」葉袋秀樹（筑波大学大学院教授）、事例発表、情報交換会 2日目、情勢報告、パネルディスカッション	3. 31	山口大学では大学情報機構（図書館を含む）の自己点検評価『大学情報機構の現状と課題（18年度版）』刊
2. 22	公共図書館部会研修会（防府図書館）	3.	柳井市立大畠図書館が複合施設で開館
2. 27	大学・短大・高専部会合同研修会	4. 1	文部科学省による学校図書館図書整備5か年計画（第3次）始動、地方交付税措置
3. 2	参考業務研究部会研修会	5.	山口東京理科大学と山陽小野田市立の両図書館が相互利用協定締結、運用開始
5. 23	役員会	6. 20	新教育基本法成立を受けて、学校教育法、教育職員免許法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が国会で可決
6. 29	定期総会開催、会長藤村聡（元新南陽市図書館長）就任、会員研修会「教育基本法[改正]と図書館～どうなる、公共図書館・学校図書館～」塩見昇（日本図書館協会理事長）	8.	～9月、山口大学図書館主催の「図書館研修会」を全8回、初級・中級コースの目録講習会を全6回開催
7. 6	児童読書研究部会総会・研修会	10.	萩市、2010年開館予定の新図書館長を全国公募、選出後、準備室に配属
7.	運営活性化委員会と創立百年記念事業委員会を設置	10. 24	文字・活字文化推進機構の設立総会
8.	大学・短大・高専部会、山口大学と研修会共	10. 29	～30日、101年目となる第93回全国図書館大会

8. 14	催 ～9月7日、都道府県図書館協会等の実情を調査	11.	が東京で開催 下関市立大学、鯨資料室を図書館内に開設
9. 28	理事会	12. 18	～21日、中国・四国地区図書館地区別研修（文部科学省主催）を山口市で開催
10. 23	児童読書研究部会研修会	—	美東町、長門市、下松市が「子ども読書活動推進計画」を策定
10. 27	第9回図書館振興県民のつどい開催、児童読書研究部会30周年記念講演「見えない世界の描き方～魔法作家スズキ コージの世界～」	—	県立図書館2万冊分の開架書架増設
11. 9	参考業務部会研修会	—	梅光学院大学図書館、読書家大賞を設ける。
2008(平成20)			
2. 8	参考業務部会研修会	1. 25	山口大学総合図書館において、山口県大学図書館協議会実務者研修会を開催
2. 26	公共図書館部会研修会	3. 21	合併により(新)美祢市の図書館名改称
3. 7	理事会、記念事業委員会、運営活性化委員会を開催	4.	県立図書館、「ふるさと文学ギャラリー」、「闘病記コーナー」を開設
3. 12	児童読書研究部会研修会	4. 1	山陽小野田市立中央図書館長に一般公募で選ばれた館長が着任
5. 16	創立百年記念誌編集委員会発足	5.	県立図書館、来館者1,500万人突破記念行事
6. 27	定期総会開催、会員研修会「改正図書館法の問題点を巡って」松岡要（日本図書館協会事務局長）	6. 11	教育基本法の全面改正を受けての「図書館法」改正
11. 1	第10回図書館振興県民のつどいを協会創立100年記念のイベントと位置付け開催、山口市の「まちと文化推進事業」とタイアップして会場を商店街と県立図書館との2会場で同時開催、テーマ「人と地域の自立を支える図書館」、講演「図書館の使命とその可能性」片山善博（前鳥取県知事）、その他両会場で関連イベント	7. 1	防府市立防府図書館、窓口業務を民間委託
		8. 22	国立情報学研究所の委託を受け、山口県大学図書館協議会が「県域共同リポジトリ」の構築事業を開始
		8. 27	～29日、山口大学図書館が国立情報学研究所と共催で目録システム地域講習会（雑誌コース）を開催
		10. 23	～24日、第49回中国・四国地区大学図書館研究集会開催（山口大学）
		10.	下関市立大学附属図書館に「ふく資料室」開設
		11. 3	山口市立小郡図書館の新館開館
		—	山口市、平生町が「子ども読書推進計画」策定

[参考資料]

- 田村盛一著 『山口図書館五拾年略史』 山口県立山口図書館, 1953.
山口県立山口図書館編 『山口県図書館史年表(1868～1963)』 山口県立山口図書館, 1963.
升井卓弥著 『山口県図書館史稿』 升井卓弥, 1990.
升井卓弥著 『近代日本図書館の歩み 地方篇(抜刷)』 日本図書館協会, 1992.
日本図書館協会編集 『近代日本図書館の歩み』 日本図書館協会, 1993.
山口県図書館振興県民のつどい実行委員会編 『図書館振興この10年』 山口県図書館協会, 1999.
山口県立山口図書館編 『山口県立山口図書館100年のあゆみ』 山口県立山口図書館, 2004.
日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編 『図書館ハンドブック』第6版 日本図書館協会, 2005.
山口県市町村合併誌編さん委員会編 『山口県平成の大合併：山口県市町村合併誌』 山口県市町村振興協会, 2007.
日本図書館協会 『図書館年鑑』 2005～2008.
日本図書館協会 『図書館雑誌』13～193号 1911～1935.
山口県立山口図書館 『山口県立山口図書館報告』第1～49号 1905～1943.
山口県立山口図書館 『山口図書館年報』昭和37年度版～平成19年度 1963～2008.
山口県立山口図書館 『山口県中央図書館報』1～17 1934～1942. 継続後誌：読書防長.
山口県立山口図書館 『読書防長』18～19 1942. 継続前誌：山口県中央図書館報, 継続後誌：山口図書館だより.
山口県立山口図書館 『山口図書館だより』20～83 1952～1966. 継続前誌：読書防長, 継続後誌：図書館やまぐち.
山口県立山口図書館 『図書館やまぐち』84～136 1967～1992. 継続前誌：山口図書館だより, 継続後誌：県立図書館だより.
山口県図書館協会 『YLA通信』1～22 1955～1960.
山口県図書館協会 『山口県図書館協会報としょかん』復刊No.1～76 1976～2008.

資料編

規則 1 山口縣圖書館協會規則

(明治 42 年 10 月 3 日)

第一條 本會ハ山口縣下の圖書館ニ關係アル者ヲ以テ組織シ圖書館ニ關スル事項ヲ研究スルコトヲ目的トス

第二條 本會ハ山口縣圖書館協會ト稱ス

第三條 本會ハ本部ヲ山口縣立山口圖書館内に置ク

第四條 本會ノ會務ヲ處理スル爲主事一名ヲ置キ山口縣立山口圖書館長ヲ推ス

第五條 本會ハ第一條ノ目的ヲ達スル爲メニ左ノ事項ヲ舉行ス

- 一 毎年一回春季ニ於テ總會ヲ開キ講話、研究、討議等ヲ爲スコト
- 二 展覽會、講習會等ヲ開クコト
- 三 圖書館及圖書ニ關スル事項ヲ調査スルコト
- 四 報告類ヲ發行スルコト
- 五 圖書館ニ關スル參考圖書及要具ノ共同購入ヲ爲スコト

第六條 本會々員ハ毎年會費トシテ金參拾錢ヲ納付スルコトヲ要ス

第七條 本則ハ總會ニ於ケル出席會員三分二以上ノ同意ヲ得テ變更スルコトヲ得

規則 2 日本圖書館協會山口支部規則

(大正 6 年 11 月 5 日)

第一條 本支部ハ山口縣下ノ日本圖書館協會會員ヲ以テ組織シ圖書館及圖書ニ關スル事項ヲ研究シ主トシテ山口縣下ニ於ケル圖書館事業ノ進歩發達ヲ計ルコトヲ目的トス

第二條 本支部ハ事務所ヲ縣立圖書館内に置ク

第三條 本支部ハ第一條ノ目的ヲ達スル爲メ毎年一回總會ヲ開キ講話、研究、討議等ヲ爲シ又講習會等ヲ開催スルコトアルヘシ

第四條 本支部ニ左ノ役員ヲ置キ其ノ任期ヲ各ニケ年トス但シ再選ヲ妨ケス

支部長 一 名

評議員 十二名以内

幹事 二 名

第五條 評議員ハ總會ニ於テ選舉ス

支部長ハ評議員ノ互選ニ依ル

幹事ハ支部長之ヲ囑託ス

第六條 本支部ノ費用ハ協會費ノ一部ト寄附金トヲ以テ之ニ充ツ

第七條 本規則ニ明文ナキモノハ協會規則ヲ準用ス

第八條 本規則ハ定期總會ニ於テ出席會員三分ノ二以上ノ同意ヲ經テ改正スルコトヲ得

規則 3 山口縣圖書館協會々則

(昭和 17 年 4 月 14 日)

第一條 本會ハ山口縣圖書館協會ト稱シ、事務所ヲ山口縣立山口圖書館内に置ク

第二條 本會ハ縣内圖書館事業ノ振興發達ヲ圖リ縣民文化ノ向上ニ資スルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スルタメ左ノ事業ヲ行フ

- 一、圖書館相互ノ連絡提携ニ關スル事項
- 二、圖書館ニ關スル研究調査
- 三、機關誌ノ發行
- 四、講習會、講演會及展覽會等ノ開催
- 五、其ノ他必要ナル事項

第四條 本會ハ縣内ニ於ケル公私立圖書館ヲ以テ組織ス

第五條 本會ハ事業遂行ノ便ヲ圖リ地方的協力ニ資スルタメ左記ノ通り支部ヲ設置ス

第一支部 大島郡

第二支部 玖珂郡 岩國市

第三支部 熊毛郡

第四支部 都濃郡 徳山市 下松市

第五支部 佐波郡 防府市

第六支部 吉敷郡 山口市

第七支部 厚狹郡 宇部市 小野田市

第八支部 美禰郡

第九支部 豊浦郡 下関市

第十支部 大津郡

第十一支部 阿武郡 萩市

第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一、會 長 一名
- 二、副會長 一名
- 三、理 事 若干名
- 四、評議員 十一名
- 五、幹 事 若干名

第七條 會長ハ會務ヲ總括シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アル時之ヲ代理ス

理事ハ會務ヲ處理ス

評議員ハ會務ノ重要事項ヲ審議ス

幹事ハ會長ノ命ヲ受ケテ庶務ニ従事ス

第八條 會長ニハ本縣學務部長ヲ、副會長ニハ本縣社會教育課長ヲ推戴ス

理事ハ會長之ヲ委嘱シ内一名ヲ互選シテ理事長トス

評議員ハ支部長ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長之ヲ委嘱ス

第九條 本會ハ毎年一回總會ヲ開催ス、但シ必要アル場合ハ臨時開會スルコトアルベシ

第十條 總會及評議員會ハ會長之ヲ招集ス

第十一條 本會ノ經費ハ會費、補助金、寄附金等ヲ以テ之ニ充ツ、但シ會費ハ年額三圓トシ其ノ半額ハ支部ニ交附スルモノトス

第十二條 本會々則ノ變更ハ評議員ノ議決ヲ經ルモノトス

第十三條 本會ノ會計年度ハ四月一日に始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

附 則

第十四條 支部ノ會則ハ別ニ之ヲ定ム

規則 4 山口県図書館協会会則

(昭和 28 年 4 月 27 日)

(名 称)

第一条 この会は山口県図書館協会という。

(事 務 所)

第二条 この会の事務所を県立山口図書館内に置く。

(目 的)

第三条 この会は県内の図書館事業の発展を図り、文化向上に寄与することを目的とする。

(事 業)

第四条 この会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 一 図書および図書館に関する研究調査
- 二 講習会、研修会、展示会、読書会、講演会等の開催および幹旋
- 三 図書および図書館用品の共同購入
- 四 図書館相互および関係団体との連絡協力
- 五 その他図書館発展のため必要なもの

(会員および会費)

第五条 この会は個人会員および機関会員で組織する。

- 一 個人会員 1、図書館もしくは同種の機関の職員
2、この会の趣旨に賛同する者
- 二 機関会員 1、図書館および同種の機関
2、この会の趣旨に賛同する機関

第六条 会員は別に定める規定により会費を納めるものとする。

(役員の種類)

第七条 この会に次の役員を置く

- 一 会 長 一 名
- 二 副会長 一名もしくは二名
- 三 理 事 若干名
- 四 監 事 二 名

(役員を選出)

第八条 理事および監事は総会で会員の中から選任し、会長副会長は理事の間で互選する。

(役員任期)

第九条 役員任期は二年とする。但し、再任を妨げない。補欠によって選任された役員任期は前任者の残余期間とする。

(役員任務)

第十条 役員は次の任務を行う。

- 一 会長はこの会を代表し会務を総理する。

二 副会長は会長を補佐し会長に事故があるときはその職務を代行する。

三 理事は理事会を構成して会務を執行する。

四 監事は会務を監査する。

(顧問)

第十一条 この会に顧問を置くことができる。

(事務局)

第十二条 この会に事務局を置く。事務局長および事務職員は会長が委嘱する。

(総会)

第十三条 総会は年一回会長が招集する。ただし必要などときには臨時に招集することができる。

第十四条 総会は次の事項を行う。

一 会務の報告

二 予算の議決および決算の承認

三 会則および会費規定の変更

四 その他重要議案の議決

第十五条 総会の議長は総会で選出する。

(部会その他)

第十六条 この会に部会、委員会等を置くことができる。

(会計)

第十七条 この会の経費は会費その他の収入をもってあてる。

第十八条 この会の会計年度は毎年四月一日から始まり翌年三月三十一日に終る。

附 則 この会則は昭和二十八年四月二十七日から施行する。

会 費 規 定

一 個人会員の会費は年百円とする。ただし社団法人日本図書館協会の会員である者の会費は同会からの割戻金をもってあてる。

二 機関会員の会費は前年度予算総額の一万分の五とする。ただし百円未満は百円とする。

三 既納の会費は払戻さないものとする。

規則 5 山口県図書館協会会則

(平成 4 年 4 月 1 日)

(名称・事務所)

第 1 条 この会は、山口県図書館協会（以下「協会」という。）と称し、事務所を山口県立山口図書館内に置く。

(目的)

第 2 条 協会は、本県図書館事業の振興発展を図り、県民の生涯学習や文化の向上に寄与することを目的とする。

(事業)

第 3 条 協会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

(1) 図書館事業の調査研究、促進及び奨励

(2) 図書館職員の研修及び機関紙等の発行

(3) 図書館振興に関する諸行事の開催

(4) 図書館事業功労者の表彰

(5) 図書館及び関係機関との連絡提携

(6) その他協会の目的達成に必要な事業

(会員)

第 4 条 協会は、個人会員、施設会員、及び賛助会員で組織する。

(1) 個人会員 図書館（公民館図書室等の類縁施設を含む。）に勤務する個人、又は協会の目的に賛同する個人

(2) 施設会員 図書館及び公民館図書室等の類縁施設

(3) 賛助会員 協会の事業に賛同する個人又は団体

(入会・脱会)

第 5 条 協会に入会又は脱会を希望する者は、別に定める入会届・脱会届を会長に提出するものとする。

(会費)

第 6 条 協会の会費は、年額を次のとおりとする。

(1) 個人会費 1,500 円

(2) 施設会費

町立図書館

人口 5 千人未満 2,700 円

5 千人以上 1 万人未満 4,500 円

1 万人以上 6,300 円

市立図書館

人口 5 万人未満	7,200 円
5 万人以上 10 万人未満	9,000 円
10 万人以上 15 万人未満	10,800 円
15 万人以上 20 万人未満	12,600 円
15 万人以上 25 万人未満	14,400 円
25 万人以上 30 万人未満	16,200 円
30 万人以上	18,000 円

県立図書館 70,000 円

公民館図書室等類縁施設 2,000 円

大学・短期大学・高等専門学校図書館
2,000 円

(3) 賛助会費 1 口 2,000 円

(役員の種類)

第 7 条 協会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1 名
- (2) 副会長 2 名
- (3) 理 事 15 名以内
- (4) 部会長 若干名
- (5) 委員長 若干名
- (6) 監 事 2 名

(役員の任期)

第 8 条 役員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員の選出)

第 9 条 役員の選出は、別に定めるところによる。

(役員の任務)

第 10 条 役員は、つぎの任務を行う。

- (1) 会長は、協会を代表し、会務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
県立図書館長が当たる副会長は、常務を処理する。
- (3) 理事は、理事会を構成し、会務を執行する。
- (4) 部会長は、部会を代表し、部会活動を統括する。

(5) 委員長は、委員会を代表し、委員会活動を統括する。

(6) 監事は、会務を監査する。

(顧問)

第 11 条 協会に、顧問を置くことができる。

(事務局)

第 12 条 協会に、事務局を置く。

2 事務局に、事務局長その他必要な職員を置き、会長が委嘱する。

3 事務局は、会長の命を受けて庶務及び会計を掌る。

(会議)

第 13 条 協会の会議は、総会、理事会及び役員会とし、会長が招集する。

2 議事は、出席者の過半数の同意をもって決する。

賛否同数のときは、議長の決するところによる。

3 総会は、年 1 回開催し、次の事項を議決する。
必要に応じ、臨時総会を開くことができる。

- (1) 会則の改正
- (2) 会長の承認
- (3) 事業報告及び決算の承認
- (4) 事業計画及び予算の議決
- (5) その他の重要な事項

4 理事会は、次の事項を審議する。

- (1) 総会に付議する議案
- (2) 総会から委任された事項
- (3) その他の必要な事項

5 役員会は、必要な事項を審議する。

(部会)

第 14 条 協会に次の部会を置くことができる。

- (1) 公共図書館部会
- (2) 大学・短期大学・高等専門学校図書館部会
- (3) 児童読書研究部会
- (4) その他の必要な部会

2 部会は、個人会員をもって組織し、その所属は、会員の自由意思による。

3 部会は、それぞれの分野において、必要な調

査研究及び必要な事業を行う。

4 部会に委員を置くことができる。

5 部会長は、活動状況を毎年1回、総会等に報告することができる。

(委員会)

第15条 協会に、事業別又は専門別の委員会を置くことができる。

2 委員会の委員は、理事会において選出し、会長が委嘱する。

3 委員会は、必要な調査研究を行う。

4 委員長は、活動状況を毎年1回、総会等に報告しなければならない。

(会計)

第16条 協会の経費は、会費のほか、その他の収入をもって充てる。

2 協会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(特別会計)

第17条 協会は、その必要がある場合は、特別会計を設置することができる。

2 特別会計の設置及び廃止の際には、総会において承認を得なければならない。

(その他)

第18条 この会則に定めるもののほか、必要な事項は、理事会に諮って会長が定める。

附 則

1 この会則は、平成4年4月1日から施行する。

2 この会則の施行のさい、現に就任している役員は、この会則により選出されたものとみなす。

3 会則第6条に規定する施設会員の会費の額は、山口県市長会、山口県町村会の承認があるまでは、この規定に係わらず、改正前の額によるものとする。

附 則

この会則は平成7年4月1日から施行する。

附 則

1 この会則は平成11年6月24日から施行す

る。

2 改正会則第6条に規定する施設会費の額は、山口県市長会、町村会の決定があるまでは、この規定に係わらず、改正前の額によるものとする。

附 則

1 この会則は平成17年6月28日から施行する。

2 会則第6条に規定する施設会費の額は、山口県市長会、町村会の決定があるまでは、この規定に係わらず、改正前の額によるものとする。

附 則

この会則は平成20年6月27日から施行する。

資料1 明治42(1909)年
山口県図書館協会関係資料

山口県内図書館関係者大会記事

本年十月一日ヨリ三日間本館内ニ開キタル縣内圖書館關係者大會ハ出席者三十八名、代表セラレタル圖書館ノ數三十二ニ達シ豫期以上ノ効果ヲ収メテ山口縣圖書館協會ヲ組織スルニ至レリ一地方ノ圖書館關係者カ此種ノ會合ヲ開キ此種ノ團躰ヲ組織シタルハ單ニ本邦ニ於テ先例ナキノミニアラス今後之カ爲メニ本縣圖書館事業ノ整善ト發展トニ至大ノ影響ヲ及ホスヘシト信スルカ故ニ爰ニ同會ノ承諾ヲ得テ其ノ顛末ヲ本報告ニ収メ一ハ以テ大會舉行ニ際シ特ニ展覽材料ヲ寄與セラレタル内外多數ノ圖書館ニ對シテ謝意ヲ表シ一ハ以テ將來本縣圖書館事業發展ノ跡ヲ徵スルノ資ニ供ス

* * * *

第一日(十月一日)午前九時縣立山口圖書館ニ於テ開會

出席者 三十八名 出席者氏名ハ別項ニ掲ク
主催者ニ於テ開會ノ挨拶ヲ爲シタル後左ノ演說アリ

通俗圖書館ノ實用的方面

私立兒玉文庫監督 杉山富樫君

了リテ新築書庫及展覽品ヲ縦覽ス 展覽品目錄ハ別項ニ掲ク

午後一時開會左ノ演說アリ

入館者ノ立場ヨリ圖書館ニ對スル希望

阿武郡立萩圖書館長 村上俊江君

村立華南圖書館ノ經營ニ就キテ

同館長 香川政一君

私立西岐波文庫ノ經營ニ就キテ

同文庫主管 三井誠之進君

私立由宇村青年興風會附属圖書館ノ經營ニ就キテ

同會長 田中浦吉君

午後三時三十分ヨリ毛利公爵別邸參觀、公爵閣下ヨリ一同ニ慰勞ノ挨拶アリ午後五時ヨリ日本赤十字社山口支部ニ於テ紀念撮影ノ後、懇親會ヲ開ク

來賓渡邊山口縣知事及日比山口縣事務官二氏ノ外出席者三十二名、席上渡邊山口縣知事閣下ノ演說アリ

第二日(十月二日)午前九時開會

左ノ演說アリ

米國圖書館事情

縣立山口圖書館長 佐野友三郎君

了リテ協議ニ移ル私立兒玉文庫監督杉山富樫君ヲ坐長ニ推シ縣立山口圖書館長佐野友三郎君協議題ヲ説明ス

協議事項

一 巡回書庫ノ運用ニ關スル件

山口圖書館巡回書庫ハ新設圖書館ノ請求ニ應シ成ルヘク速ニ之ヲ廻付シ來リタレトモ廻付箇所カ現ニ五十餘箇所ニ達シタル今日以後ニ於テハ新設圖書館ノ請求ニ依リ直ニ廻付シ難キ事情アルニ依リ成績不良ナル圖書館ヘハ自今巡回書庫ノ廻付ヲ停止シ之ヲ新設圖書館ニ供給スルノ方針ヲ採ラントス故ニ各圖書館ニ於テ此際一層巡回書庫ノ運用ニ注意センコトヲ希望シ二三ノ意見交換アリテ結局、各圖書館ニ於テ積極的ニ読書趣味養成ノ手段ヲ講スルコトニ決定セリ

二 青年讀物ノ調査ニ關スル件

各圖書館ニ於テ調査シタル結果ヲ本年中ニ山口圖書館ニ報告セシメ五名ノ委員ニ附シテ審査セシムルコトニ決定、座長ヨリ私立西岐波文庫主管三井誠之進、村立華南圖書館長香川政一、私立兒玉文庫監督杉山富樫、郡立萩圖書館長村上俊江、縣立山口圖書館長佐野友三郎ノ五君ヲ右審査員ニ指名セリ

三 通俗圖書館ニ備付クヘキ標準書目ノ件

前項ト同一ノ委員ノ手ニテ調査選定スルコトニ決定セリ

毎年此種ノ會合ヲ開キテ研究討議ヲ重ヌル爲メ縣内圖書館關係者ノ團躰ヲ組織スル件ヲ座長ヨリ會衆ニ諮リタルニ滿場一致ヲ以テ其ノ組織ヲ今回ノ大會發起者ニ委任シ零時五十分閉會セリ

午後一時三十分ヨリ山口高等商業學校商品室、同實修室、同圖書館、龜山砲臺及上司淵藏氏所藏徳川三百年間ニ於ケル諸名士筆蹟張交セノ屏風ヲ參

觀シ薄暮散會セリ

第三日（十月三日）午前八時開會

圖書整理ニ關スル實習 出席者 二十名

圖書整理ニ關スル實務其ノ他事務上注意スヘキ要件ニツキ山口圖書館員ヨリ説明ヲ與ヘ午前十一時ヨリ随意退散セリ

* * * *

十月三日午後大會發起者ハ大會ノ委任ニ依リ山口縣圖書館協會規則ヲ制定シ大會出席者ハ直ニ會員名簿ニ登録シ又出席ナキ關係者ヘハ夫々通知ノ上入會ヲ觀誘シタルニ村立名田島圖書館長秋本潤輔、阿知須圖書閱覽所主管上田鹿之助、村立藤山圖書館長寺田小太郎ノ三氏ヨリ入會申込アリタリ

○縣内圖書館關係者大會出席者氏名 郡市順

大島郡 圖書館ノ數 ナシ 出席者 ナシ

玖珂郡 圖書館ノ數 七 出席者 七名

私立新庄同窓會附属圖書館 館長 小田 浩

私立高森圖書館 館長 宇野英助

私立明照寺圖書室 管理者 小野山龍心

私立神代村青年會附設圖書館 館長 中野太三郎

私立由宇村青年興風會附属圖書館館長田中浦吉

村立余田文庫 文庫長 鳥越 亮

私立玖珂同窓會附属圖書館 幹事 清水精之

熊毛郡 圖書館ノ數 十 出席者 五名

勝間村 助役 片山襄太郎

村立勝間圖書館 館長 三坂馬太

村立上關圖書館 館長 谷井磯太郎

村立三丘圖書館 館長 元森宇一

村立室津圖書館 館長 中村龜吉

都濃郡 圖書館ノ數 三 出席者 三名

私立兒玉文庫 監督 杉山富槌

村立福川圖書館 館長 下村信吉

私立竹島文庫 文庫主 藤井孝太郎

佐波郡 圖書館ノ數 四 出席者 三名

村立華南圖書館 館長 香川政一

小野村立圖書館 館長 光本邦一

右田村立圖書館 館員 山近熊太郎

吉敷郡 圖書館ノ數 七 出席者 四名

私立西岐波文庫 主幹 三井誠之進

私立大内校友會圖書閱覽所 會長 波多野信藏

私立本郷小學校校友會圖書館 會長 田中順吉

村立陶通俗圖書館 館長 前原助四郎

厚狹郡 圖書館ノ數 三 出席者 三名

私立宇部圖書館 館長 松原竹三

私立厚南文庫 文庫員 繩田熊太郎

高千帆尋常高等小學校 校長 瀧原禮輔

豊浦郡 圖書館ノ數 三 出席者 三名

私立重本文庫 主管 河本龜壽

私立青年圖書館 主管 松岡喜三郎

私立豊浦教育會附設豊浦圖書館 書記 濱野段助

美禰郡 圖書館ノ數 四 出席者 三名

赤郷村立日露戰役紀念桂陽文庫文庫長後藤與市

大嶺村立日露戰役紀年圖書館 館長 志賀敏介

眞長田村立東宮殿下行啓紀念淳美圖書館

館長 河村明一

大津郡 圖書館ノ數 ナシ 出席者 一名

深川尋常高等小學校 校長 松岡唯介

阿武郡 圖書館ノ數 四 出席者 二名

郡立萩圖書館 館長 村上俊江

村立明木圖書館 館長 櫻井民次郎

下関市 圖書館ノ數 ナシ 出席者 ナシ

縣立山口圖書館 出席者 四名

館長 佐野友三郎

司書 岩根又重

書記 野波菊太郎

書記 百村轍彌

合計 現在圖書館ノ數 四六

代表セラレタル圖書館ノ數 三二

出席者 三十八名

○縣内圖書館關係者大會展覽品目録

（注 横書き用に編集）

縣 内 之 部

品 目ノ數量（點數）／（枚數）／館名

カード、函架目錄用紙、製本見本、其他ノ

19／8／縣立山口圖書館

一覽、報告、寫眞、繪葉書、其他ノ

26／11／私立兒玉文庫

規則書、教室文庫規程、其他（見本三箱）

23/10/私立西岐波文庫
繪葉書、其他/10/4/私立明照寺圖書室
寫眞、繪葉書/2/1/ 私立竹島文庫

他 府 縣 之 部

品 目/數量(點數)/ (枚數)/館 名
原簿用紙、カード、帶出特許票預證、其他/

21/6/帝國圖書館
カード、繪葉書、閱覽券、一覽、其他/
37/6/市立日比谷圖書館
原簿用紙、カード、閱覽券、其他/
16/4/大橋圖書館
カード、繪葉書、寫眞、其他/

12/3/南葵文庫
繪葉書、寫眞、カード其他
18/5/函館圖書館
繪葉書、一覽、カード其他

14/5/京都府立圖書館
圖書帶出特許票預證、函架目錄用紙、カード其他
18/5/大阪府立圖書館
カード、目錄用紙、閱覽券、其他/
8/1/ 桃木書院圖書館
規則書/1/進修文庫
閱覽統計表、報告、繪葉書、其他/

22/4/積善組合巡回文庫
規程、其他/4/佐渡巡回文庫
圖書携出特許票、カード、其他 /

9/1/茨城縣立圖書館
カード、圖書閱覽證、其他
5/1/奈良縣立戰捷紀念圖書館
函架目錄用紙、閱覽統計用紙、其他/

8/南都佛教圖書館
維持會規則、其他/4/2/名古屋通俗圖書館
圖書目錄、カード、圖書臺帳、其他/

10/3/岩瀬文庫
圖書及雜誌傳票、其他/
10/3/江北圖書館
圖書閱覽券、其他/10/1/信濃圖書館
カード、巡回文庫諸用紙、其他/
14/1/宮城縣立圖書館

圖書番号箋/2/1/市立福島圖書館
カード、繪葉書、閱覽券、其他/

11/2/若松市立會津圖書館
原簿用紙、目錄用紙、其他/

4/1/私立盛岡圖書館
同 上/6/青森市立圖書館
規則書、繪葉書/2/1/市立弘前圖書館
台帳用紙、函架目錄用紙、寫眞、カード、其他/

13/2/縣立秋田圖書館
目錄用紙、番號箋、其他/

16/3/私立松江圖書館
繪葉書、カード、其他/
6/1/岡山縣戰捷紀念圖書館
繪葉書、番號箋、其他/

10/1/和歌山縣立圖書館
閱覽人心得、寄贈圖書簿用紙、其他/
3/私立五明文庫
カード、閱覽券、其他/

5/1/香川縣教育會圖書館
原簿用紙、カード、其他/

5/1/福澤紀念圖書館
繪葉書、閱覽券/4/1/宮崎縣立圖書館
寫眞、カード、追加目錄、其他/

11/4/東京帝國大學附屬圖書館
カード、圖書分類表、其他/

34/4/京都帝國大學附屬圖書館
寫眞、カード、其他/

10/2/廣島高等師範學校圖書館
カード、雜誌假綴表紙、其他/

25/7/慶應義塾圖書館
繪葉書、閱覽票、カード、其他/

24/5/早稻田大學圖書館
雜誌、繪葉書、規則書/5/1/日本圖書館協會

米 國 之 部

品 目/數量(點數)/ (枚數)/館 名
寫眞版、カード、其他◎/

16/5/アトランタ-ネ-圖書館
寫眞版/5/5/ホ-ストン公共圖書館
同 /10/10/フ-ルックソン公共圖書館

同 / 1 / 1 / パッファロー公共図書館
 写真版 / 2 / 2 / シカゴ公共図書館
 写真版、書籍カード、ポケット、諸様式◎ /
 116 / 27 / シンシナティ公共図書館
 写真版 / 4 / 4 / クリーヴランド公共図書館
 同 / 3 / 3 / コロンビア区公共図書館
 写真版 / 2 / 2 / コネル大学図書館
 カード、諸様式◎ / 18 / 5 / オークリー公共図書館
 写真版、繪葉書 / 2 / 2 / カンサスシティ公共図書館
 カード、ポケット、諸様式◎ /
 32 / 5 / ケンシ公共図書館
 写真版 / 1 / 1 / ラ、クロス公共図書館
 同 / 9 / 9 / 米國議院図書館
 同 / 1 / 1 / ロス、アンジェルス公共図書館
 カード、ポケット、諸様式◎ /
 25 / 4 / マントウック公共図書館
 写真版 / 1 / 1 / マサチューセッツ州立図書館
 写真版、カード、ポケット、諸様式◎ /
 51 / 10 / ミルウォーキー公共図書館
 繪葉書 / 1 / 1 / ニューヘヴン公共図書館
 写真版 / 4 / 4 / ニューヨーク州立図書館
 同 / 1 / 1 / ニューヨーク公共図書館
 繪葉書 / 1 / 1 / コロンビア大学図書館
 写真版 / 1 / 1 / オステルハート無料図書館
 同 / 8 / 8 / フライテール無料公共図書館
 同 / 7 / 7 / ビッツバーグ・カーネギー図書館
 カード、ポケット、諸様式◎ /
 40 / 9 / クインス・ラフ公共図書館
 写真版、枝折 / 5 / 2 / シラキウス公共図書館
 写真版 / 1 / 1 / トベカ公共図書館
 写真版、カード、ポケット、諸様式◎ /
 34 / 18 / リンクトン郡立無料図書館
 写真版 2 / 2 / ウィスコンシン州図書館監督
 写真版、カード、ポケット、諸様式◎ /
 46 / 17 / ウェスター無料公共図書館
 写真、カード、ポケット、諸様式◎ /
 41 / 7 / ウェスト州図書館監督
 備考 1 米國之部、品目ノ下◎符ヲ付シタルハ
 大會ニ際シテ寄贈ヲ受ケタルモノナリ
 1 此目録中ノ材料ハ永ク保存シテ縣内

図書館関係者ノ参考ニ資ス

1 大會ノ際陳列シタル本館所蔵ノ内外圖書館一覽、年報、目録、其他圖書館ニ關スル参考書ハ此目録中ニ編入セス

出典：『山口縣立山口圖書館報告 第拾參』
 (明治42年12月)

資料2 大正6(1917)年 日本圖書館協會山口縣支部關係資料

[日本圖書館協會]山口支部發會式次第

十一月六日午前十時縣立山口圖書館に於て日本圖書館協會山口支部發會式を舉ぐ。來賓は林山口縣知事、横地山口高等商業學校長、桑原視學官、柏村吉敷郡長、縣立學校長、縣會議員等數十名の外、協會本部より徳川總裁、和田會長、評議員坪谷、伊東、杉野、橋井四氏、幹事石川潔氏等臨席あり。舉式次第左の如し。

式辞	山口支部長	佐野友三郎君
告辞(口演)	日本圖書館協會總裁	
	侯爵	徳川頼倫閣下
祝辞(代読)	文部大臣	岡田良平閣下
祝辞	山口縣知事	林 市藏閣下
同	山口高等商業學校長	横地石太郎閣下
祝辞	吉敷郡長	柏村唯雄君
同(代読)	衆議院議員	美禰龍彦君
演説	大橋圖會館主事	坪谷善四郎君
同	日本圖書館協會評議員	伊東祐毅君
祝辞	山口支部員總代	齊藤軍八郎君
演説	日本圖書館協會會長	和田萬吉君

支部長挨拶了りて日本赤十字社山口支部樓上に於て午餐會を開き林知事一同に代りて徳川總裁一行に對し歓迎の辞を述べ徳川總裁之に酬ひ、横地校長、徳川總裁一行の健康を祝する爲め乾杯を唱へ一同之に和し徳川總裁、會衆一同の爲めに乾杯して健康を祝せられ午後一時三十分散會せり。

* * * *

祝辞及山口支部規則、協會規則、山口支部役員、會員氏名等左の如し、
 式辞(口演) 山口支部長 佐野友三郎

閣下並諸君 本日日本圖書館協會山口支部の發會式を舉行するに方りまして知事閣下を始め諸名士の御光臨を辱くし、殊に協會本部よりは總裁閣下、會長貴下其の他評議員幹事諸兄の御臨場を仰ぐことの出來ましたのは當山口支部に取りまして無上の面目であります。

山口地方の文教の跡を尋ねまして土佐の梅軒、薩摩の桂庵が共に山口から出で又は山口に身を寄せて居りましたことを想起しますならば略々當時の有様を彷彿することが出來やうと思ひます。フランセスコ・ザベリヨが大道寺に據りて傳道致し一たび京都に赴きまして再び山口に戻り來りましたのも必竟當時傳道の種子を受入れるだけの素養が此土地に存して居った爲めと申すことが出來ませう。

毛利氏時代になりましてから小倉尚齋先生を初代、山縣周南先生を二代の學頭に戴いて經營せられました萩の明倫館、今日の山口高等商業學校の前身であります所の上田鳳陽先生の講習堂などのことは皆様の御存じであること、信じますから今更めて申し上げませぬ。

偕當縣の圖書館は明治三十四年に阿武郡立萩圖書館が創立せられましたのを始めと致しまして三十六年春兒玉大將の兒玉文庫が徳山町に設けられ同じ三十六年七月に縣立山口圖書館が開設せられて、三十七年には尾中海軍大尉の記念として中關村立華南圖書館が創立せられました。次で三十八年に二館、三十九年に四館、四十年に十三館、四十一年に三館、四十二年に十八館、四十三年に十一館、四十四年に八館、四十五年から大正元年に掛けて十七館、大正二年に十八館、三年に六館、四年に十六館、五年に十六館、六年に八館創立せられて今日百四十四館あります。之は社會の氣運が爰に向って參りましたのでもありますし、縣立圖書館が當初から巡回書庫に依って町村圖書館の補給を計りました爲めにも依りませうが今上陛下が尚東宮にましました頃、明治四十一年四月本縣に行啓あらせられました際、即ち同月十日に特別の御思召を以ちまして御豫定以外に縣立山口圖書館と私立兒玉文庫とに鶴駕を枉げさせら

れましたのが本縣の圖書館發達普及上に一新記元を爲したこと、信じます。

四十二年十月一日から、三日間、當山口圖書館に縣内圖書館關係者三十八名が會合しましたのも必竟一つには東宮殿下の特別の御思召に感激して奮起致したのであります。其の際山口縣圖書館協會を組織致しましたのが抑も今日の當山口支部の前身であります。

山口縣圖書館協會は毎年一回總會を開きまして圖書館事項に就き或は講演を催し或は研究協議を遂げ或は講習會を開き或は簡易なる實習を行ひ又町村圖書館に備付くべき書籍の標準目録を調査致したこともあります。本年で年を閲すること方に九年、回を重ねること恰も八回になりました。殊に本年は町村圖書館の利用に關し又圖書館を青年團に接近せしむる方法に關しまして知事閣下から御諮問案を發せられましたので現に昨日は之を慎重に審議致した次第であります。

先是、四十二年に山口縣圖書館協會を組織致しました當時、日本圖書館協會長市島謙吉君は多大の同情を寄せられまして、會の基礎が固まりました暁には山口支部として加入するやうにと申す宿約もありまして爾來今日まで圖書館雜誌を毎號若干部宛無償で配布を受けて居りました。此間に圖書館事業は駁々として進歩致しまして、從來左まで振はずに居りました所の九州に九州支部が一昨年組織せられまして以來俄に九州の氣運が動き始めたのであります。

翻て本縣の状態を見ますと圖書館の數に於きましては依然全國第一位を占めて居りますけれども此際一層内容の充實を計りますると同時に、成るべく管理上の手数を簡易に致しまして全力を圖書の運用に傾注するの必要を痛切に感ずるのであります。私共は孤立して現状に安んずる代りに外よりの刺戟、上よりの刺戟を受けますると同時に他の地方部とも提携致しまして此事業の進歩發達を計りたいと考へるのであります。私共は徒に附和雷同して人に依て事を成さうとする者ではありませぬ。各自ら最善の力を盡くします上に、更に合同して獨力で成し遂げ難い所を成さうとする

のであります。私共が従來の組織を改めまして今日日本圖書館協會に合同致したのは之が爲めであります。之に就きまして協會本部が本縣の圖書館狀態に鑑みられ特別の便宜を與へられましたことは私共の深く感謝する所であります。

偕又本縣に於きましては青年團の教育を獎勵せられ圖書館を青年團に接近させ圖書館の能率増進を促されますのは私共圖書館當事者に取りまして誠に復たと得難き活動の機會を與へられたものでありまして是亦深く感謝すべきであります。

斯様の次第でありますから、私共は圖書館當事者としては知事閣下の御獎勵に與り、團體と致しましては總裁閣下の御指導に依りまして、相率ゐて進んで参りますならば、本縣の圖書館事業の進歩發達の上に第二の新紀元を劃することが出來やうと信ずるのであります。聊山口支部設置の由來を御紹介申上げまして式辭に代へます。

終りに臨みまして謹んで今日御臨場を辱くし此式場に光彩を御添へ下さいました所の閣下並諸君の御健康を祈ります。

出典：『山口縣立山口圖書館報告 第貳拾四』
(大正6年12月)

圖書館協會及山口支部

大正六年十一月五日、山口縣圖書館協會第八回總會ヲ本館内に開ク、出席者八十四名、日本圖書館協會山口支部設置ニ關シ協會本部トノ交渉頗末ニ就キ報告アリ全會一致ヲ以テ山口支部設置ヲ可決シ尋テ支部規則ヲ協定シ役員ヲ選舉シ支部ノ組織ヲ了レリ

次テ本縣諮問案

- 一 圖書館ヲ最モ有効ニ利用スル方法如何
- 二 圖書館ヲ青年團ニ親シマシムヘキ方法如何及本館提出ノ「圖書館經營ニ關スル注意要項」ヲ協議ニ附シ委員ヲ舉ケテ之ニ附託ス

十一月六日午前十時日本圖書館協會山口支部發會式ヲ舉ク總裁徳川侯爵、會長以下評議員幹事等事ヲ率キテ臨場シ本館及山口支部ニ各金五拾圓ヲ寄贈ス本縣知事、山口高等商業學校長其ノ他多數來賓ノ臨席アリ (大正六年十二月發行本館報告第

二十四「山口支部記事」參照)

因ミニ前項本縣諮問案ニ對スル山口支部答申左ノ如シ (本館提出の協議案「圖書館經營ニ關スル注意要項」ニ就キテハ前號「內務部長内牒」ヲ見ヨ)

一 圖書館ヲ最モ有効ニ利用スル方法

- 一 圖書ノ選擇及充實
- 二 館員ノ選任
- 三 讀書趣味ノ養成
- 四 館務ノ改善及統一
- 五 經費ノ増額

一 圖書ノ選擇及充實

イ、地方ノ狀況ニ依リ多少ノ差異ハ免レサルモ讀者ノ程度ニ從ヒ選擇スルコト

ロ、兒童及青年讀物ニシテ村落圖書館トシテ全然備付ヲ要スル所謂基本圖書選擇ニ注意スルコト

ハ、選擇ニ當リテハ豫メ標準ヲ定メ縣立圖書館目錄及圖書館書籍標準目錄等其ノ他ノ公認目錄ニ依リ選定スルコト

ニ、特ニ地方産業ノ發達其ノ他ニ對シテハ相當ノ參考書ヲ選擇シテ實地ニ利用セシムルコト

ホ、年々藏書ノ一割以上ノ備付ヲ怠ラス希望者多數ノモノニ至リテハ數部ノ備付ヲモ爲シ成ルヘク閱覽人ニ便宜ヲ與クルコト

ヘ、自己村落ノ郷土資料ハ全力ヲ盡クシテ蒐集シ閱覽人ノ參考ニ供スルコト

ト、巡讀組合、購讀組合等其ノ他適當ナル方法ニ依リ圖書ノ充實ヲ計ルコト

二 館員ノ選任

イ、町村圖書館員ハ小學校教員ヨリノ兼務多數ナレハ師範學校在學中ニ於テ圖書館事務ノ大略ヲ知ラシムル必要アルコト

ロ、館員ハ閱覽人ニ對シ親切丁寧ニシテ常ニ指導ノ任ニ在ルコトヲ忘レサルコト

ハ、町村圖書館員ハ成ルヘク土地ノ出身者ニシテ其ノ町村ノ事情ニ精通スル者ヲ適當トシ尚猥リニ轉任セシメサルコト

二、館員ニ對シテハ相當ノ手當ヲ支給スルコト

三 讀書趣味ノ養成

イ、兒童期ニ於ケル初級ノ者ニハ讀マシムルヨリモ聞カシムル習慣ヲ付シ漸次圖書ニ接近セシムル機會ヲ與ヘ上級生ニ對シテハ教科書ニ關聯セル參考讀物ヲ調査指示スルコト

ロ、補習學校及上級生ニ對シテハ成ルヘク圖書ヲ利用セシムル方法ヲ以テ教授シ自ラ研究セシムル習慣ヲ養成シ尚調査事項ニ對スル材料ヲ與ヘテ研究セシムルコト

ハ、一般讀物ニ對シテハ成ルヘク集合ノ機會ヲ利用シ圖書ノ解題新着圖書ノ揭示ヲ爲シ青年會館、床屋、寺院等ニ巡回文庫ヲ廻付シ成ルヘク圖書ニ接近セシムル機會ヲ與フルコト

四 館務ノ改善統一

イ、館員ノ轉任、新任等ニ依リ館務ノ停滯ヲ來ササル爲メ縣下圖書館ノ分類法、帳簿用紙類其ノ他事務取扱方法ヲ統一スルコト

ロ、學校ト圖書館トノ連絡ヲ圖リ双方ノ目的ヲ達スルニ勉ムルコト

ハ、貸出方法ハ成ルヘク形式ニ依ラス簡易ナラシムルコト

ニ、適當ノ方法ニ依リ圖書ノ運用ヲ計ルコト

五 經費ノ増額

イ、以上各項ノ目的ヲ達スル爲メ圖書館規模ノ大小ニ依ルト雖モ村落圖書館ニ在リテハ五拾圓乃至七拾圓以上トシ且ツ出來得ヘクンハ縣郡ヨリ相當ノ補助ヲ仰クコト

ロ、經費ハ圖書館ノ擴張ニ從ヒ増額スヘキハ勿論ナレトモ苟且ニモ削減ノ爲メ館運ノ進歩ニ支障ヲ來タサシメサルコト

二 圖書館ヲ青年團ニ親シマシムヘキ方法如何

一 讀書趣味ノ養成

二 讀書必要感ノ惹起

三 讀書機會ノ提供

四 圖書ノ精選

五 館務ノ改善

六 經費ノ増額

一 讀書ノ趣味ノ養成

イ、小學校上級兒童ニ對スル教育法ヲ改善シ攻究ノ態度ヲ養成シ圖書館ヲ利用シテ獨立的研究ヲナスノ基礎ヲ立ツルコト

ロ、兒童ノ理解力ト趣味トニ適應スル讀物ヲ提供シテ漸次好讀心ヲ向上セシムルコト

ハ、兒童ニ對シ讀書法ノ指導ヲナスコト

ニ、青年團員ニ對シテモ實業補習學校若クハ其ノ他ノ機會ニ於テハ古今偉人ノ好學ノ傳記等ヲ讀マシムル等切實ニ讀書ノ趣味ヲ感得セシムルヤウ指導セシムルコト

二 讀書必要感ノ惹起

イ、青年修養旅行ノ準備研究ヲナサシムルコト

ロ、青年ノ修養上、處世上、實業上必要ト認メラルゝ事項ヲ課題トシテ研究セシムルコト

ハ、書籍、印刷物等ヲ指定シテ特別指導ノ下ニ或ル事項ヲ研究發表セシムルコト

ニ、實業補習學校等ニ於ケル教授ヲ成ルヘク問題的發動的タラシムルコト

ホ、諸種ノ方法ヲ以テ圖書ノ解題、内容ノ紹介ヲナシ讀書感ヲ挑發スルコト

三 讀書機會ノ提供

イ、補習學校ニ於テ圖書閱讀ノ時間ヲ與フルコト

ロ、部落青年集會所、寺院、商會其ノ他多數ノ集合ノ場所ニハ巡回文庫ヲ置クコト

ハ、圖書館ノ一部ヲ利用シ不時參集ノ場所トシ娛樂ノ設備等ヲナシ漸次青年ヲシテ讀書ノ機會ヲ得シムルコト

ニ、青年ノ個性ニ適切ナル圖書ヲ選擇配布スルコト

ホ、青年ヲシテ毎日ノ日課ヲ定メテ讀書ノ習性ヲ養成スルコト

ヘ、青年團ノ勅語奉讀式當日ハ青年修養日トシテ圖書館ヲ利スルコトニカメシムルコト

四 圖書ノ精選

イ、少年青年ノ必讀書ヲ選定周知セシムルコト

ロ、必讀スヘキ圖書ハ成ルヘク數部ヲ設備スルコト

ハ、通俗圖書館トシテ基本圖書ヲ選定シ充實スルコト

ニ、數百頁ニ渉ルノ圖書ハ便宜分冊シテ讀者ニ便ナラシムルコト

ホ、圖書館ニ於テ選定購入セシモノハ直チニ適當ノ方法ヲ以テ周知セシムルコト

ヘ、縣内圖書館ハ相互藏書ヲ有無相通シ閲覧署ノ便利ヲ圖ルコト

五 館務ノ改善

イ、館員ハ青年ニ同情ヲ有シ其ノ信賴ヲ得ヘキコトニカムヘキコト

ロ、館員ハ讀書趣味ヲ有シ青年必讀書ヲ通覽シ適當ノ指導ヲナスコト

ハ、師範學校ニ於テ圖書館管理運用ノ方法ノ大略並ニ青年指導法ニ就キ適當ニ素養ヲ與フルコト

ニ 町村圖書館ノ館員ニシテ小學校教員ヨリ兼ヌル者ハ成ルヘク土着者ヲ可ナリトス

ホ、事務ヲ簡易ニシ帶出ヲ容易ナラシムルコト

ヘ、縣下圖書館ノ館務ヲ協定統一シテ取扱者ノ便宜ヲ計ルコト

六 經費ノ増額

イ、圖書館ハ年々其ノ藏書ニ對シ五分乃至一割以上ノ増加ヲ謀ルヘク經費ヲ計上スルコト

ロ、青年讀物購入ヲ奨勵スル爲メ毎年縣及郡ヨリ購入費ノ半額以上ヲ補助スルコト

ハ、館員ニハ他ノ圖書館ノ視察又ハ協議會等ニ出席スヘキ便宜ヲ與フルコト

ニ、圖書巡讀組合、購讀組合等適當ノ方法ヲ講シ圖書ノ充實ヲ謀ルコト

出典：『山口縣立山口圖書館報告 第貳拾五』

（『山口縣立山口圖書館第拾五年報』）

（大正7年6月）

資料3 昭和17（1942）年

山口縣圖書館協會關係資料

山口縣圖書館長會議並に支部總會概況

四月十四日午前十時半より防府商業學校に於て本縣圖書館界に於て前例なき圖書館長會議が開催せられ併せて日本圖書館協會山口支部第二十三回總會が開かれた。

主催者側として渡邊學務部長、平井社會教育課長其他關係職員並に田中中央圖書館長等列席、會員百五十名出席、石田主任屬の開會の辭について、宮城遙拝、黙禱をなして渡邊學務部長より左掲の訓辭あり、次いで平井社會教育課長座長席につき別項記載の提出事項につき平井課長、安井社會教育主事補より詳細に説明せられ田中館長よりもこれが實踐に關する指導的説明があり、船木小郡、原田黒山、古谷下關等の各館長より眞摯熱烈なる意見の開陳などがあつて、圖書館が大東亞共榮圈建設の文化部面に於ける重要據點たるの認識を深むること多大で本縣圖書館振興に對し劃期的氣運を醸成せられた。

縣提出事項中第五の「山口圖書館協會創立に關する件」は時局下に緊急適切なる施設として満場一致可決し、全縣下に於ける各圖書館が提携協力して有機的に活動すべき有力なる團體を組織したこともまた本會議に於ける大なる收穫の一であつた（後略）。

訓 辭

大東亞戰爭一度勃發シマスヤ神速果敢ナル皇軍精銳ハ陸ニ海ニ空ニ古今未曾有ノ大戦果ヲ収メ西南太平洋ノ各要衝ヲ覆滅シ更ニ廣汎ナル地域ニ亘ツテ戦果ヲ擴大シツツアリマスコトハ感激ノ極ミデアリマシテ銃後國民ノ責務ノ重大ナルヲ痛感スル次第デアリマス

高度國防國家體制確立ノ重大據點トシテ文化部面ニ於ケル國策ノ普及傳達並ニ宏遠雄大ナル日本文化ノ宣揚ハ圖書館ノ運営如何ニ係ル所大ナルニ鑑ミ本縣茲ニ憶ヲ致シ其ノ對策ヲ講ズベク各位ノ御

參集ヲ煩ハシタノデアリマス。

抑々本縣圖書館ハ明治大正ノ交ニ於テ文部省ノ表彰ヲ受ケタルモノ三十六館ニ及ビ其ノ盛ナルコト眞ニ天下ニ冠絶シ教育縣トシテノ面目ヲ發揮シ來ツタノデアリマスガ爾來一進一退現在其ノ館數二百五十有餘ヲ算シ數ニ於テハ尚ホ全國第三位ニアルモ其ノ經費ハ一部優秀ナルモノヲ除キ其ノ實蹟ノ見ルベキモノ少キハ眞ニ遺憾ニ堪ヘナイ次第デアリマス

凡ソ圖書館ノ振否ハ職員其ノ人ニ係ツテ居ルコトハ勿論デアリマスガ特ニ館長タルモノハ克ク修養研鑽ヲ積ミ率先圖書館經營ノ陣頭ニ立チ強力ナル原動力トシテ地方文化ニ寄與スベキデアリマシテ自ラノ指導的地位ト其ノ使命ノ重大ナルニ念ヲ致シ廣ク國家新體制ノ指導者タル自覺ノ下ニ圖書館ヲシテ地方文化ノ修練場タラシメ以テ皇國ノ世界の使命ノ達成ニ邁進セラレンコトヲ切望スル次第デアリマス

昭和十七年四月十四日

山口縣知事 佐々木 芳遠

提出事項

一、戦時下圖書館經營ニ關スル件

圖書館經營ノ充實強化ニ關シ各位ハ夙夜精勵努力シ居ラルル所ナルモ大東亞戰爭ノ勃發ニ伴ヒ之ガ振興擴充ハ喫緊ノ急務トナリ國策ノ普及傳達並ニ共榮圈文化指導者タルノ資質ヲ啓培スベキ重大任務ヲ負荷セラレタルニ鑑ミ特ニ左記事項ニ留意シ其ノ實ヲ舉ゲラレンコトヲ望ム

- 1、市町村當局並ニ各種文化的團體トノ提携ヲ緊密ニシ時局ニ對應セル新方途ヲ講ジテ地方文化再建ノ據點タラシムルコト
- 2、讀書指導ニ力ヲ輸シ學校教育ト表裏一體ノ實ヲ舉ゲ自學實踐創造ノ能力養成ニ勉メ之ガ修練場タルノ機能ヲ發揮セシムルコト
- 3、圖書ノ活用ニ意ヲ用ヒ積極的ニ閲覧者ノ増加ニ努ムルコト
- 4、時局關係圖書ノ充實ニ努ムルコト

二、圖書購入助成費ノ利用ニ關スル件

三、本年度圖書館關係事業計畫ニ關スル件

1、圖書館職員講習會

2、圖書館振興協議會

四、中央圖書館トノ連絡ニ關スル件

五、山口縣圖書館協會創立ニ關スル件

出典：『山口縣中央圖書館報 第十七號』

(山口縣圖書館長會議記念號)

資料4 昭和28(1953)年

山口県図書館協会関係資料

山口県図書館協会発足！

かねて県下の図書館関係者の間で強く要望されていた山口県図書館協会は本年四月二十七日を期して再出発することになった。

戦争の兇暴な足跡は、われわれのあらゆる文化活動を麻痺させて行つたが、この県の図書館界もまた過去の歴史にその経験を持っている。

即ち山口県では早くも明治四十二年十月に、県内図書館関係者の大会が開催されて、第一次の山口県図書館協会が組織されている。恐らく地方図書館協会の嚆矢であろう。この協会はその後大正六年までに八回の総会を開いた。

大正六年十一月に至って協会の改組が行われ、新に日本図書館協会山口支部として発足した。これまた全国最初の県単位の支部であり、会員数も当時全国最高を数えた。以後年々開催された支部総会は昭和十五年までに二十二回を算し、本県図書館界の発展に多大の影響を与えた。

ついで戦争の時代も漸く深まって来たわけであるが、昭和十七年四月十四日を期して、県内公私立図書館実に二百五十六館を挙げて、再び山口県図書館協会を組織し、県内に九つの支部を置き自治活動の体制が整えられた。しかし、この戦時体制的な協会も戦局が漸く悪化を加えるにつれて有名無実と化し、ついに自然消滅の憂目に遭つてしまった。

かくて、平和回復後、図書館が新しい時代の脚光を浴び活気づき始めるにつれて、図書館協会設立の期待も識者の口に上り始めた。そして昨年(昭和二十八年)十一月八日には長府図書館に於ける県下独立図書館

長会議で、その創立準備委員会ができ上がった。その後数次の準備委員会、会則案起草委員会を経て、ついに創立総会を開催するに至ったものである。次に会則の中から目的と事業を抄記してこの会の趣旨を紹介してみたい。

第三条 この会は県内の図書館事業の発展を図り、文化の向上に寄与することを目的とする。

第四条 この会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 一、図書および図書館に関する研究調査
- 二、講習会、研修会、展示会、読書会、講演会等の開催および幹旋
- 三、図書および図書館用品の共同購入
- 四、図書館相互および関係団体との連絡協力
- 五、その他図書館発展のため必要なもの

入会の要領

この会は単に狭い意味の図書館だけでなく、広く学校、公民館等の図書館活動の発展をも期待している。会員の資格も、一、個人会員と二、機関会員とに分ち、前者は図書館もしくは同種の機関の職員、それにこの会の趣旨に賛同するものと広くきめられている。会費は一〇〇円。後者は図書館および同種の機関、それにこの会の趣旨に賛同する機関となっている。会費は前年度総予算

の一万分の五、ただし一〇〇円未満は一〇〇円とするということになっている。

入会ご希望の方は山口図書館内「山口県図書館協会事務局」宛にお申込みになりたい。

役員名簿（昭和廿八年度）

会 長	鈴木 賢祐（山口図書館長）
副会長	岩城 次郎（宇部図書館長）
同	佐久間三雄（山口大学附属図書館事務長）
理 事	伊藤 新一（明木図書館長）
同	上村 忠治（防府図書館長）
同	大隅 正明（下関兼長府図書館長）
同	木岡 義靖（小野田図書館長）
同	師井 恒男（吉田小学校長）
同	本沢 清一（防府高校図書館主任）
同	松原 俊夫（岩国図書館長）
同	国沢左奈為（山口図書館佐波分館長）
監 事	大村 武一（萩図書館長）
同	木村 藏六（宇部医大図書館）
事務局長	石川 卓美（山口図書館嘱託）

出典：『山口図書館だより』第2年第1号

（昭和28年4月25日発行）

図書館用品の幹旋をします

事 務 用 品

図書原簿	350 円	ラベル	1000 枚	90 円
目録カード 1000 枚	1,100 円	プラスダイン		
見出カード 100 枚	350 円	（ラベル用糊）		50 円
ブックカード1000 枚	1,400 円	ラッカー		60 円
ブックポケット 1000 枚	900 円	カード容器	…	他多数

参 考 書

日本進分類表(N.D.C)	850 円	中学校件名標目表	350 円
N.D.C 要目表	20 円	小学校件名標目表	450 円
日本目録規則	150 円	他 多 数	

製 本 用 品

製本用器具一切 布クロス・寒冷紗等材料一切

山口市鳥越 縣立山口図書館内

山 口 県 図 書 館 協 会

振替 下関 2075 番 Tel. 山口 154

出典：『山口図書館だより』第2年第2号（昭和28年7月25日発行）

山口県図書館大会

附：山口県図書館協会臨時総会

読書週間の掉尾の全県的行事として、十一月九日、県、県教育委員会並びに山口県図書館協会三者共催の下に、終戦後最初の山口県図書館大会が当館三階ホールで開かれた。この日午前十時、公共図書館、大学及び学校図書館、公民館図書部の関係者など、県下全域から百八十余名参加して開会、まず主催者側として、県教育長職務代理（金津次長）及び県知事（代理岡県民室長）の挨拶、山口大学々長、県議会議長（代理河村四朗県議）の祝辞、文部大臣、日本図書館協会、前知事田中代議士の祝電の後、議事に入った。議長団に松原俊夫（岩国市立図書館長）小川五郎（小野田高等学校長）の両氏を選出し、議題の（一）「図書館法の改正について」は岩城次郎氏（宇部市立図書館長）から、日本図書館協会の図書館法委員会における改正意見の内容についての説明があり（二）「学校図書館法について」は教育庁指導課伊藤主事の解説があつて、それぞれ質疑応答の後、（三）「昭和二十九年年度司書及司書補講習会の開催」について、木岡義靖氏（小野田市立図書館長）の提案理由の説明があり、討議の結果、別掲のような決議（略）が行われた。（四）「学校図書館法の趣旨実現について」は大谷正国氏（柚野小学校長）その他から意見が出て討議の末、関係当局に対する要望決議がなされ、その実行は委員に附託され、正午鈴木協会長の閉会の挨拶をもって大会の幕を閉じた。かくて（三）の決議は即日議長両氏、協会側鈴木会長、岩城副会長によって、又、（四）の案件については、十二日、実行委員[小川五郎、本沢清一（防府高）、徳久三郎（山口高）、篠原真一郎（鴻南中）、藤井育男（小郡中）、斉藤頼郷（大殷小）、斉藤潔（宮野小）]の会合を行い、別掲の決議（略）を、それぞれ県、県議会、県教育委員会及び山口大学当局に提出した。（附、この決議による請願は、教育委員会においては十一月三十日、又、県議会においては、十二月十九日、それぞれ採択の旨通知があつた。）

山口県図書館協会臨時総会

図書館大会に引きつづき、同日午後一時から山口県図書館協会の臨時総会を開いた。真鍋亨造氏（町立厚狭図書館長）が選ばれて議長席につき、まづ石川事務局長から今春創立以来の会勢並びに業務の経過を報告した。現在の会員数は、個人会員一二三、機関会員五一（内公共二〇、大学二、高校一一、中学五、小学九、公民館四）合計一七四である。理事会は三回開かれ、本年度事業計画及び暫定予算が組まれ、これによって会務が運営されてきたが、この総会において左の予算が承認された。今後の事業計画は、（一）、講習及び研究会は、実施済のもの三回（図書製本）の外、今後更に三回を計画する。これは本会直接又は他との共催による。講師の斡旋又は派遣も行う。（二）、図書館用品の斡旋は、日本図書館協会その他専門メーカーと特約して、本会事務局に常時とり揃えて館界の求めに応ずる。市価の割引価格で導入し、益金は本会の事業収入として経費を補足する。（三）公共図書館研究協議会からの申入れにより連絡協力して事業を行う。かくして、三時半議事を終え、岩城副会長の挨拶で閉会した。

昭和二八年度山口県図書館協会予算

収入之部	49,500
一 会 費	37,500
個人会費	12,000
機関会費	25,500
公共図書館	20,000
大学図書館	2,000
学校図書館	2,500
公 民 館	1,000
二 事業収入	12,000
支出之部	49,500
一 会議費	15,000
二 事務費	14,500
印刷費消耗品	6,500
事信事務	8,000
三 事業費	20,000
大会	5,000

講習会 9,000

研究調査 6,000

出典：『山口図書館だより』第2年第3号
(昭和28年12月25日発行)

最初の山口県図書館協会報

「はじめのことば」 鈴木賢祐

痩せても枯れても独立の機関誌が出る運びになったことは、ご同慶の至りです。

従来、「山口図書館だより」や「図書館雑誌」の片隅に居候をしていた協会関係ニュースは、まるでご覧になれなかった会員の方も居られることと思ひます。今後は、本誌が、一人々々の会員と協会との心のかけ橋として、漸次強化されて行くこ

とを祈らずにをれません。

あらゆる意味で、会員のまた職域の共通の広場として、本誌がますます発展して行くことは、全会員に共通の希望ではないでしょうか

編輯陣は、アドバイザーとしての渡辺委員長のほかは、みんな若い世代の人たちで、本務の余暇に仕事をして貰うわけです。

初めは稚拙であるかも知れませんが、メンバーの清新な感覚と創意工夫と不撓の努力とに、長い眼で期待したいと思ひます。

出典：『山口県図書館協会報』No.1

(昭和30年3月10日発行)

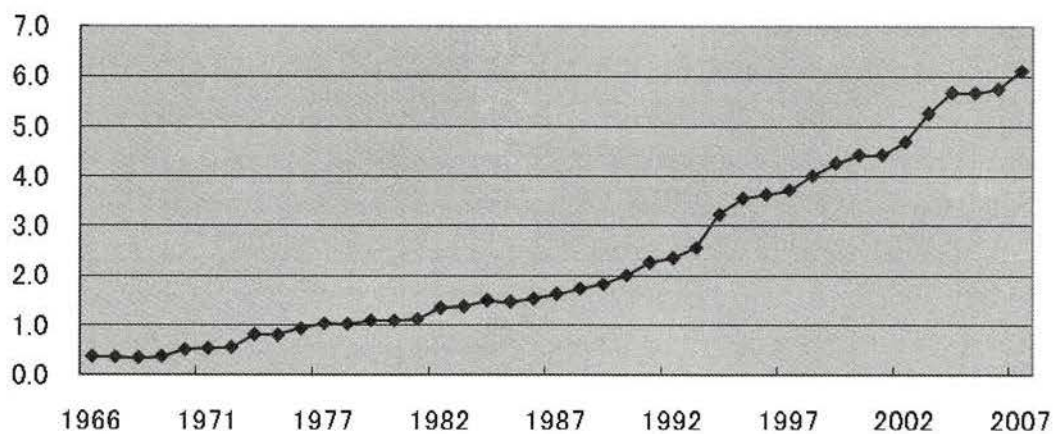
山口県図書館協会刊行物一覧(平成21年3月31日現在)

No.	タイトル	編著者	発行年
1	YLA通信 1～19		昭和30～35年
2	山口県図書館協会報 としょかん 復刊 No.1～77		昭和51～平成21年
3	児童読書研究部会報 No.1～46	児童読書研究部会	昭和52～平成20年
4	山口県公立図書館年報 昭和40年度～平成19年度		昭和41～平成20年
5	山口県内公共図書館増加郷土資料目録 第1～13集		昭和58～平成8年
6	山口県図書館相互協力便覧 大学・短大・高専篇 1992年版	大学・短大・高専部会	平成4年
7	山口県図書館相互協力便覧 大学・短大・高専篇 1994年版	大学・短大・高専部会	平成6年
8	児童読書調査報告 昭和53年度	児童読書研究部会	昭和54年
9	児童読書調査報告 昭和54年度	児童読書研究部会	昭和55年
10	児童読書調査報告 昭和55年度	児童読書研究部会	昭和56年
11	わたくしたちの本棚	児童読書研究部会	昭和55年
12	子どもにすすめたい本	児童読書研究部会	昭和60年
13	子どもにすすめたい本2 中級の本	児童読書研究部会	昭和62年
14	子どもにすすめたい本3 子どもにすすめたいえほん300	児童読書研究部会	平成2年
15	ぶちおもしろい本みつけた!	児童読書研究部会	平成10年
16	赤ちゃん絵本リスト	児童読書研究部会	平成12年
17	図書館実務の手引き		昭和36年
18	図書整理の手びき		昭和37年
19	図書整理技術の手びき		昭和41年
20	図書整理技術の手びき		昭和47年
21	図書整理技術の手びき		昭和53年
22	図書整理技術の手びき 新訂2版		昭和58年
23	読書活動の手びき		昭和36年
24	読書活動事例集		昭和37年
25	読書活動事例集 第2集		昭和38年
26	「読書活動」事例集		昭和40年
27	読書活動の手びき		昭和44年
28	山口県図書館要覧		昭和35年
29	図書館は文書館問題をどう考えるべきか		昭和41年
30	中国地区公共図書館研究集会記録 昭和45年度		昭和45年
31	図書館網形成について		昭和46年
32	全国公共図書館研究集会 奉仕部門 昭和48年度	日本図書館協会公共図書館部会編	昭和48年
33	初代館長佐野友三郎氏の業績	田村盛一著 復刻版	昭和58年
34	山口県の図書館		昭和58年
35	米国図書館事情 山口県図書館協会八十周年記念	佐野友三郎著 復刻版	平成元年
36	図書館はいま 白書 山口県の図書館	政策委員会	平成6年
37	山口県立図書館への期待・要望アンケート報告書	政策委員会	平成7年
38	図書館職員アンケート調査報告書	大学・短大・高専部会	平成8年
39	提言 山口県の公立図書館振興方策	政策委員会	平成8年
40	シンポジウム 未来をひらく図書館をもとめて	(犬塚まゆみ講演記録)	平成10年
41	いいまちづくり 役立つ図書館 山口県図書館振興県民のつどい	実行委員会	平成12年
42	山口県内市町村図書館例規集 平成12年		平成12年
43	基準・マニュアル等事例研究資料	政策委員会	平成13年
44	山口県郷土件名標目表	整理部会	平成14年
45	山口県の未来をひらく やまぐち2010年の図書館像	政策委員会	平成15年
46	図書館と市町村合併	市町村合併対応検討委員会	平成16年

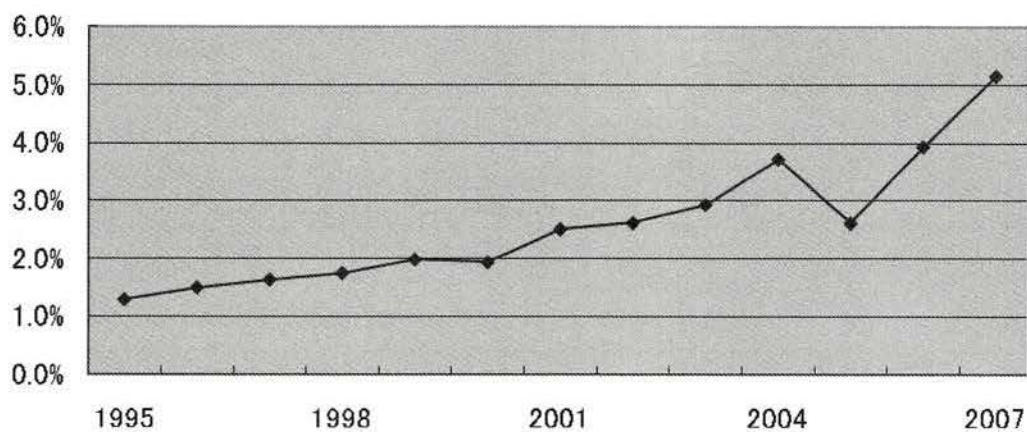
グラフでみる山口県内公共図書館の推移

出典：『日本の図書館』1967～2008 都道府県別集計（公共図書館）

1 人口一人当たり個人貸出冊数（冊）

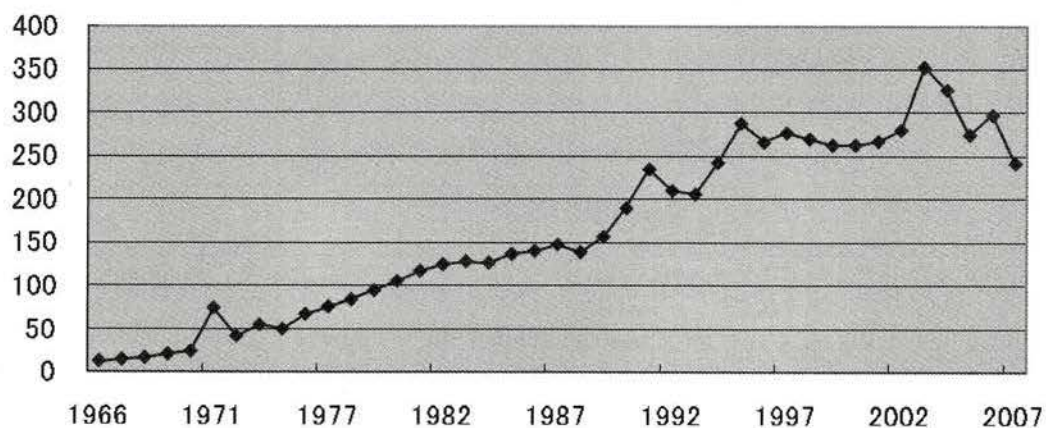


2 予約率（％）

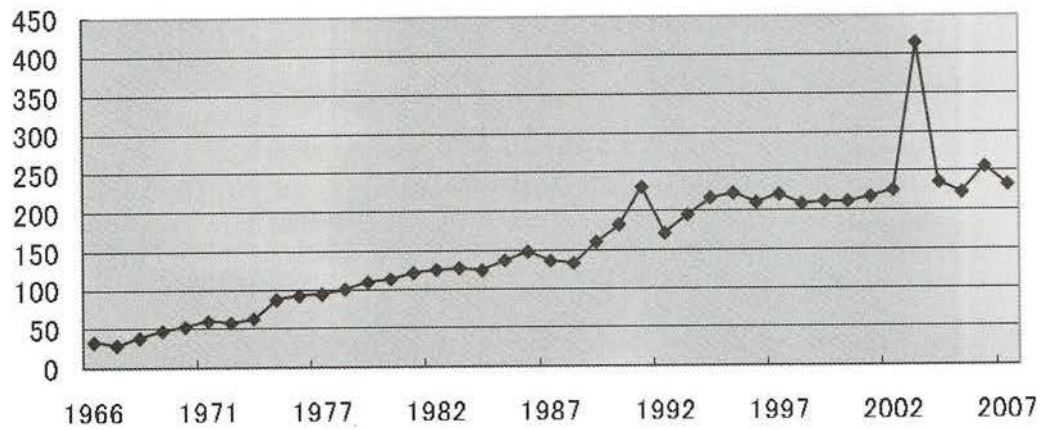


3 人口一人当たり資料費（円）

※決算値による。2007年度の値は『山口県公共図書館年報 平成19年度』による。

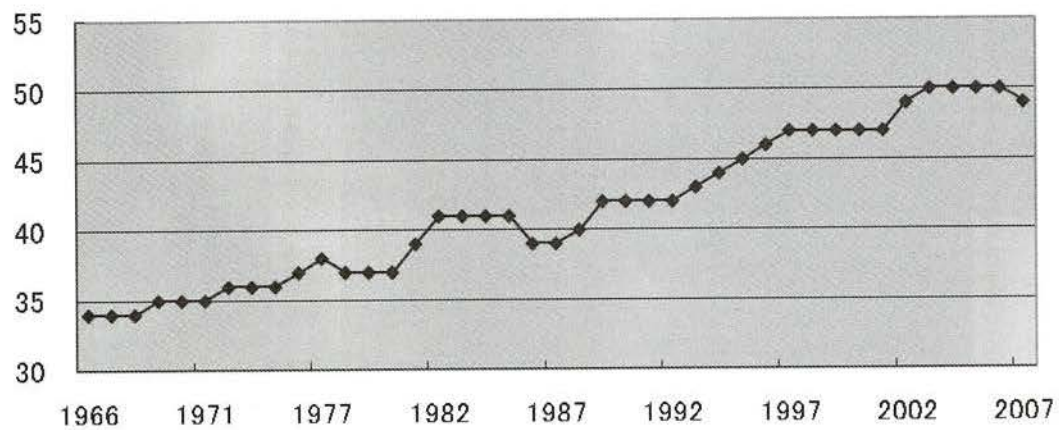


4 受入冊数（千冊）

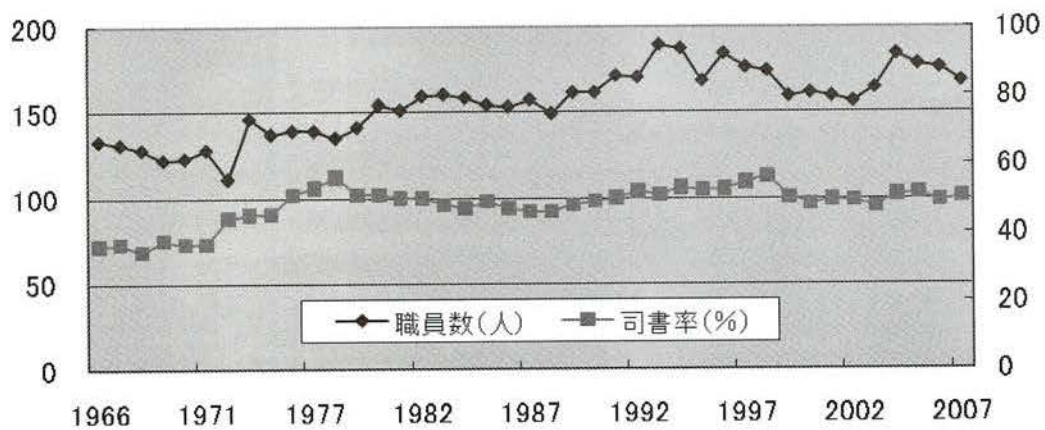


5 図書館数（館）

※分館・地域館を含む。



6 専任・正規職員数（人）・司書有資格者率（％）



山口県図書館協会創立百年記念誌編集委員会 委員一覧

松岡 孝史 (委員長)	山口県図書館協会
田澤 明子 (副委員長)	山口県立山口図書館
井関 和彦	山口県立山口図書館
上野 善信	山口県立山口図書館
新須 真一	岩国市美和図書館
松村真一郎	周南市立富田西小学校
三浦 博士	山口大学医学部図書館
藤村 聡 (参与)	山口県図書館協会

執筆分担

本文編

第1章 山口県図書館協会100年の歩み

第1項～第3項

田澤 明子

第4項・第5項

上野 善信

第2章 山口県内図書館のいま

第1項 公共図書館の概況

松岡 孝史

第2項 学校図書館の概況

松村真一郎

第3項 大学図書館の概況

三浦 博士

第4項 『やまぐち2010年の図書館像』による検証

井関 和彦

年表編

松岡 孝史

資料編

田澤 明子

グラフでみる山口県内公共図書館の推移

井関 和彦

山口県図書館協会創立100年記念誌

発行日 2009(平成21)年10月3日

編集 山口県図書館協会創立百年記念誌編集委員会

発行 山口県図書館協会

事務局 〒753-0083 山口市後河原150-1 山口県立山口図書館内

電話 083-924-2111 F A X 083-932-2817

印刷：桜プリント社



1901（明治34）年開館 阿武郡立萩図書館



1903（明治36）年開庫 私立児玉文庫



図書館振興県民のつとめ



2008（平成20）年開館 山口市立小郡図書館